

業務資料 No720

移住地概要

昭和58年度版

国際協力事業団

移住地
J.R
84-2

移住地概要

昭和58年度版

JICA LIBRARY



1019637L6J

国際協力事業団

国際協力事業団	
受入 月日 '84.5.17	600
	23.4
登録No. 10267	EPS

は し が き

この「移住地概要」は、昭和56年度に改訂を行なったが、その後南米等移住先国の経済、社会情勢が大きく変化しており、またこれに伴って日本人移住地の状況も変化を来しているため、可能な限り最近の情報に基づき、移住先国の経済社会基礎指標、移住地域概要、日本人移住の歴史と経緯の概要等に矯正を加え、また新規移住地の概要等を加えて今回改訂した。

なお、部分的には、まだ不十分な面もあると思われるが、今後の改訂課題とした。

本資料が、移住関係諸機関及び研究者の方々の参考となれば、幸いである。

昭和59年3月

移住計画調査部長

目 次

日本人移住地一覧表

ブラジル連邦共和国

1. 基礎指標	1
2. ブラジルへの日本人移住の歴史	4
I. ベレーン支部	9
1. 移住地所在地域の概要	10
2. アマゾン地域への日本人移住の歴史	11
3. 移住地概要	13
(1) 第1トメアス-移住地	13
(2) 第2トメアス-移住地	16
(3) グアマ移住地	19
(4) アカラ移住地	22
(5) モンテ・アレグレ移住地	25
(6) アルタミーラ移住地	28
(7) マタピ、カンボ・ベルデおよびマカパー市近郊(アマパー州)移住地	31
(8) サン・ルイス近郊移住地	34
(9) エフィゼニオ・サーレス移住地	36
(10) ベラ・ビスタ移住地	39
(11) トレーゼ・デ・モテンプロ移住地	42
(12) キナリー移住地	45
(13) その他主な移住地の概況	48
II. レシーフェ支部	51
1. 移住地所在地域の概要	52
2. 東北筋の日本人移住の歴史	53
3. 移住地概要	54
(1) ビオ12世移住地	54

(2) ビウン移住地	57
(3) リオ・ボニート移住地	60
(4) ウナ移住地	63
(5) カーボ移住地	66
(6) イツベラ移住地	68
(7) クビチェック移住地	71
(8) タペロア移住地	74
(9) その他主な移住地の概況	76
III. リオ・デ・ジャネイロ支部	79
1. 移住地所在地域の概要	80
2. 移住地の概要	82
(1) フンジャール移住地	82
(2) サン・ロレンソ小移住地	85
IV. サン・パウロ支部	89
1. 移住地所在地域の概要	90
2. 移住地の概要	95
(1) ジャカレイ移住地	95
(2) グァタバラ移住地	98
(3) ビニョール移住地	102
(4) ムンド・ノーボ移住地	105
(5) 桜・高森移住地	108
(6) アウリベルデ移住地	110
(7) バルゼア・アレグレ移住地	112
(8) 日光移住地	115
V. ボルト・アレグレ支部	121
1. 移住地所在地域の概要	122
2. 移住地の概要	124
(1) ラーモス移住地	124
(2) イボチ移住地	127

(3) イタチ移住地	130
(4) イタジャイ移住地	133
(5) カッサドール移住地	136
(6) バジェー移住地	139
(7) クリシューマ移住地	141
(8) サン・ジョアキン移住地	144
(9) イタブアン移住地	147
00 その他主な移住地の概況	149

アルゼンティン共和国

II. ブェノス・アイレス支部	153
1. 基礎指標	154
2. アルゼンティンへの日本人移住の歴史	156
3. 移住地の所在地域の概要	157
4. 移住地の概要	161
(1) ガルアベー移住地	161
(2) アンデス移住地	164
(3) エスペランサ移住地	167
(4) アルマ・フェルテ移住地	169
(5) ローマ・ベルデ移住地	171
(6) マルコス・パス移住地	173
(7) エル・パット移住地	176
(8) セラージャ移住地	179
(9) ラ・プラタ移住地	181
00 グレウ移住地	184
01 エル・チャニヤール移住地	187
02 パラデーロ移住地	190
03 ブェノス・アイレス市近郊移住地	193

パラグアイ共和国

VI. アスンシオン支部	197
1. 基礎指標	198
2. パラグアイへの日本人移住の歴史	200
3. 移住地所在地域の概要	201
4. 移住地の概要	204
(1) フラム移住地	204
(2) チェベス移住地	208
(3) アルト・バラナ移住地	211
(4) イグアス移住地	215
(5) ストロエスネル移住地	219
(6) アマンバイ移住地	220
(7) ラ・コルメナ移住地	223

ボリヴィア共和国

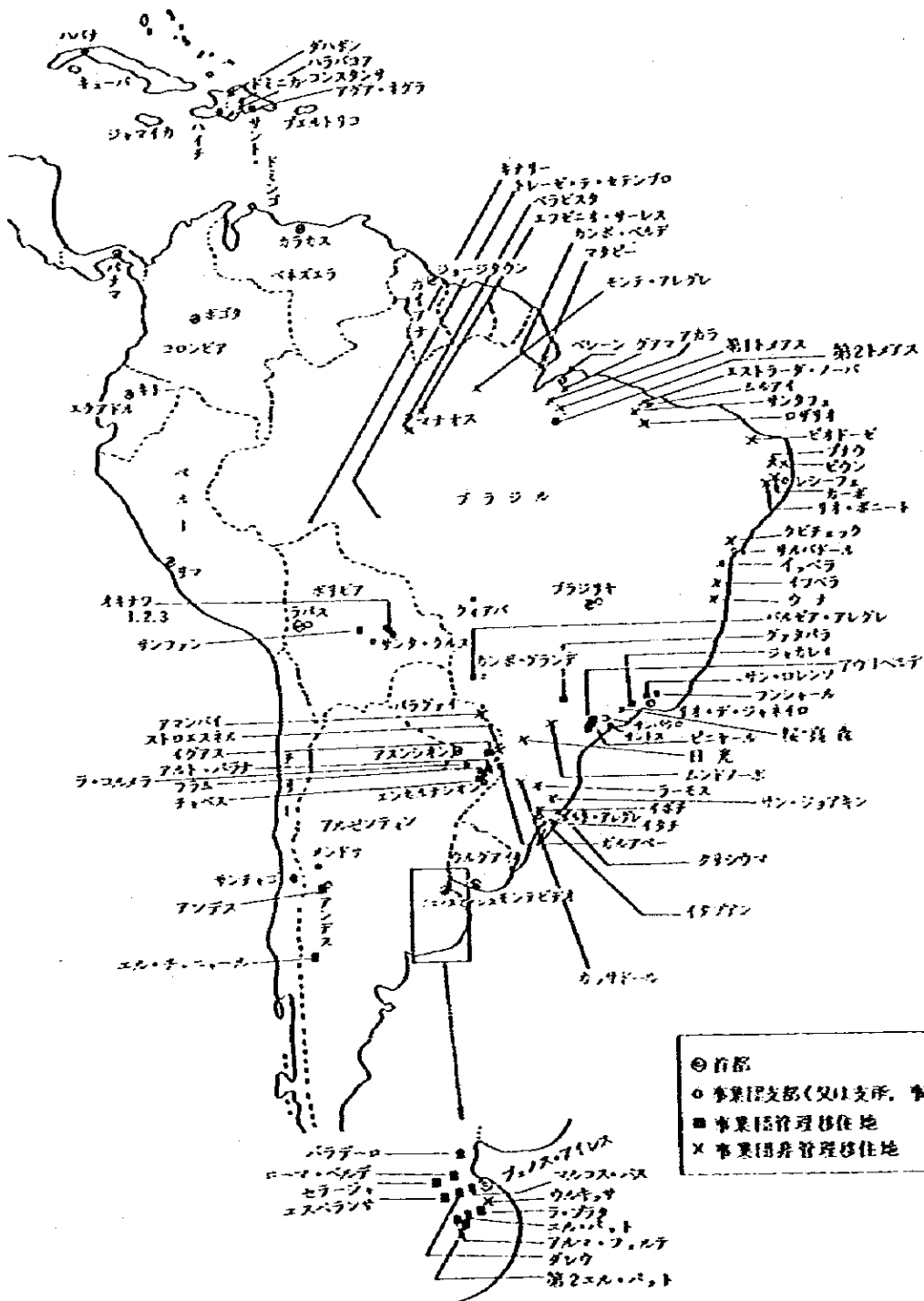
VII. サンタ・クルース支部	229
1. 基礎指標	230
2. ボリヴィアへの日本人移住の歴史	232
3. 移住所在地域の概要	233
4. 移住地の概要	235
(1) サン・ファン移住地	235
(2) オキナワ移住地	240

ドミニカ共和国

IX. サント・ドミンゴ支部	251
1. 基礎指標	252
2. ドミニカ共和国への日本人移住の歴史	254
3. 移住地所在地域の概要	255

4. 移住地の概要	257
(1) ダハボン移住地	257
(2) コンスタンサ移住地	260
(3) ハラバコア移住地	263
(4) アグアネグラ（アルタグラシアを含む）同地域移住地の概要	266
附録 移住地内日系団体一覧	269

日本人移住地一覧表



ブラジル連邦共和国

- I ベレーン支部
- II レシーフェ支部
- III リオ・デ・ジャネイロ支部
- IV サン・パウロ支部
- V ホルト・アレグレ支部

1. 基礎指標

首都：ブラジリア

面積	独立年月日	政体	宗教	言語	民族または人種構成	通貨
851,965 km ²	1822. 9.7.	連邦 共和国	カトリック 約89%	ポルトガル語	白人(54.8%)、混血 (38.5%)、黒人(5.9%)、アジア系(0.6%) 不明(0.2%)	Cruzireiro

出典：IBGE '80年鑑

(1) 人口、人口密度、人口増加率(1980)

人口	1960	1970	1971	1972	1973	1974
人口 (千人)	63,730	92,520	97,170	97,850	100,560	103,350
人口密度	8.19	10.87	11.42	11.50	11.81	12.11
人口増加率	3.0	2.9			2.9	

人口	1975	1976	1977	1978	1979	1980
人口	107,115	109,180	112,210	115,400	118,650	123,030
人口密度	12.50	12.83	13.19	13.56	13.91	14.45
人口増加率						2.48

出典：IBGE '80年鑑

(2) 産業別就業人口

産業	人口	13,796,763人	百分比	産業	人口	13,796,763人	百分比
農 業	13,109,115		29.9%	サービス業	3,011,900		6.9%
工 業	7,523,883		17.2%	運輸・報道関係	1,815,511		4.2%
自 由 業	7,089,700		16.2%	公務員	1,812,152		4.1%
商 業	4,111,307		9.1%	その他	2,138,753		4.9%
建 業	3,151,091		7.2%				

出典：IBGE '80年鑑

(3) 国民所得(GDP)

所得	1975	1976	1977	1978	1979
国民所得総額	996,361	1,535,411	2,281,707	3,313,931	5,511,651
1人当り国民所得	9,200	13,913	20,156	28,730	46,061

所得	1980	備考
国民所得総額	5,782,000	百万円
1人当り国民所得	46,996	円

参考データ：IBGE IBGE '80年鑑及びARCレポート1981

(4) 国内総生産

単位10億Cr \$、%

産業	1973		1974		1975		1976	
	額	比率	額	比率	額	比率	額	比率
農 業	44.3	11.0	65.7	11.2	87.8	10.5	131.7	10.7
鉱工業	11.5	2.9	19.3	3.3	29.6	3.6	41.8	3.3
製造業	118.8	29.5	179.3	30.5	251.9	30.2	380.3	29.6
建設業	22.9	5.7	35.0	6.0	47.1	5.7	70.7	5.5
卸小売業	61.7	16.1	95.8	16.3	132.8	15.9	201.3	15.7
運輸業等	21.0	5.2	29.7	5.1	42.6	5.1	66.8	5.2
その他	119.2	29.6	162.0	27.6	241.9	29.0	381.8	30.0
合計	402.4	100.0	585.8	100.0	831.0	100.0	1,283.4	100.0
産業	1977		1978		1979		1980	
	額	比率	額	比率	額	比率	(注) GNP	
農 業	236.8	12.4	320.7	11.4	537	11.7	5,782	
鉱工業	59.4	3.1	83.6	3.0			(2,432.4億ドル)	
製造業	513.8	28.5	797.6	28.3	1,512	32.8	1人当りGNP	
建設業	108.9	5.7	161.0	5.8			46,991 Cr \$	
卸小売業	296.7	15.5	430.1	15.2	41,718	437.3	(2,000ドル)	
運輸業等	97.7	5.1	157.5	5.6	839	18.2	1\$ = 23.77Cr \$	
その他	566.7	29.7	865.9	30.7	-	-		
合計	1,910.0	100.0	2,819.4	100.0	4,606	100.0		

(注) ◇: サービス, その他を含む。

出典: ICGE '80年表及びARC
レポート1981

(5) 物価指数

物価	1973	1974	1975	1976	1977	1978	1979	1980
卸売物価	60.85	78.58	109.00	143.27	201.08	289.82	437.76	903.88
消費者物価	60.76	77.55	100.00	142.04	201.08	283.06	432.24	790.20
物価	1981							
卸売物価	1,881.7							
消費者物価	1,624.2							

出典: 海外経済協力委員会 1983

(6) 輸出入構成(主要商品)(1981年)

(単位:百万ドル, FOB)

輸出価額		輸入価額	
品目	価額	品目	価額
第1次産品		工業製品	
コーヒー豆	1,517	機械, 設備	4,023
大豆しぼりかす	2,136	石油製品・潤滑油	11,340
金属鉱石	1,973	化学肥料	353
粗糖	579	有機質化学製品	804
工業製品		グレイン	1,077
大豆粗油	503	鉄, 鋼鉄	735
製紙パルプ	363	非鉄金属	497
はきもの類	586	無機質化学製品	315
産物, 機械, 機器	1,547	光学機器	342
電気・電気製品	566		
運輸機器	2,066		
有機化学製品	422		
製鉄製品	801		
みかんジュース	659		
合計	13,718	合計	19,486

出典: ブラジル経済情報(1982)

(7) エネルギー

国家アルコール計画の総見直し

(1,000kL)	76/77	77/78	78/79	79/80	80/81	81/82	82/83
供給							
当該年の新規生産量	70	545	412	530	316	442	254
総生産量	796	1,615	2,027	2,557	2,837	3,315	3,569
消費							
ガソリン混入用無水アルコール	290	1,109	1,439	1,840	2,068	2,425	2,610
工業用その他	506	506	588	717	805	890	956
生産能力							
北・北東部	211	431	516	635	697	774	899
中・南部	809	1,318	1,779	2,149	2,480	2,766	2,897
ブラジル合計	1,020	1,750	2,295	2,784	3,177	3,540	3,796

出典: 商工省工業技術局(STI) 国家アルコール委員会(CNAL)

1次エネルギーの消費見直し

(石油換算1,000トン/年)	消 費 量			構成比(%)		
	1980	1985	1987	1980	1985	1987
石 油	50,269	58,478	64,477	40.6	35.0	34.2
天 熱 ガ ス	677	1,172	1,268	0.6	0.7	0.7
ア ル コ ー ル	2,479	3,541	3,941	2.0	2.1	2.1
オ イ ル シ ョ ー ル	-	1,154	2,310	-	0.7	1.2
水 力 発 電	34,066	57,816	65,516	27.5	34.6	34.8
石 炭	5,736	10,004	11,244	4.6	6.0	6.0
薪 木	20,265	19,272	18,888	16.4	11.6	10.0
蔗 類 植 物 の 茎	6,168	8,405	9,224	5.0	5.0	4.9
木 炭	2,939	3,600	3,600	2.4	2.2	1.9
原 子 力	1,114	3,517	7,761	0.9	2.1	4.2
合 計	123,713	166,959	188,229	100.0	100.0	100.0

出典:WEIS「中南米石油の現状と将来」

(注)本資料はARCレポート1981より抜粋

2. ブラジルへの日本人移住の歴史

日本人のブラジル移住は、ドイツ人(159年目)イタリア人(109年目)のそれに対し、75年目を迎えているが、およそ次の4期に分かれる。

(1) 第1期(1908-23年) 31,291人

日露戦争後の海外発展熱、農村の過剰人口と不況に加え、北米の移住制限が重なる一方、ブラジル・イタリア移民の減少によって、コーヒー園労働者としての需要が高まり、サンパウロ州政府の奨励策によって始められた。

移住者の大半は出稼ぎ目的の農村出身者であり、コーヒーコロノとして始まり、次第に植民地建設に参画された。初期の主な移住地は次のとおり。

- ピリグイ 移住地(英怡植民地) 1913年設立
- イグアッペ 移住地(桂レジストロ、セッテパラスの総称) 1913年設立
- 平野 移住地(カフェランジャ) 1915年設立
- ブレジョン 移住地(アルヴァレス・マッシュード) 1917年設立
- 上塚 移住地(プロミッソン) 1918年設立

(2) 第2期(1924-41年) 118,737人

大正末から昭和初期の日本国内の経済不況を反映する一方、日本政府の海外発展政策により政府奨励金全額補助が制度化され、この時期は、ブラジル移住の黄金期ともいえる。サンパウロ州奥地ともとり、1930年代には、北パラナ州へも進出し、今日の基盤を築いた(昭和8-9年には、この移住者数は2万名をこえた)。海外発展KK、ブラジル拓殖会社などによって、移住地建設が進められた。主な移住地は次のとおり。

アリアンサ 移住地 (1924年設立) 野村農場 (1927年設立) パンデランテス
 バストス 移住地 (1928年設立)
 チェテ 移住地 (1929年設立) 東山農場 (1927年設立) カンピーナス
 トレス・バーラス 移住地 (1932年設立)

一方1929年には、南米拓植会社によって、アマゾン移住 (現在の第1トノアス) が始められ、1937年
 でK、352戸 (2,101名) が移住した。この時期にアマゾニア産業研究所 (上塚司) 引受けの高拓生
 (国士館高等拓殖学校、後の日本高等拓殖学校) 移住もすすめられた。

更に、コチア産業組合 (1927年)、南ブラジル産業組合 (1929年)、サンパウロ産業組合中央
 会 (1939年) が次々と創立された。バルガス大統領時代に、ブラジル総合政策が推進され、その一
 環として外国移民2分割限法 (1934年) によって、日本人移住は年間2,849名に制限され、一方、
 1才未満の子弟への外国語教育禁止令 (1938年) によって、子弟への日本語教育も禁止された。
 1941年の第2次大戦によって移住は途絶し、まさに空白期 (11年間) を迎えた。

この間移住者の大部分は第二次大戦終了後帰国を断念して永住を決意し、子弟の教育に力を入れ、
 入学進学も漸増した。

一方日本の敗戦に対し、勝ち組、負け組の紛争もあり日系社会に暗い影をおとした。

(3) 第3期 (1952年-1973) 50,666人

戦後復興と化した国上と、外地引揚及び復旧者約630万人を含む過剰人口を抱え、苦難期を迎えた日本
 も1952年サンフランシスコ平和条約による国交回復によって、海外移民熱が高まった。

1952年8月、アマゾン移住5,000家族 (辻小太郎幹) と、中央ブラジル移住4,000家族 (松原安太郎幹)
 がブラジル政府より受入を許可され、1952年12月のアマゾン移住 (51名) によって11年振りに移
 住が再開された。在いで、パウリスタ養蚕移民 (1953年)、コチア青年移民 (1955年) がすすめら
 れた。

日本では、日本海外協会連合会 (1954年)、海外移住振興株式会社 (1955年) が設立され、大々
 現地機関を設け、ブラジルの連邦・州の植民地への自営開拓農業移住をすすめる一方、又日本領の直管
 として次の移住地が創設された。

移住地名	創設年	面積
バルディア・アングレ移住地	1957年	36,363ha
グェタバラ	1958年	7,291
フンショール	1959年	1,015
ジャカレイ	1959年	613
ピニョール	1962年	755
第二トノアス	1962年	25,800
アウリ・ヴェルデ	1977年	418

ブラジルの工業化に伴い、1961年から、従来の農業移住 (自営開拓農と雇用、分益農方式) に加えて
 新たな工業技術移住が始められ1,800名以上が移住した。

なお、1973年4月から移住者の送迎も従来の船による輸送から航空機へ切替えられた。

国名	1977年(1977)			1978年(1978)			1979年(1979)			1980年(1980)		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
ブラジル	1846	839	2685	48	35	83	1929	860	2789	3619	3809	7428
アメリカ	261	229	490	3	0	3	160	230	390			
フランス	4384	4620	9004	87	87	174	4559	4581	9140			
ドイツ	51211	45553	96764	2248	9710	11958	59559	67913	127472	328885	314374	643259
イタリア	272	183	455	0	0	0	312	183	495			
スペイン	915	789	1704	215	158	373	749	685	1434			
ポルトガル	1355	1583	2938	6	6	12	1781	1559	3340			
ベルギー	1591	1827	3418	141	54	195	9757	1533	11290	2471	2489	4960
スイス	2	1	3	0	0	0	2	1	3			
オランダ	68	27	95	0	0	0	48	57	105			
デンマーク	235	199	434	3	0	3	235	199	434			
スウェーデン	1831	745	2576	53	38	91	884	769	1653	8865	1333	10198
ノルウェー	11	8	19	0	0	0	11	8	19			
フィンランド	426	503	929	181	63	244	525	468	993	749	771	1520
韓国	65	38	103	0	0	0	65	38	103			
ニュージーランド	457	274	731	288	248	536	323	84	407			
オーストラリア	2332	1520	3852	692	549	1241	1616	1174	2790	4371	4742	9113
ニュージーランド	18	18	36	3	1	4	7	9	16			
ニュージーランド	22	19	41	5	0	5	52	38	90			
ニュージーランド	2	2	4	0	0	0	2	2	4			
ニュージーランド	481	327	808	37	35	72	497	332	829			
ニュージーランド	28	22	50	4	1	5	22	18	40			
ニュージーランド	188	138	326	14	6	20	188	138	326	886	882	1768
ニュージーランド	49	21	70	1	1	2	18	20	38			
ニュージーランド												
ニュージーランド	37	31	68	0	0	0	37	31	68			
ニュージーランド	14	13	27	0	0	0	14	13	27			
ニュージーランド	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
計	69187	61976	131163	2825	2362	5187	65252	55216	120468	282570	228753	511323

出典：国別労働者移住統計表（労働省）（労働省）（労働省）

(注) 1977年10月1日現在、1978年10月1日現在、1979年10月1日現在、1980年10月1日現在

(4) 第4期(1974～現在) 2,553人

1970年代に入りブラジルの国内経済、社会情勢も大いに成長、変化を来した。このまな情勢の変化に伴い、ブラジル政府は、外国人移住者の受け入れについて選択政策強化に転換する態度をとり、1981年には新外国人法が制定される等移住者選別は強化される傾向にある。そして、其後ブラジル経済の悪化もあって、特に工業技術移住者のブラジルへの投給は大きく減少しているが、ブラジル製の状況が好転すれば、再び増加する可能性もある。この間1981年9月30日事業団のブラジル2法人(ジャミック及びジュミス)は、ブラジル政府と協議台意の上参収した。

I ベレーン支部

1 ベレーン支部

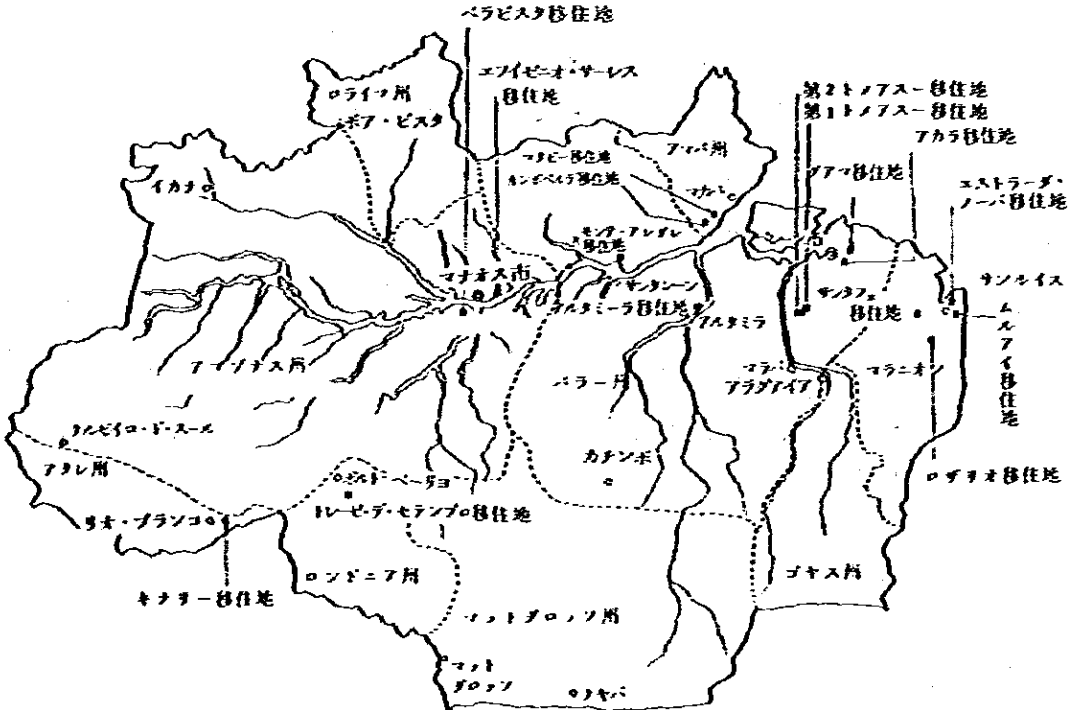
支部機構

ベレーン支部(ベレーン市)

- マナオス支所(マナオス市)
- 第2トマス-事業所(第2トマス-移住地)
- アマゾニア熱帯農業総合試験場()

管轄州

パラ、アマゾナス、アクレ、マラニオン、ピアウイ、ロンドニアの6州、アマバ、ロライマの2直轄州及びゴヤス州北部



1. 移住地所在地域の概要

支轄地域	<p>パラ州、アマゾナス州、アクレ州、マラニオン州、ピアウイ州、ロンドニア州、ロライマ直轄州、アマパ直轄州、ゴヤス州の一部</p>
自然環境	<p>地質：地勢はギアナ山系のブラジル中央高原に開かれた巨大な沈積地である。アマゾン盆地の土壌はアマゾン高原が鮮新世～更新世(洪積世)の時代のもので、海抜は西部で150～250m、東部ではそれより低く、地表産は厚さ10～20mの均一で重粘なBellerra粘土からなっている。最も普通で分布している土壌は、サンショク・フェラルソル(Fx)で排水の不完全な部分はブリ・ソック・アクリソル(Ap)で、セラードの植生をしている。また、種々の平坦面の洪積段丘の地帯は、Fxの土壌であるが、土性は多様で、東部程砂質である。低い段丘には粗粒質の酸性砂土(A.P.)及び結核型Fxが分布し、一部の段丘には、インジオの黒い土と呼ばれる土壌がある。</p> <p>気候：赤道の南北にまたがる高温多湿の熱帯多雨林型気候で12～6月頃が雨期、7月～11月頃が乾期である。但し雨期の雨の降り方、雨量、乾期の乾候の程度は地域により多少異なり、例えば、マラニオン州の一部は海洋性気候で年間を通じて雨が比較的均等に分布し、又ボリヴィアとの国境、ローライマ州のタイアノなどは、ベレーンとは雨期、乾期が数ヶ月ずれる。気温はベレーン市の年間平均で27.1℃、日較差平均19.8℃、湿度88%。</p> <p>アマゾン河：ベレーン領のアンデス山中に、その源を発し、本流の長さは6,400km(マカパ河川)である。またアマゾン河全体の河川延長は40,031kmでその水量(1秒間8万立方メートル)及び流域面積の広さは世界第1位である。</p>
主要都市	<p>〔ベレーン市〕 南緯1°28'03"、西経48°29'18" 海抜19m、面積796km²、河口より138kmの地点に所在、1916年1月12日創立のアマゾニア開発庁(SUDAM)、北部農業試験場(EMBRAPA)、パラ食糧供給センター(CEASA)、国立パラ総合大学、国立パラ農科大学、私立大学2校、植民館、日伯保護協会、協会直営のアマゾニア病院などがある。</p> <p>〔マナオス市〕 南緯3°08'07"、西経69°01'34" 海抜21m、面積11,397km²、1956年創立、ベレーン市より河川路上1,713km上流にあり一万吨級の外洋船が入港できる自由貿易都市である。19世紀後半にはゴムの景気によって一時大いに繁栄し、その遺産としてマナオス新港がある。しかしその後衰退したため、アマゾニア西部地域開発振興策の一環として昭和42年アマゾナス州、アクレ州、ロンドニア州がフリーゾーンとして創設され、それらの移住人港として、マナオス港が指定された。なおフリーゾーンの期間は30年間である。この地域に生産している日系企業にGENTER, SANYO, SHARP, SPRINGER, HONDA, ORIENT などがある。 (NATIONAL)</p>

農 業

アマゾンの農業は、土地利用の形態から、ヴァルゼア(低湿地)の農業、テラフィルム(丘陵地)の農業、ヴァルゼアとテラフィルムを併せもつ農業に区分される。ヴァルゼアの農業は、アマゾン河及びその支流、河岸の浸水地帯で行なわれるもので、植物はマングローブ、その他の浸水林であり、草原である。増水期の氾濫水により河川や低地帯、テラフィルムから流入する浮遊物、粘土物質が堆積される。ただし、河口から200km程度までは雨期の増水の影響よりも乾期の干涸に支配される。いずれにしてもこれらの産物泥土によって肥沃な沖積土壌の地域となっている。しかしながら現年栽培はできない。主な作物は米、豆類、トウモロコシ、苜蓿、ジャム、パルミット及び牧畜に利用されている。テラフィルムはアマゾン地域の98.5%を占める地帯で土地は、砂漠上に大崩され大半はやせているが部分的にはテラ・ロッシュの肥沃地もある。開発が遅れ、まだ大部分は原始林であるが、トランス・アマゾニカの開通を機に開発が進み環境破壊が問題視されている。この地域ではゴム、パラ、ココ、マンジョーカ、ガラナ、マルバ、樹が主な作物である。

- ・アマゾナスの主な産物 パラ、ガラナ、ゴム(スモーク、シート)、ジャム
- ・パラ州 木材、パラ、ゴム(ラテックス)、パルミット、ジャム、ココ、マンジョーカ、パイナップル、メロン
- ・アクリ州 ゴム(スモーク、シート)
- ・ロンドニア ゴム()

工 業

連邦政府はアマゾン流域の開発を、工業面においても促進するため、ベレーンにアマゾニア開発庁(SUDAM)を設け、またアマゾナス州の工業開発を促進する為にマナオス市を中心とする地域を自由貿易地域とし、輸入原料に対する関税を免除する事によって、工業化を計っている。しかしながら、基幹工業は見るともなものがなく、ベレーンを中心とする地域の製造加工業、並びにマナオスを中心とする家庭電気工業が主体となっている。現在工事中のツクルイ発電計画とこれに伴うボーキサイト開発計画、アルミ精錬計画、カラジャス鉄鉱山開発計画等、大規模な計画が1984年～1985年創業を目途に進められている。

2. アマゾン地域への日本人移住の歴史

アマゾン地域における日本人移住の歴史は1929年に始まる。この間におけるその活躍の跡は目覚しく緑の魔境と呼ばれたこの辺境の開拓、開発に幾多の犠牲を払いつつ奮闘した我が邦人の業績はすでにブラジルでは高く評価されることとなっている。この邦人の栄光はアマゾンにおける二つの産業によって代表される。その一つはアマゾニア産業研究所の引き受けによる真等拓殖学校卒業生を中心とした、アマゾン中流地帯のジャム(異株)であり、もう一つは南米拓殖会社を中心とした下流地域のトマスーにおけるビノムタード・レイノ(胡椒)である。いずれも苦難の道を進み現在に至っている。このうち、ジャムは栽培の面ではすでに邦人の手から離れている。しかし依然としてアマゾン地域における大きな産業であることに変わりはない。一方、胡椒はアマゾン地域の邦人移住者約2,200戸、10,500人の主要産物であって、今日それに対する依存度は高く、殆どどの移住地が多かれ少なかれ胡椒栽培を営んでおり、しかもブラジル人によ

る栽培も増加してきた。しかし、地域により胡椒の病害大発生のため、近年新しい宮農形態として胡椒の他に蕉菜、スペインメロン及びハワイパイヤがあり、南ブラジル市場に大きなシェアを占め、且つこれが汗水となって地元産の熱帯作物（マラクジャ、カカオ、ゴム）及び養蠶、養紙などが導入され普及しつつある。この様に、アマゾン入植の日本人によって育てられた農産物は、今日アマゾンの中心産業としてブラジルの蕉菜の一翼を担い且つ国際的産物としての評価も高い。このような姿こそ海外移住の意義を実地に発揮した生きた例証といえよう。

5. 移住地概要

(1) 第1トマス移住地

所在地	パラー州トマス MUNICÍPIO DE TOMÉ - AÇU, ESTADO DO PARÁ
面積	約 150,000 ha
概況	<p>昭和1年南米拓殖株式会社の移住地として発足、同年7月神戸発出港のモンテ・ビデオ丸で移住した13家族がはじめて入植、その後戦前852家族(2,101人)の入植をみたが農業上の失敗やマラリアの発生等により退耕者が多く、89家族が定着した。</p> <p>戦後は昭和28年に入植が再開され、同年に29家族が入植、以後現在日259家族1,128人が在住している。</p> <p>戦前移住者の大部分は会社から土地分譲を受けて入植したが、戦後は戦前移住者の農場の雇用契約終了後、雇用主の援助又は事業経験等により独立するケースが多かった。</p>
地形・地質・土壌・植生・林相・気候	<p>地形 標高11~30m(平均20m)概ね平坦地区内をアカラ川の支流アカラ・ミリー河、トマスス川、及びマリキータ川等大小の河川が横断している。</p> <p>地質・土壌 ラテライト系の肥沃度中程度の土壌で、表土は比較的有機質に富む暗灰色砂壤土、礫壤土。</p> <p>植生・林相 熱帯性原生林に覆われ、アンジェリン、イペー、アカブー、マサロンドウーバ、ジャラナ等の有用材も混在している。</p> <p>気候 熱帯性の高温多湿なるも(年間平均27.2℃、最高31.4℃、最低20.9℃)、ベレーン周辺よりは乾湿の変化が顕著である。雨季は12~5月、乾季は6~11月、平均年間降雨量2,500mm。</p>
主要都市への交通手段	<p>道路網の開発が遅れたため、往年唯一の交通路であった270kmの水路(アカラ川)は殆ど利用されていない。また一昔前に盛んであった空路テコテコ便も客が少なくなったため、定期便を廃線としている。</p> <p>一方、陸上交通は、北へはトマス→コンコルジア→ブジャム→(フェリーで渡河)→サンタ・イザベラ→ベレーンに至る全長約220kmの州道PA140号線と、トマス→コンコルジア→(フェリーで渡河)→ワレンタ・エ・オイト→ベレーン→ブラジリア国道→ベレーンに至る全長約320kmの州道PA252号線の2本と、南へは第2トマス入植地を経由、パラゴミナスでベレーン・ブラジリア国道に接続の全長約100kmと合計3本の交通路が開かれている。ベレーン・トマス間定期バスも1日4往運行している。</p> <p>市場 最寄りの市街のベレーン市は、人口93.4万人(1980年調査I.B.G.Eより)を擁</p>

社 会 環 境	地区内道路整備 状況	る赤道下としては世界最大の都市で、産物の大半がここで消費、または州外移出や 国外輸出がされている。 トリアスの主産物であるビモンタヤカカオは、大半が輸出向けで、北米、ヨーロ ッパ、アルゼンティン等が主な市場となっており、メロン、バナナ、マラクジャ等は 生果用として主にリオ、サンパウロへ、加工用としては、パイ、フェルトレーザ 等広く南緯諸都市を市場としている。 幹線は一部アスファルト舗装であるが全道砂利道の州道、支線は袋土である。							
	電 気	49年11月アグアブランカ地区に発電所が完成。(第2トリアス移住地には及んで いない) トリアス・十字路間区において配電工事中(三相13800ボルト60サイクル)							
	飲 料 水	飲料水は15m~25m程度の深さで水を得ることが可能であり、自家掘り井戸で 飲んでいる。							
	公 共 施 設 費 協 自治会等	組合事務所本館1(3層レンガ建)、倉庫1、乾燥機1、発電機1、給水施設1、 組合購買部、食料・肥料部各1、機械修理所1 昭和49年11月には州立病院が完成し、医療業務にあっている。この他個人経 営病院2、診療所3、薬局4がある。 小学校1校、寄宿舎1棟(以上事業団援助) 州立小学校(1年生迄)3校の他、私立小学校10数校(低学年用)及び州立中学 校(5年~8年生)2校がある。 文化協会本部、別館、総合グラウンドが十字路にある。 日本語学校:第1トリアス校(教師4名、生徒133名)、ブレウ分校(教師1、 生徒41)イビランガ分校(教師2、生徒38)(昭和58年8月現在)							

入植戸数と人員
(内地)

年 度	28	29	30	31	32	33	34	35	36
戸 数	29	77	71	6	6	6	6	30	35
人 員									
年 度	37	38	39						
戸 数	4	1	1						
人 員									

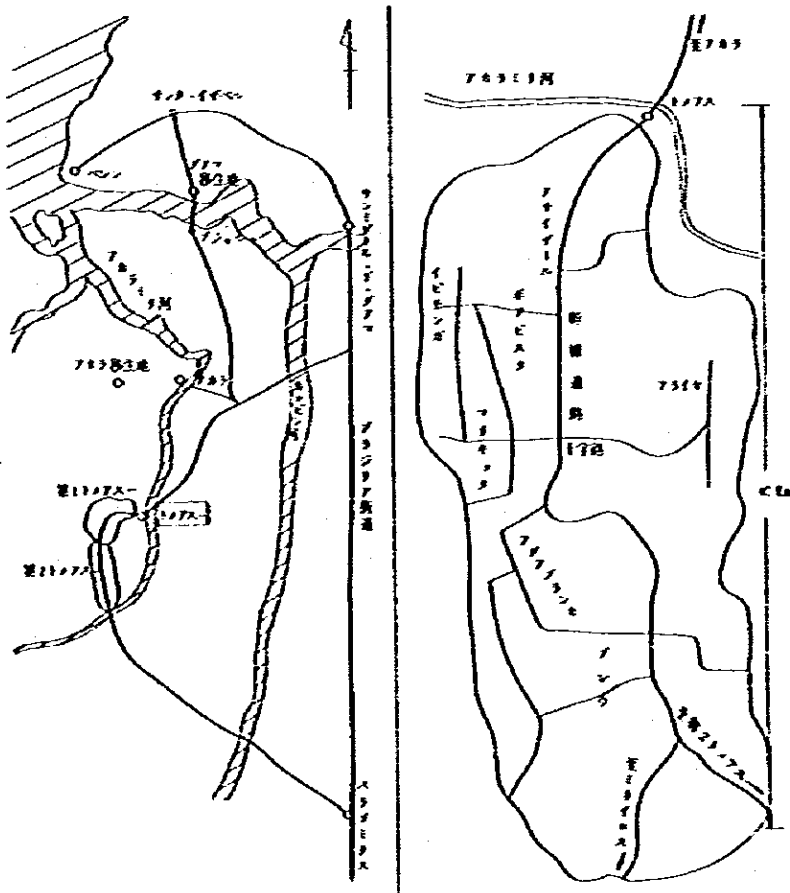
入植世帯数

区 分	入植世帯数	入植世帯数		農家戸数	
		戸 数	人 員	戸 数	
	日 本 人	居 住	259	1,128	
	非居住	-	-	5	
	計	259	1,128	254	

昭和58年4月1日

分級 状況	総面積	約150,000 ha
	ロット面積	標準20 ha
農 業	主作物	ココウ、カカオ、マラクジャ、パパイヤ
	形態	ココウ-辺倒のモノカルチャー農業から、カカオ、マラクジャ、パパイヤ、ガラナ等の熱帯果樹や養鶏等を取り入れた複合経営に変わりつつある。
	農具の普及状況	トラクター1.3台、トラック0.7台他(昭和55農年度)
	家畜飼養頭数	肉牛1.6頭(成1.0・仔0.6)、豚3.7頭(成1.9・仔1.8)、その他、馬、ヒツジ
果	営農指導	トナス総合農業協同組合(CANTA)、トナス農村振興協会(ASFATA)、パラ州農村技術援助普及公社(EMATER-PARA)、事業団アマゾン熱帯農業総合試験場(INATAM)
	金融機関	銀行

地区略図



(2) 第2トマス移住地

所在地	パラー州トマス郡 MUNICÍPIO DE TOME - ACU, ESTADO DO PARÁ	
面積	25,809 ha	
経緯	昭和34年トマス産組は、同移住地入植30周年の記念事業として、後援移住者を受け入れ、ピノクタの増産を図ることを目的とし、新たな移住地の開設を計画した。この事業は、その後田移住振興会社が引継ぎ、昭和35年末田パラー州有地の譲渡を受け、直営移住地として移住地の建設が始まった。移住地へは昭和38年と8家族が入植した。現在125家(561人)が定住している。	
自然環境	地形 地質・土壌 植生・林相 気候	第1トマスと殆んど同じ
社会環境	主要都市への交通手段 市内 地区内道路整備状況 電 気 水 公共施設 組合その他	トマスと隣接し、昭和48年移住地内にトマス～パラゴミナス間州道PA256号線が敷設された事から道路事情は第1トマスと準ずる。十字路、トマス向けは1日4往復がある。 第1トマスと同じ 47年に第2トマス～パラゴミナス間州道PA256号線が開通し、続いて域内及び第1トマス幹線道路、ブジャルー経由州道PA140号線等が次々と巾目10mアスファルト舗装で完成し、道路状況は良好となっている。域内支線も車対向の手元より全線砂利舗装している。 ～57年度にわたり総額110,423千円を補助した。また、第3トマスに対しては道路用機械購入費として昭和52～55年度にわたり総額115,795千円を補助した。 電気は自家発電(110ボルト使用) 電化は目下INCRAにて農村電化計画に折り込むべく検討中。 井戸水(18-25m)豊富な水量がある。 小学校(イピランガ小学校:教師5名、生徒65名、内日系人30名、エスペランサ小学校:教師5名、生徒58名、内日系人10名)、日本語学校(教師3名、生徒42名)(昭和58年8月現在)、教員宿舍6棟、診療所1ヶ所(医師1名、看護婦3名)、医師宿舍1棟、看護婦宿舍1棟、診療所職員宿舍1棟、警察所2ヶ所、移住者宿泊所2棟 公民館1(1974年3月完成)、青年会館、総合グラウンド1(以上事業経費助) 出立場1、組合支所1 中学校は地区外トマス町及び十字路に各1校あり、スクールバス(JICA貸与)にて通学している。

人植戸数と 人員(内地)	年度	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46
	戸数		8	2	4	17	11				1
	人員		37	16	23	72	42				2
	年度	47	48	49	50	51					
戸数	5	2		5	3						
人員	17	8		17	12						

主な出身県名：青森、宮崎、栃木、秋田、東京、山形、群馬、広島

昭和53年10月現在

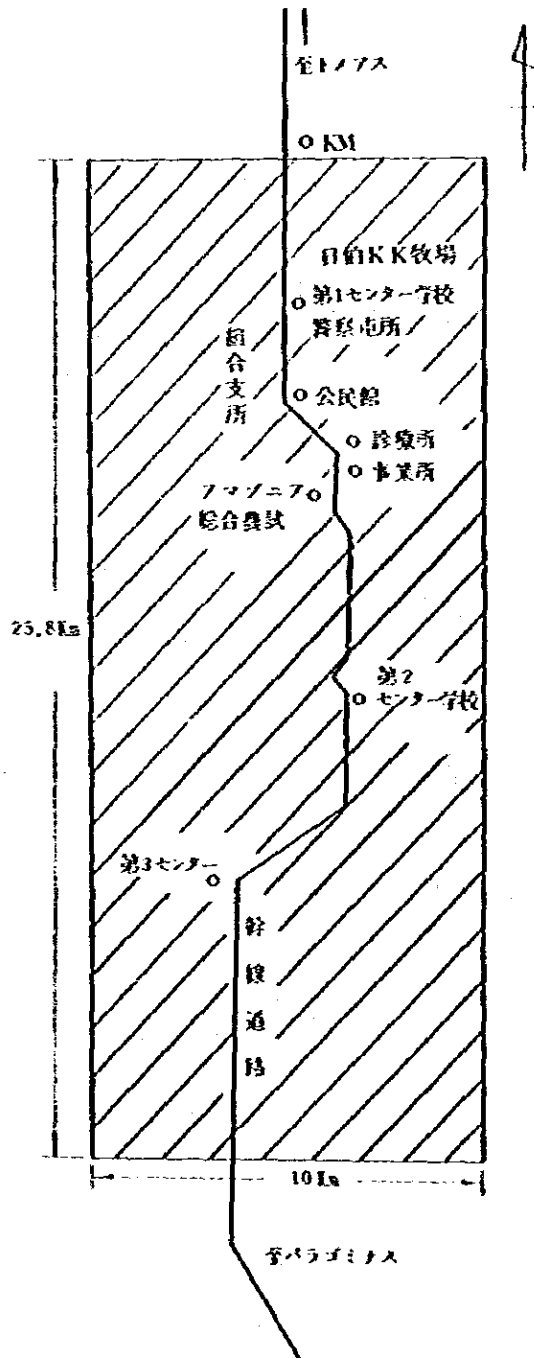
人植世帯数	区分		人植世帯数		農家戸数
			戸数	人数	戸数
	日本人	居住	125	564	125
		非居住	-	-	-
		計	125	564	125

昭和58年4月1日現在

分譲状況	総面積	26,800ha		
	ロッテ面積	標準26ha		
	分譲条件及び価格	(一括払)大口250~1,250千円、大型250~400千円、小型125~250千円 (分割払)頭金10千、据置き2年分割払、利息12%		
	分譲可能面積	24,277.8ha(655ロッテ)		
分譲状況	分譲積面積	未分譲面積	保有地等(分譲を含む)	
	20,926ha(596ロッテ)	3,351.8ha(59ロッテ)	1522.2ha	
地権取得	596ロッテ中 取得済312ロッテ 未取得254ロッテ(内、申請中8ロッテ)			
				58年3月末現在

農果	主作目	コショウ、カカオ、マラクシャ、パイナップル
	形態	第1トノアス移住地と同様にコショウのモノカルチャーから複合経営に移行しつつある。
	農具の普及状況	トラクター1.2台、トラック0.6台(昭和57農年度)
	家畜飼養頭数	肉牛(成0.9・仔0.6)、豚(成1.2・仔1.9)、鶏、ミツバチ、ヒツジ
営農促進機関	アマゾン熱帯農業総合試験場、協力機関としてブラジル農林研究公社(EMBRAPA)	
普及指導	パラ州農村技術援助普及公社(EMATER-PARÁ)	
金融機関	カカオ栽培計画実行委員会(CEPLAC)、トノアス総合農業協同組合、トノアス農林振興協会	
	銀行	

移住地略図



(3) グアマ移住地

所在地	パラ州サンタ・イザベル郡、イニヤンカピー郡 MUNICIPIO DE SANTA ISABEL, INHANGAPI ESTADO DO PARA	
面積	33,510 ha	
経緯	グアマ河（アマゾン河の支流）沿いに創設された連邦直営の混合移住地で、当初連邦としてはアマゾン地帯開発の一環としての大規模地帯の造成を考えたものであった。この地区への入植は、昭和30年ベルテラゴム嶺からの転住者を皮切りに日本からも100戸以上が移住したが、連邦が行うことになっていた排水溝の建設等基本的工事が果されなかったため、移住者の多くが転出した。現在は道路網の整備、作付転換により安定してきている。	
自然環境	地形 地質・土壌 植生・林相 気候	標高0～30m アマゾン河支流のグアマ河右岸 標高10m前後の高台である。また、河沿いに500m前後の低湿地が分布している。 高台は、黄色ラテライト土壌で比較的砂が多い。 原生林、一部原始林、常緑熱帯雨林に枝われ、多種多様な樹種が幾重にも重なって構成されている。 雨期1月～6月 乾期7月～12月 年間平均最高31.8℃、平均最低22.2℃ 年間降雨量2,185mm
社会環境	主要都市への交通手段 市場 公共施設 地区内道路整備状況 電気・飲料水	ベレーンから、フェリー渡村口（ブジョールを経てアカラ、トノアス河向う）カラバルまで陸路62kmアスファルト舗装の州道が昭和49年開通した。 ベレーン市が消費市場。蔬菜・果実類はベレーン市へ出荷する。畜産はベレーン市の畜産を通じ輸出している。 公民館（事業促進前、1980年3月完成） ベルナンブーコ、センター、マカジョースに各1小学校がある。 日本語学校（教師2名、生徒16名）（昭和58年8月現在） INCRAの簡易診療所が2ヶ所ある。ベレーン市にあるアマゾニア保健病院等を利用している。 マカジョース地区：地区入口より移住地本郷まではアスファルト舗装。 ベルナンブーコ地区：近年整備よく良好。 両地区に対する道路対策の工事費として、事業部は昭和56年度18,798万円を補助した。 自家発電の農家が多い。飲料水は業営井戸。水質は良好。

人 植 戸 数 と 人 内 日 地	年度	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42
	戸数	31	97		1	1	1						
	人員	105	605		5	5	5						
	年度	43	44	現地入権者									
	戸数	1		3									
	人員	1		18									

主な出身県名：熊本、宮崎、福島、山形、福岡、三重

昭和53年10月現在

人 植 世 帯 数	入植数		入植世帯数		農家戸数
			戸数	人数	戸数
	日 本 人	居 住	41	209	41
		非居住	-	-	-
	計	41	209	41	

昭和58年4月1日現在

分 譲 状 況	総面積	33,510 ha
	ロッテ面積	25 ha
地 権 取 得	分譲条件及び経路	ブラジス移民農地改革院 (INCRA) 分譲条件に準じ、有償。
	取得	取得(日系) 41名 (53年1月末現在)
農 業	主 作 物 形 態	コショウ、パイナップル、マラクジャ タカジョース地区においてはマラクジャ、カカオ、養豚、野菜等の組合わせ、ベ ルナンブーコ地区はコショウ、マラクジャ、カカオを主体に牧畜、野菜を組合わせ た経営
	農機具の普及状況	トラクター1.3台、トラック0.6台、動力1.1台他(昭和57農年度)
	家畜飼養頭数	肉牛(成1.1頭・仔0.6頭)、豚(成0.7頭・仔0.9頭)
	営農指導機関	事業部ベレン支部、パラ州農村技術奨励普及公社(EMATER-PARÁ)
	営農指導 金融機関	銀行
主作物取扱機関	ベレン市の個人商店、会社	

(4) アカラ移住地

所在地	パラー州アカラ郡 MUNICÍPIO DE ACARA, ESTADO DO PARÁ	
面積		
経緯	グァマ移住地からの転住者受入地として、アカラ郡が州有地の解放を受けて創設した移住地で、別名「パーエス・ガルバーリョ植民地」という。 昭和35年K、グァマ・ベルナンブーコ 地区からの転住者23戸を中心に入植した。近年トノアス、ベレーン近郊からの転住者が増えつつある。	
自然環境	地形 地質・土壌 植性・林相 気候	第3紀累段丘地域で平坦な段丘面と段丘をきざむ谷からなる地形である。 地質は砂岩、頁岩。土壌はラテライト化土。 pH 4.2で酸度強 熱帯雨林で有用材、アカパー、カスターニブ樹等巨木が密生する。 雨期12月～6月、乾期7月～11月 年間平均気温 26.6℃ 年間降雨量 3,077.5 mm
社会環境	主要都市への交通手段 市場 地区内道路整備状況 電気・飲料水 公共施設	昭和47年9月、ベレーン市からブラジリア街通經由州道1号線と、昭和49年10月ベレーン市～グァマ～ブジョル～トノアス～アカラ線が開通し、陸路による外部連絡が可能となり、ベレーンとの間に1日1往復のバス便もある。 アカラ町は人口5,000人程度のため、ベレーン市を主な消費市場としている。 州が建設した道路に沿って入植、良好。 域外道路は陸路(アカラ～サンミゲル・ド・グァマ～ベレーンとアカラ～ブジョル～グァマ～ベレーン)が開通。但し、途中2カ所フェリーボートで渡る。 殆どの農家で自家発電を利用している。飲料水は良質の井戸水。 移住地内に小学校が2校ある。中学校以上はベレーン市、1980年Kアカラ町K病院が建設された。また、事業団援助により、公民館が1979年12月に完成した。 日本語学校(教員2名、生徒22名)(昭和58年8月現在) ベレーン病院による巡回診療がある。

人 植 戸 数 と (内 地)	年 度	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43
	戸 数	33	20		2						
	人 員	15	133		8						
	年 度	44									
	戸 数										
	人 員										

主な出身県名：福 岡, 北 奈 通, 山 形, 宮 崎, 山 口, 熊 本

昭和53年10月現在

人 植 世 帯 数	入植数		人植世帯数		農家戸数
	区 分		戸 数	人 数	戸 数
	日 本 人	居 住	60	225	52
		非居住	-	-	2
	計	60	225	54	

昭和58年4月1日現在

分 譲 状 況	ロッテ面積 分譲条件等 地権取得	50ha クア移住者を主体とする既入植者が州と個別契約し、転入植したもので州有地の 無償払い下げを受けた。 全員取得済
農 業	主 作 目 農具の普及状況 家畜飼養頭数 営農指導機関 営農指導 金融機関	ココウ、カカオ トラクター1.7台、トラック0.5台、新資0.8台他(昭和57農年度) 豚(成3.3頭・仔0.7頭)、肉牛(成1.8頭・仔0.7頭) 市別部ベレーン支那、同支部アマゾンニア熱帯農業総合試験場、 パラ州農村技術民助普及公社(EMATER-PARA) 銀行

(5) モンテ・アレグレ移住地

所在地	パラ州モンテ・アレグレ郡モンテ・アレグレ町 MUNICÍPIO DE MONTE ALEGRE ESTADO DO PARÁ	
面積	300,000 ha	
経緯	日本人の受け入れは、昭和28年(1958年)から開始された。連邦直轄の混合移住地である。日本人入植者は日本から直来その他、ベルテラ・ゴム園からの転住で、一時は相当数に達したが、市場が狭く、また充分な子弟への教育が行われない等の理由から、多数の転住者を出した。現在はアマゾン開発の影響もあって、かつての遠隔地と言う状況ではなくなってきており、定住者も増加している。	
自然環境	地形 地質・土壌 植生・林相 気候	起伏に富んだ丘陵地で、丘陵間に平地や2〜3の川が流れている。 テーラ・ロッシェが散在しており、地味は良い。 奥地には熱帯性林が繁茂し、有用樹も比較的多い。 雨期 1〜6月、乾期 7〜12月 年間平均降雨量 1,301.5mm、平均最高 37.8℃ 平均最低 19.0℃、年平均 28.1℃
社会環境	主要都市への交通手段 市場 地区内道路整備状況 電気 飲料水 公共施設	地区よりモンテ・アレグレ町までの間は、無装束であるが雨期でも交通の途絶することは無い。アマゾン南岸のサンタレン市までは 水路 109km、定期便で8時間かかる。水路で60kmのベレン市には、定期船が週3回程度運行されている。飛行便は大型機が週1回往復している他に、小型機(テコ・テコ)もベレンより直行している。モンテ・アレグレ市場及びサンタ・レンその他へ出しているが、現地商人への販売を余儀なくされている。 ただしノンタはベレンの会社を通じ輸出されている。農産物はサンタ・レンおよびマナオスへ出荷販売している。 移住地事務所が現状で道路修繕をしているが、テーラ・ロッシェのアサイザル地区は雨期になると交通困難となる。 電気は導入されていない。一部自家発電の農家がある。 飲料水は井戸水を使用しており水質は良く量も豊富である。 1981年4月公民館が建設された。(事業団援助) 日本語学校(教師1名、生徒14名)(昭和58年8月現在)

入植戸数と (内 地 人 員)	年度	28	29	30	31	32	33	34	35~37	38	39	40	41
	戸数	24	43				3			2		1	1
	人員	160	261				19			2		1	1
	年度	42	43	44	45	46	47	48	現地入植者				
	戸数			1		2			59				
	人員			1		2		2	351				

主な出身県名：高知、群馬、東京、長崎、熊本、北海道

昭和53年10月現在

入植世帯数	入植数		入植世帯数		農家戸数
	区分		戸数	人数	戸数
	日本人	居住	34	149	30
		非居住	-	-	-
計		34	149	30	

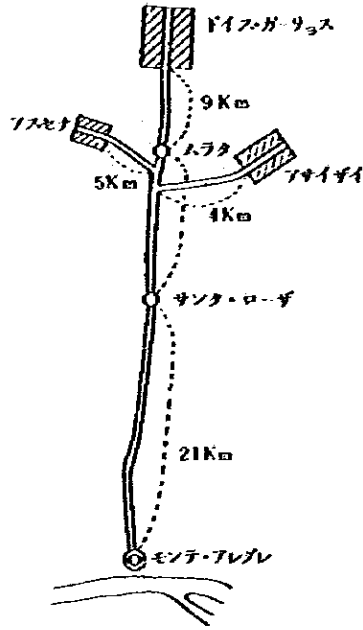
昭和58年4月1日現在

分譲状況	総面積	360,000ha
	ロッテ面積	30ha
	分譲条件および価格	ブラジル植民農地改革院 (INCRA) の分譲条件による。
地権取得	取得21ロッテ 申請中8ロッテ(但し非居住者を含む)	

昭和53年10月現在

農形	主作目	コショウ、トマト、トウモロコシ
	農形	コショウの単作経営のほか牧畜、雑作、そ業等の組み合わせで営農が進められている。
	農具の普及状況	トラクター0.9台、トラック0.5台(昭和55農年度)
果	家畜飼養頭数	肉牛(成48.8頭・仔26.8頭)、役馬(成1.1頭・仔0.2頭) 豚1.2頭(成)。
	その他	旧海防連時代より継続して設置されていたモンテ・アレグレ農場は、1966年(昭和41年)8月第2トノアスへ移転したため、現在は邦人移住者で構成するサンタ・ローザ農牧協会に譲渡され、共同牧場として利用されている。

移住地略図



地区略図



(6) アルタミール移住地

所在地	パラ州アルタミール郡及びプライニャ郡 MUNICÍPIO DE ALTAMIRA, MUNICÍPIO DE PRAINIA, ESTADO DO PARÁ	
面積	201,200 ha	
経緯	以前は全く未開の原林地帯であったが、政府により国家統合計画が実施されるに伴い、INCRA(ブラジル植民地改革院)は、同計画によって建設されたトランスアマゾニカ道路沿線を5つに分轄し植民地を造成した。アルタミール移住地はこのうちの1つである。アルタミール郡への日本人入植は、昭和37年ベレーン近郊からの転住が最初で、同移住地への入植は昭和45年からである。	
自然環境	地形	波状形の起伏に富んだ地形を呈し、シングー川、イリリ川に注ぐ小川が多数入り込んでいる。高台は平坦を呈している。
	地質・土壌	テラロンア土壌が広く分布しており、この他赤黄色ポドソルも分布している。 テラロンア pH = 5.9~6.7
	植生・林相	常緑熱帯雨林に枝われ、多種多様な樹種が幾重にも重なって構成されている。
	気候	雨期 12~6月、乾期 7~11月、気温平均最高 30℃以上、平均最低 20~21.4℃ 年間降雨量 1,696 mm
社会環境	主要都市への交通手段	バス便はアルタミール~マラパー間1日3往復、アルタミール~イタイツォーバ間1日1往復、また移住地内E112地点まで1日1往復がある。トランスアマゾニカ道路も、アマゾン開発の大動脈として活用されつつある。完全な飛行場があり、ジェット機の発着も出来る滑走路を持っている。飛行機便は毎日ある。 アルタミール市人口1万人、東北東陸路 90 km、サンタレーン市人口10万人、北東陸路 590 km
	市場	アルタミール及び近傍都市が消費市場であるが、市場の狭さ及び品不足による価格上昇のあった場合、サンパウロ物が流入し、市場がかく乱される。
	地区内道路整備状況	地区内にトランスアマゾニカ道路が通っている。
	電気	市内には電力会社があり、配線は市内全域に完了している。
	飲料水	入植者の大部分は湧水、小川等の水を飲料水としている。
	公共施設	診療所があって、週に1回医師、歯科医の診察がある。 小学校2校、中学以上は町に寄宿
	その他	連邦道路局(DNER)は、ここ2年間の内にトランスアマゾニカ全線舗装計画をたてている事を発表しており、移住地の発展が期待される。

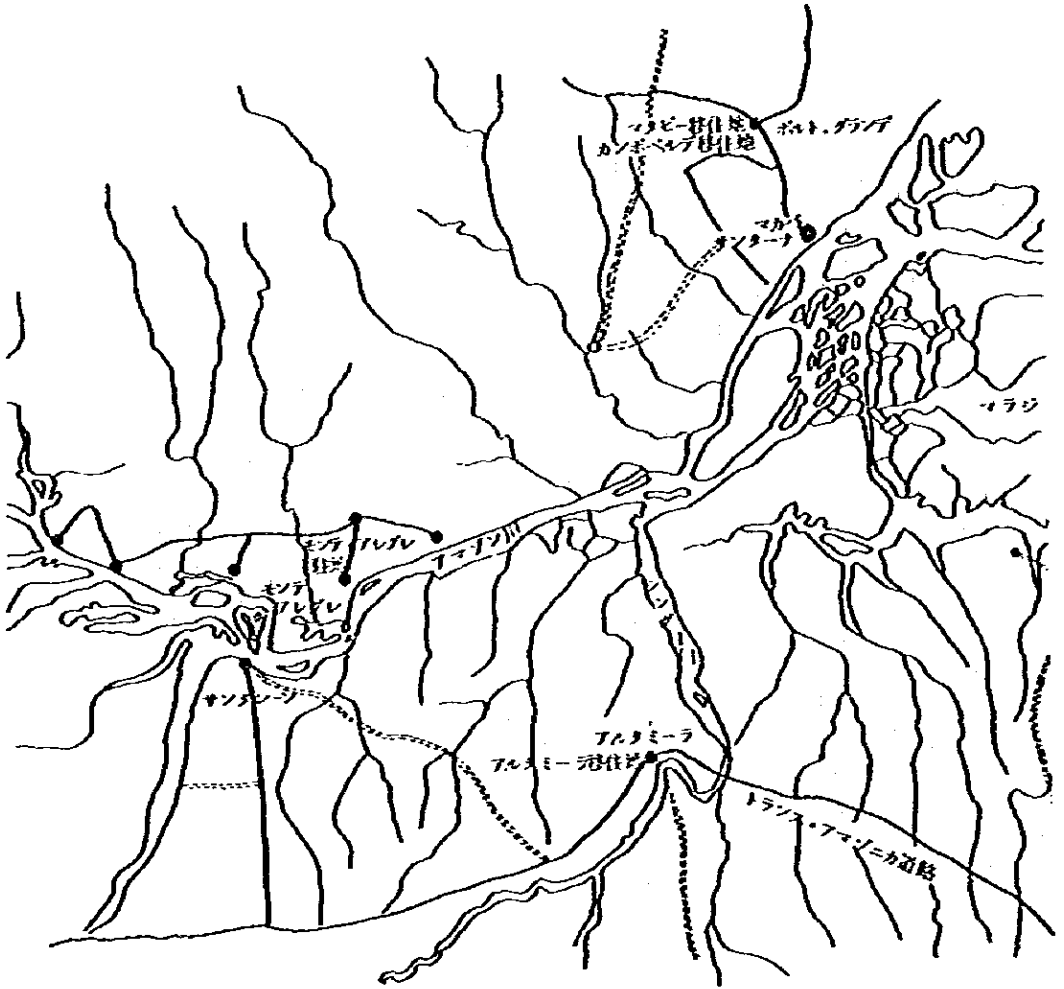
入植戸数と(内地員)	年度	30~44	45	46	47	48	49
	戸数		1	3	11	4	3
	人員		6	18	74	24	18

入植世帯数	入植段		入植世帯数		農家戸数
			戸数	人数	戸数
	日本人	居住	30	117	21
		非居住	-	-	-
計		30	117	21	

昭和58年4月1日現在

分譲状況	総面積 ロッテ面積 分譲条件および価格 地権取得	201,200 ha (造成済のみ) 100 ha ブラジル植民農地改革院 (INCRA) の分譲条件による。有償。 全戸取得済
農産物	主要作物 形態 農具の普及状況 家畜飼養頭数 営農支援機関 営農指導 金融機関 上作物の販売取扱 関 その他	サトウキビ、コショウ、バナナ サトウキビ、コショウ専業ないし、これらと野菜との複合経営 トラック1.0台、トラクター1.1台(昭和55農年度) 肉牛(成2.9頭・仔1.7頭)乳牛0.3頭(成) INCRA、パラ州農村技術援助普及公社(EMATER-PARA) 事業場ベレーン支部 銀行 サトウキビはCOTRIJUI製糖工場が全量を買上げ、穀物はCIBRAZENで全量買上げ。そ菜類はアルタミール市またはサンタレーン市に卸す。 INCRAが昭和49年に製糖工場を設立放棄し、その後外部の組合の経営に移り、サトウ、アルコールを生産している。

地区略図



(7) マタビー・カンボベルデ及びマカパー市近郊(アマパー州)

所在地	アマパー直轄州マカパ郡 MUNICÍPIO DE, MACAPÁ, TERRITÓRIO FEDERAL DO AMAPA	
面積	4,875ha	
経緯	<p>マタビはアマパー直轄州の農業振興、およびマカパ市の食料供給の目的をもった直轄州直営移住地として創設された移住地である。日本人の入植は、昭和28～29年にかけておこなわれ45世帯が入植した。しかし、ゴムの植付強制により資金的に困難となり多数の転住者を出した。</p> <p>一方カンボ・ベルデは、昭和32年マサゴン移住地より転入し、ICOMI 鉱山従業員に対する野菜を供給する目的で設定された。その後ICOMI鉱山の減少等もあり減少したが、最近再び増加を来している。</p>	
自然環境	地 形	花崗岩片岩その他の古期岩類の石礫からなる後積世の石礫層で台地は平坦だが、谷をのぞむ所は急な傾斜になっている。
	地 質 ・ 土 壤	土壌は多量質のラテライト化、pH = 4.2、テラ・フィノ地である。
	植 生 ・ 林 相	草地帯と衣林地帯との分岐地点にあたる森林の中に位置している。
	気 候	雨季1～8月、乾期9～12月、年間平均降水量3,000mm、気温平均最高33.5℃、平均最低21.5℃、年平均26.5℃
社会環境	主要都市への交通手段	マカパ市～セーラ・ナブイウ鉱山間230kmにはICOMI鉄道が走っておりマタビ移住地はその中間に位置している。又、カンボ・ベルデ移住地北岸鉄新道路が貫通している。マカパ市から移住地入口までは草原で、雨季にも交通不能になることはない。
	市 場	マカパ市～ベレーン市間には毎日2便の航空便がある。(約1時間)。 マカパ市 ICOMI 鉱山、BRUMASA 合板会社その他発電道路工事会社を対象としている。
	地区内道路整備状況	カンボ・ベルデ移住地区をベルトラル・ノルテ国道が貫通している。
	電 気	電気は導入されていない。一部自家発電の農家がある。
	飲 用 水	飲料水は月戸(素型)水を利用している。水質は良好である。
	公 共 施 設	日本語学校(教師2名、生徒17名)(昭和58年8月現在)

入植戸数と(内地)	年度	28	29	30	31	32	33	34	35	36
	戸数	29	21		7	1	1		3	2
	人員	177	123		12	1	1		3	2

主な出身県名：鹿児島、福島、宮城、熊本、福岡、広島

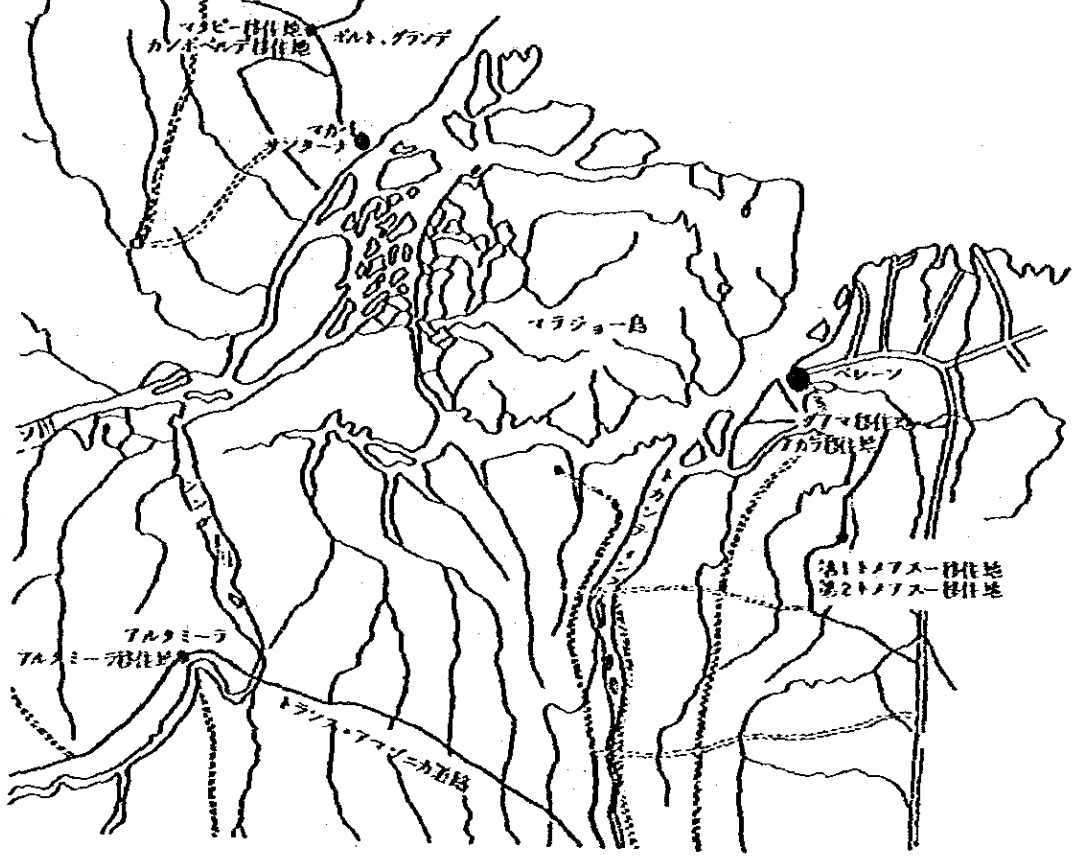
昭和56年9月末現在

入植世帯数	入植数		入植世帯数		農家戸数
	区分		戸数	人数	戸数
	日本人	居住	43	210	23
		非居住	-	-	-
	計	43	210	23	

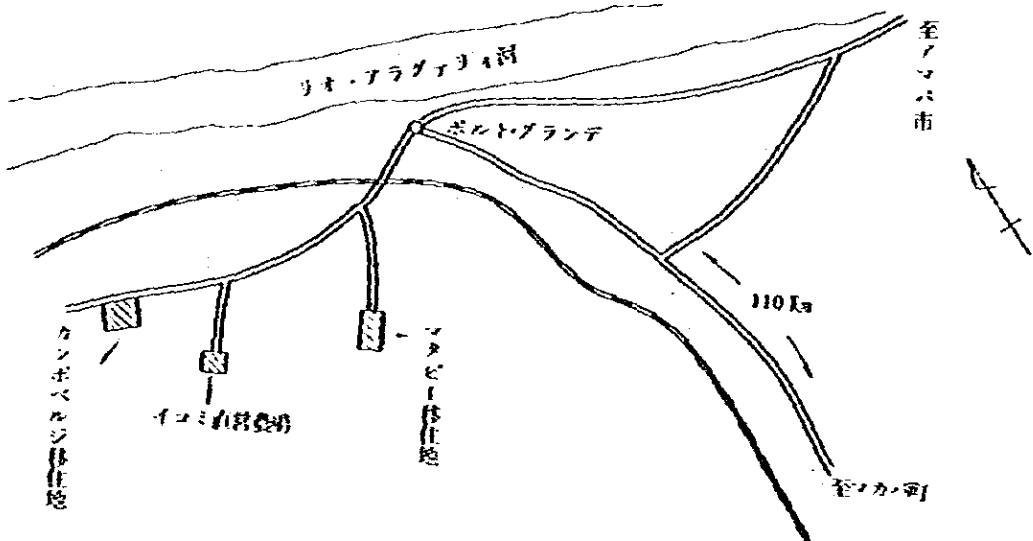
昭和58年4月1日現在

分譲状況	総面積 ロッテ面積 分譲条件および価格	1,875ha 39ha INCRAO分譲条件による。有償
農 業 関	主 作 目 形 態 農具の普及状況 営農支援機関 営農指導 金融機関	コショウ、パイナップル、モ業、養鶏 協会のほか、モ業及び養鶏を組み合わせた経営 トラクター0.6台、トラック1.3台、耕運機0.9台(昭和55農年度) 事業所ベレーン支店、所農務局、パラ州農村技術援助普及公社 (EMATER-AMAPA) 銀行

地区略図



移住地略図



(8) サン・ルイス近郊(マラニオン)移住地

所在地	マラニオン州 ESTADO DE MARANHÃO	
面積		
経緯	<p>マラニオン州政府はサン・ルイス市民に農業、畜産等食品を豊富に供給する事を目的として、日本人移住者導入を計画した。</p> <p>昭和35年7月に、ロザリオに19家族が入植したが、マラニオン州への日本人移住の始まりである。そして翌年昭和36年、ムルアイ地区にマラニオン州と日本政府との協定による最初の移住者10家族が入植した。其後漸増して、現在31戸が在住している。</p> <p>その後、ロザリオ地区より転住し、サンタフェ、エストラダ・ノーバ地区等に分散して、トマトを中心とした蔬菜栽培にマラクジャ、ハワイパイパイなどをあわせて多産農がなされている。</p>	
自然環境	地形・土壌	<p>一般に台地状の平地地である。標高4m</p> <p>一部高台には粘土量の多い所もあるが、全体的に第3紀層に属する砂壌土で透水性が良い。</p> <p>強酸性 pH 4</p>
自然環境	植生・林相	殆どが再生林で、バブスーヤシが相当数あるが、他は灌木林で乾燥型植生である。
自然環境	気候	<p>雨期1月～6月 乾期7月～10月</p> <p>最高平均気温 33.5℃ 最低平均気温 21.5℃ 年間平均気温 26.5℃ 年間平均降雨量 1,818mm</p>
社会環境	主要都市への交通手段	国道BR316号線の開通により、海岸線状線の宿場的存在となり、交通は便利である。パラ州よりここを経由、リオ・デ・ジョネイロ、サン・パウロに至る定期バスも運行している。
社会環境	市場	道路事情もよくなり産地開拓も可能となったが、生産力がなく旧産地としてサン・ルイス市(人口約万人)のみを市場としている。
社会環境	地区内道路整備状況	私道、軽道、州道、国道があり交通は良好である。
社会環境	電気	電気は導入されていない。一部自家発電の農家がある。
社会環境	飲料水	飲料水は、井戸水(美観井戸)を利用しており、水質は良い。

人 植 戸 数 と 人 員 地	年度	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41
	戸数						19	10					
	人員						111	52					
	年度	12	13	14	15								
	戸数				1								
	人員				3								

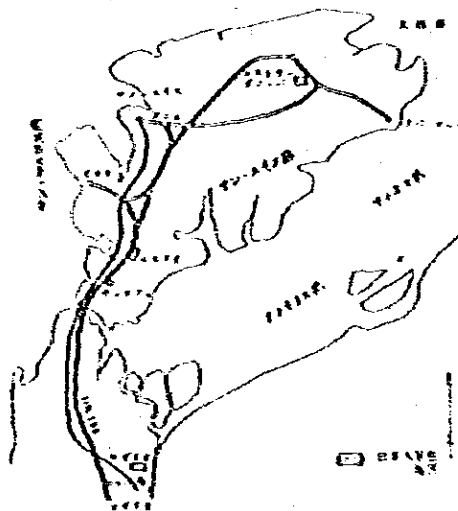
人 植 世 帯 数	人植数		人植世帯数		農家戸数
	区 分	居 住	戸 数	人 数	戸 数
			日 本 人	31	111
		非 居 住	-	-	-
	計	31	111	20	

昭和58年4月1日現在

分 譲 状 況	ロ ッ テ 面 積 分 譲 条 件 上 の 格 格 地 権 取 得	10 ~ 30 ha 州有地 有償 取得17名	昭和53年10月現在
------------------	---	-------------------------------	------------

農 業	主 作 目 態	パパイヤ、トマト、スイカ、鶏卵 兼務専業農家のほか、トマト、スイカ、ピーマン等の農業経営、パパイヤ、マラ クジャ、ココヤシ等の果樹経営の専業及びこれらの部門の複合経営
	農 具 の 備 及 状 況	トラック0.7台、トラクター0.5台(昭和55農年度)
	家 畜 飼 養 頭 数	豚(成0.8頭・仔0.1頭)、肉牛(成0.1頭・仔0.1頭)
	営 農 指 導 全 県 機 関	農業用ベレーン支部、州農務局、農村技術奨励普及公社(EMATER) 銀行

地区略図



(9) エフゼニオ・サーレス移住地

所在地	アマゾン州マナオス郡 MUNICÍPIO DE MANAUS, ESTADO DO AMAZONAS	
面積	3,108.6 ha	
経緯	アマゾン州の農業振興、およびマナオス市への生鮮食品の供給を主目的として、州が創設した自負混合の移住地である。日本人の入植は昭和33年から開始された。 この移住地の営農は胡椒を中心とし、蔬菜、養鶏等を組合せたものである。マナオス市からイタコチアラへ通ずるアスファルトの州道が地区内を横貫するたため極めて恵まれた立地条件にある。	
自然環境	地形 地質・土壌 植生・林相 気候	標高50~100mの起伏に富む地形で、地区内の起伏はかなり大きい。 第3紀層を母岩とするラテライト土壌で、灰褐色および灰褐色の礫を含まない粘土含量の多い重粘な土壌で土質は深いテラフィノ地帯である。一般に酸性は強い。 熱帯雨林に被われ、多様な樹種が優占にも重って構成される原始林を形成し、有用材も多く林相は比較的密である。 雨期12月~5月、乾期6月~11月 気温平均最高27.8℃ 平均最低22.6℃ 平均年間降水量2,100mm
社会環境	主要都市への交通手段 市場 地区内道路整備状況 電気 飲料水 公共施設 事業団長課 組合自治体等	移住地内をアスファルト舗装のマナクス〜イタコチアラ州道が走っており、移住地中心部までバスの便がある(1日5往復)。その他重要な出発トラック便も頻りにあり利用できる。 消費市場マナオス市人口635万。ボリヴィア、ペルー、コロンビア、ベネズエラへの貿易拠点となっており、近年「ZONA FRANCA(非関税地域)」の指定を受けたことから経済は活気を呈しており、移住地も其々の恩恵を受けている。 全戸アスファルト舗装の州道沿いあり極めて恵まれている。 昭和52年3月と事業団の援助により電化が完了した。(事業団補助6,000千円) 飲料水は、事業団の援助の共同井戸を利用している。 灰井戸1基、水塔2塔、その他配水設備、共同浴場所(在マナオス) 事務所兼販売所、自庫、車庫、乾燥場、解体処理場、ガソリンスタンド、職員住宅、分務者住宅等各1棟、車庫3台、土地10,000m ² この他自治体が自治会館1棟。会館内に日本語学校あり(教員2名、生徒15名)(昭和58年8月現在)

人 植 戸 数 と (人 内 地)	年度	33	31	35	36	37	38	39~41
	戸数	17	6	16	17	2	2	
	人員	108	30	95	95	9	5	
	年度	45	46	47	48	49~53	現地人植者	
	戸数					2	6	
	人員					2	32	

主な出身県名：石川、長崎、熊本、福岡、青森

昭和53年10月現在

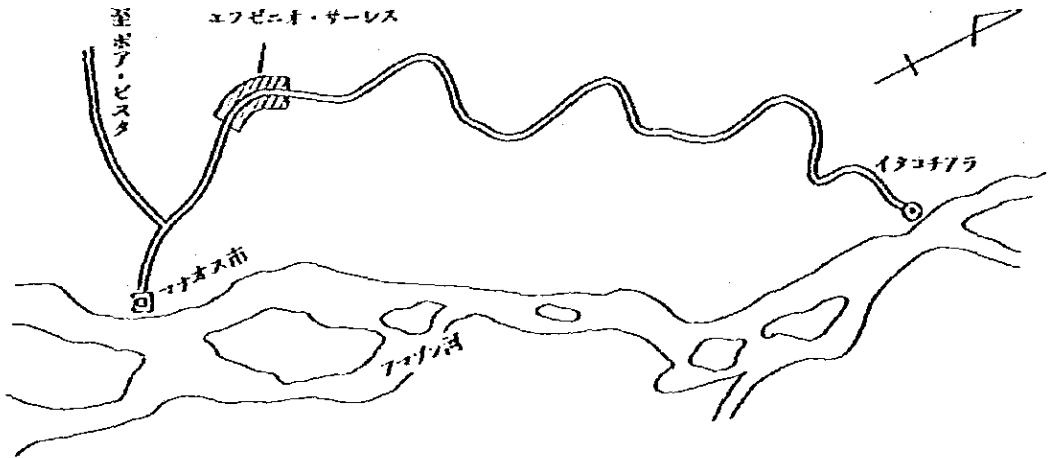
人 植 世 帯 数	人植数		人植世帯数		農家戸数
			戸数	人数	戸数
	日 本 人	居住	45	237	43
		非居住			
	計	45	237	43	

昭和58年4月1日現在

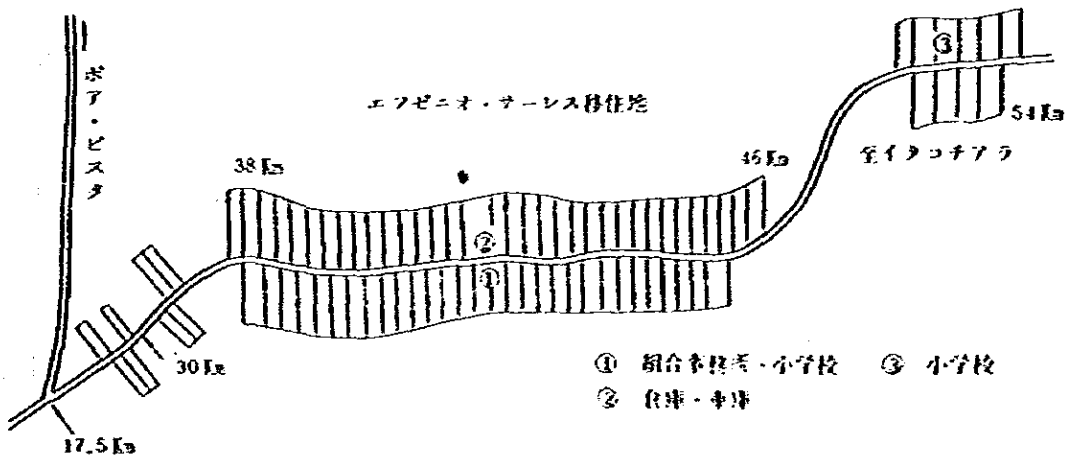
分 類 状 況	総面積	3,108.6 ha
	ロッテ面積	25 ha
	分譲条件および価格	INCRA 豊北事務所のマノオス委託開発計画対象地域で、原則として土地購入は競争入札によることとなっている。現住人植者については優先権を認め、INCRA 所定の土地代計算を行い価格決定している。(平均土地価格×面積×土地係数×占有期間係数) + 測量費等の直接経費
	地権取得	取得32ロッテ 昭和53年10月現在

農 業	主 作 目 差	カンキツ、トマト、ピーマン 鶏卵(採卵及び肉用)の単一経営ないし、これを主体に蔬菜及び稲作を組み合わせた経営
	農具の普及状況	トラック1.2台、トラクター0.5台、動力1.8台(昭和57農年度)
	家畜飼養頭数	豚(成3.5頭・仔0.5頭)、肉牛0.2頭(成)(昭和57農年度)
	営農促進機関	事業課ベレーン支所、同支所マノオス支所
	営農指導	マノオス組農村技術指導員及公社本部
	金融機関	銀行
	日照等の状況その他	組合員は農家、非組合員は耕作業者
	そ の 他	各ロッテとも一部を除き地形が悪く利用可能面積が狭く種々問題があるが、人植地を貫通するマノオス市からイタコナブラ市へ通ずる国道がアスファルト道路となっている利点を生かし、そ菜・鶏卵でかなりの収益を挙げている。

地区略図



移住地略図



00 ベラ・ピスタ移住地

所在地	<p>アマゾン州マナオス移及びマナカプル一帯 MUNICÍPIO DE MANAUS, MUNICÍPIO DE MANACAPURÚ, ESTADO DO AMAZONAS 州都マナオス市より移住地本誌まで約100km(マナオス市対岸)</p>								
面積	<p>15,000 ha</p>								
経緯	<p>アマゾン中流地域の開発を目的として創設された連邦直営の奨励移住地で、日本人の入植は昭和28年から開始され、翌29年までに153家族が入植したが、営農形態が確立されておらず、受人態勢も整っていなかったことから多くの転出者を出した。転出者の多くは、ベレン市近郊地域および南納方面へ移転した。 その後、昭和37年に「アリアウ地区」に11家族を受入れた。昭和42年マナオス地区の自由貿易港化のため、マナオス市の人口急増、経済活動の活発化とともに養鶏事業による鶏卵・鶏肉の市場供給が増大したほか、蔬菜の需要も多くなっている。 アマゾン開発基地としてのマナオス市の発展とともに、その食糧供給基地として移住地の将来は明るい。</p>								
自然環境	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="142 778 323 907">地形</td> <td data-bbox="323 778 1173 907"> <p>標高12~20m。第3紀層を母岩とするゆるやかな起伏のある比較的平坦な段丘地形と、段丘をさざむ谷とからなる。傾斜やや急。地質は第3紀層の砂岩、頁岩の段丘及び谷底の沖積層。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="142 907 323 999">地質・土壌</td> <td data-bbox="323 907 1173 999"> <p>土壌はラテライト土壌で砂質土。土色は黄褐色ないしは茶褐色を呈す。崖端に一部テラ・プレッタがあり、臺台は礫ね、テラ・フィルムで一般に強酸性土壌である。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="142 999 323 1036">植生・林相</td> <td data-bbox="323 999 1173 1036"> <p>熱帯雨林地帯に属し、直径1m以上の巨木が散在し、林相はやや疎である。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="142 1036 323 1147">気象</td> <td data-bbox="323 1036 1173 1147"> <p>雨季12~5月、乾期6~11月、年間平均気温31.4℃、最高気温37.8℃ 最低気温22.6℃、年間平均降水量2,100mm</p> </td> </tr> </table>	地形	<p>標高12~20m。第3紀層を母岩とするゆるやかな起伏のある比較的平坦な段丘地形と、段丘をさざむ谷とからなる。傾斜やや急。地質は第3紀層の砂岩、頁岩の段丘及び谷底の沖積層。</p>	地質・土壌	<p>土壌はラテライト土壌で砂質土。土色は黄褐色ないしは茶褐色を呈す。崖端に一部テラ・プレッタがあり、臺台は礫ね、テラ・フィルムで一般に強酸性土壌である。</p>	植生・林相	<p>熱帯雨林地帯に属し、直径1m以上の巨木が散在し、林相はやや疎である。</p>	気象	<p>雨季12~5月、乾期6~11月、年間平均気温31.4℃、最高気温37.8℃ 最低気温22.6℃、年間平均降水量2,100mm</p>
地形	<p>標高12~20m。第3紀層を母岩とするゆるやかな起伏のある比較的平坦な段丘地形と、段丘をさざむ谷とからなる。傾斜やや急。地質は第3紀層の砂岩、頁岩の段丘及び谷底の沖積層。</p>								
地質・土壌	<p>土壌はラテライト土壌で砂質土。土色は黄褐色ないしは茶褐色を呈す。崖端に一部テラ・プレッタがあり、臺台は礫ね、テラ・フィルムで一般に強酸性土壌である。</p>								
植生・林相	<p>熱帯雨林地帯に属し、直径1m以上の巨木が散在し、林相はやや疎である。</p>								
気象	<p>雨季12~5月、乾期6~11月、年間平均気温31.4℃、最高気温37.8℃ 最低気温22.6℃、年間平均降水量2,100mm</p>								
社会環境	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="142 1147 323 1618">主要都市への交通手段</td> <td data-bbox="323 1147 1173 1618"> <p>州都マナオス市の対岸、ベレイラ港より15km地点にある移住地本誌を中心に、邦人が入植している。カカオベレイラ、カルデロン、アリアウの3地区が、T字型に展開している。マナオスよりの距離は、直線にして約100kmで、その間に流れる河中7kmのリオネグロには、昭和17年9月よりフェリーボートが就航し、現在1日に5便ある。港より移住地区を8km輻射道が貫通、定期バス便(カカオベレイラ~マナカプル市)1日1往復、但し土・日曜日は2便運行している。出荷物は従来よりトラックにてそのまま積換えないで、マナオス市埠頭に直接出荷している。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="142 1618 323 1655">市場</td> <td data-bbox="323 1618 1173 1655"> <p>消費市場 マナオス市 人口63.5万 ボリヴィア、ペルー、コロンビア、ベネズエラ等は勿論、遠くソヴィエト、北米との貿易(上として輸入)拠点ともなっており、日本船も月1便の割合で入港している。その上、工業用地に建設された発電機、軽工業関係の組立工場に働く人達で入</p> </td> </tr> </table>	主要都市への交通手段	<p>州都マナオス市の対岸、ベレイラ港より15km地点にある移住地本誌を中心に、邦人が入植している。カカオベレイラ、カルデロン、アリアウの3地区が、T字型に展開している。マナオスよりの距離は、直線にして約100kmで、その間に流れる河中7kmのリオネグロには、昭和17年9月よりフェリーボートが就航し、現在1日に5便ある。港より移住地区を8km輻射道が貫通、定期バス便(カカオベレイラ~マナカプル市)1日1往復、但し土・日曜日は2便運行している。出荷物は従来よりトラックにてそのまま積換えないで、マナオス市埠頭に直接出荷している。</p>	市場	<p>消費市場 マナオス市 人口63.5万 ボリヴィア、ペルー、コロンビア、ベネズエラ等は勿論、遠くソヴィエト、北米との貿易(上として輸入)拠点ともなっており、日本船も月1便の割合で入港している。その上、工業用地に建設された発電機、軽工業関係の組立工場に働く人達で入</p>				
主要都市への交通手段	<p>州都マナオス市の対岸、ベレイラ港より15km地点にある移住地本誌を中心に、邦人が入植している。カカオベレイラ、カルデロン、アリアウの3地区が、T字型に展開している。マナオスよりの距離は、直線にして約100kmで、その間に流れる河中7kmのリオネグロには、昭和17年9月よりフェリーボートが就航し、現在1日に5便ある。港より移住地区を8km輻射道が貫通、定期バス便(カカオベレイラ~マナカプル市)1日1往復、但し土・日曜日は2便運行している。出荷物は従来よりトラックにてそのまま積換えないで、マナオス市埠頭に直接出荷している。</p>								
市場	<p>消費市場 マナオス市 人口63.5万 ボリヴィア、ペルー、コロンビア、ベネズエラ等は勿論、遠くソヴィエト、北米との貿易(上として輸入)拠点ともなっており、日本船も月1便の割合で入港している。その上、工業用地に建設された発電機、軽工業関係の組立工場に働く人達で入</p>								

社は急速に増加しており、農産物の需要力を一段と高めたため、特にそ菜類は恒常的欠乏状態にある。

自由港地域として非関税とされる商品は、一般雑貨の外、カメラ、テレビ等の耐久消費財も含まれるが、酒、タバコ、香水その他ぜい祝品は除外され、乗用車も除外される。農業生産用機械等は当然免税であり、この点生産者には有利である。

電気 雪化（昭和58年度。事業所持動額25,000千円）
 飲料水 10m内外の掘抜井戸また湧水を利用。水質は普通。
 公共施設 公民館（1976年5月完成）、公民館内に日本語学校がある（教師2名、生徒21名）（昭和58年8月現在）、マナオス市に客宿舎があるほか、特約店がある。
 事業団援助
 その他 INCRA、協議による巡回診療がある。
 INCRA経営小学校3校、警察屯所

入植戸数と （内 人員数）	年度	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
	戸数	24	102		1				2	1	11	1		
	人員	118	529		21				2	1	81	1		
	年度	41	42	43	44	45	46	47	48	49				
	戸数			1				1	1	2				
	人員			1				2	5	19				

入植世帯数	入植数		入植世帯数		農家戸数	昭和58年4月1日現在
			戸数	人数		
	日本人	居住	35	187	35	
		非居住	-	-	-	
計		35	187	35		

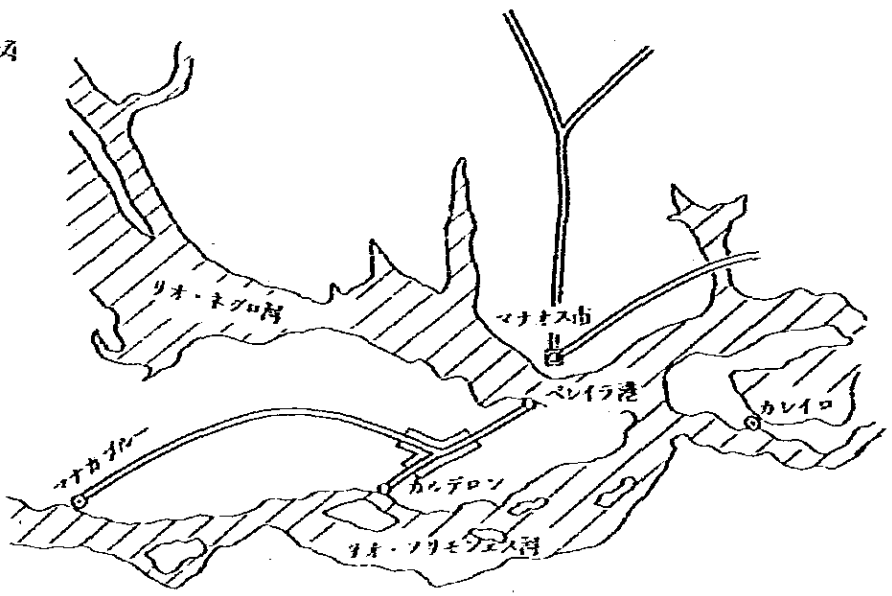
分譲面積 15,000ha
 ロッテ面積 平均50ha
 分譲条件及び価格 無償（但し、別量その他諸経費自己負担）
 地権取得 全戸取得済

農 主 作 目 養鶏、ピーマン、ガラナ、コンショウ
 形 養鶏の専業経営のほか、ガラナ・コンショウ・パイナップル・蔬菜・養鶏の複合経営
 農具の普及状況 トラクター0.6台、トラック1.3台、耕耘機0.1台、動力0.8台
 家畜飼養頭数 豚（成14.7頭・仔5.9頭）（昭和55年度）
 営農民権機関

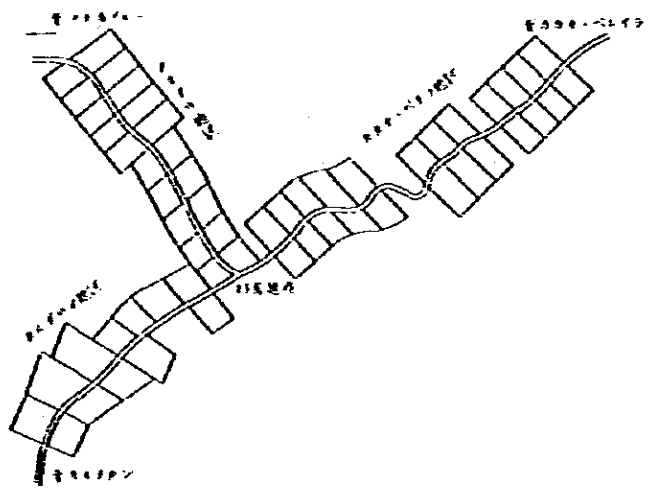
農
業

営農指導	事業団ベレーン支部及び同支部マナクス所 アマゾン州農村技術援助普及公社カカオベレイラ存在員事務所等
金融機関	銀行
主作物取扱機関	個人別、グループ別に夫々特約店(卸商、小売店、スーパーマーケット、ホテル等)を持ち定期的に出荷している。

地区略図



移住地略図



00 トレーゼ・テ・セテンプロ移住地

所在地	ロンドニア州 ESTADO DE RONDÔNIA	
面積	1,570 ha	
経緯	同州の農業振興並びにポルト・ベリョ市の市場供給を目的として、昭和28年に直轄州直営で創設された混合移住地である。日本人移住者は昭和29年に初めて入植した。その後間もなくゴム園失火のため移住者を出し、没落苦悶の状態であったが、ポルト・ベリョ市の発展に伴ない同地区の発展、プロイラー、農業等の農産物の需要も伸び、漸く基礎が固まりつつある。一方、国道361号線の開通により、南産物の移入も増加しつつあり、これに対応するため永年性作物や畜産等の多角経営が奨励されている。	
自然環境	地質・土壌	第三紀層段丘地形で平坦な段丘をさざむ谷、標高12~20m傾斜地である。 地質は第三紀層の砂岩、頁岩。段丘をさざむ谷底の沖積層、土壌はラテライト土壌で砂質土、土色は黄褐色から褐色を呈す崖岸に一部テラ・ブロンマ黄色土があり高台はテラ・フィルム、一般に強酸性土壌である。
	植生・林相	熱帯降雨林地帯に属し、樹高30mを越す巨木も見られ建築用材豊富、林相密で深い。
気候	雨季11月~1月、乾季5~10月、平均最高気温38℃、平均最低15℃、平均年間降水量2,292mm	
社会環境	主要都市への交通手段	ロンドニア州都ポルト・ベリョ市より同地区入り口まで9km、日本人耕地まで11kmあり、その間は事業用貨物トラック、農務局トラック定期便および日本人入植者の農産物出荷車(個人車)が毎日走っている。
	市場	ポルト・ベリョ市(人口135万人)を市場とし、入植者が生産する米、おこし、野菜は同市場で夫々100%、70%を占めている。
	地区内道路整備状況	無舗装であるが道路状況は良好である。 連邦政府ないし州の機械により年2回補修をするが、その際入植者は労務を提供している。
	電気	1977年(昭和52年)2月に電化(事業用供給4,825千円)され、1981年までに電話が通達した。
公共施設	飲料水	飲用水は井戸(深さ約10m)の水を利用しており水質は良い。
	学校	小学校は地区内にあるが中学校以上はポルト・ベリョ市に通学する。 医療施設はポルト・ベリョ市の診療病院を利用している。また、事業用医員が巡回診療を行っている。公民館(事業用補助、1975年7月完成)。公民館内に日本語学校がある。(生徒1名、生徒20名)(昭和58年8月現在)

人 植 戸 数 と (内 地 人 員)	年度	29	30	31	32	33	34	35	36	現 地 人 植 者
	戸数	29							2	31
	人員	171							8	182

主な出身地名：熊本、山形、東京

昭和53年10月現在

人 植 世 帯 数	人植数		人植世帯数		農家戸数
	区 分		戸 数	人 数	戸 数
	日 本 人	居 住 非居住	14	100	16
		計	14	100	16

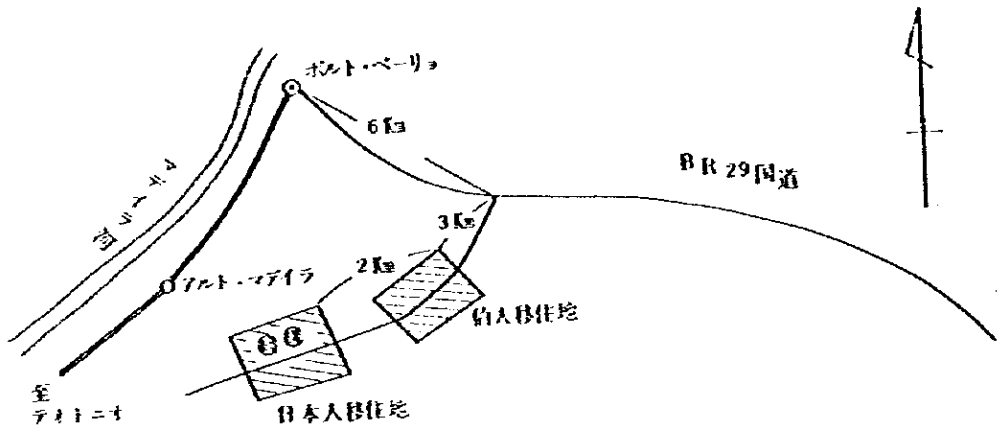
昭和58年4月1日現在

分 譲 状 況	総 面 積	1,570 ha			
	ロッテ面積	30 ha			
	分譲条件および価格	無償（但し別量その他諸経費自己負担）			
分 譲 状 況	分 譲 済 面 積	未 分 譲 面 積	道 路 市 街 地 等 利 用 地	除 地	
	730 ha	—	—	—	
地 権 取 得	(注)日本人のみ 取得27ロッテ				

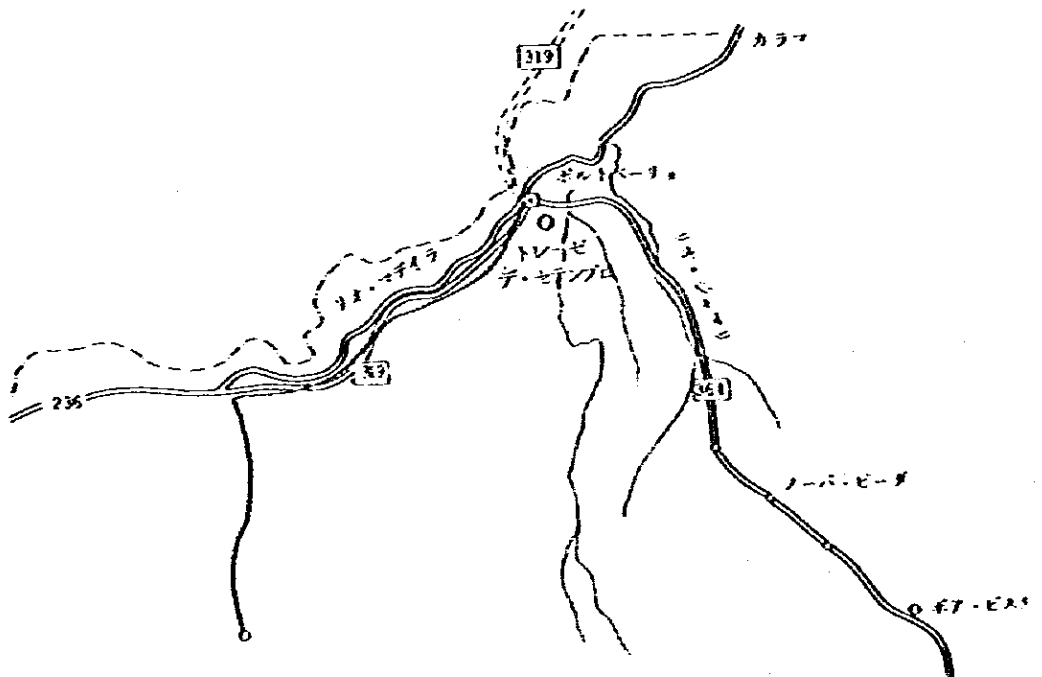
昭和53年10月現在

農 業	主 作 目	鶏卵、ネギ、チンキ
	形 態	専務及び農業協同組合との複合経営
	農具の普及状況	トラック32台、トラクター1.6台、耕耘機1.0台（昭和55農年度）
家畜飼養頭数	肉牛（成22.8頭・仔13.9頭）、豚（成4.9頭・仔6.9頭）、役馬（成0.6・仔0.2頭）、乳牛0.6頭（成）（昭和55農年度）	
営農保護機関	事業所ベレーン支店及び同支店マウス支所	
営農指導	アマツクスが農村技術援助普及公社ポルト・ベリョ支所	
金融機関	銀行	
その他	ポルト・ベリョ市を市場として市内に那人専用の売店を持ち、そこで極端に自給に農業、卵を販売している。	

移住地略図



地区略図



03 キナリー移住地

所在地	アクレ州, リオ・ブランコ移 MUNICIPIO DO RIO BRANCO, ESTADO DO ACRE	
面積	1,500 ha	
経緯	昭和28年アクレ直轄州(現在のアクレ州)の農業振興を目的として同移住地が創設され、昭和33年および31年に最初の日本人農業移住者13家族が入植したが、市場の狭小さが決定的な要因となって、間もなく8家族が転住していった。その後、更に1名転住したが、最近地域開発も進んでおり、在住者は26戸に増加している。	
自然条件	地形 地質・土壌 植生・林相 気候	極めて平坦な起伏地。地区内に小川が数本流れている。 第3紀層を母岩とするラテライト土壌で黄色または暗赤褐色の植土。一部にテラ・ロンパ地帯がある。地味肥沃で一般に酸性。 自生するカスターニア・ド・パラ(パラ栗)の巨木が相見られ、植生の繁茂は良く、林相は密で深い。 雨期11月～1月、乾期5～10月、平均最高気温31.7℃、平均最低15.4℃ 平均年間降水量1,679mm
社会環境	主要都市への交通手段 市場 地区内道路整備状況 飲料水 公共施設	アクレ州首都のリオ・ブランコ市まで幹路で28kmあり、移住地人口までの21kmは完全舗装道路。移住地人口より各自耕地まで約4km程度は木道無舗装のため雨降になると道路状況が悪くなるが、トラック、ジープによる通行であれば通行不可能となることはない。自動車での所要時間約30分。リオ・ブランコ～ポルト・ベリョ間には1日2往復、バスが運行している。 リオ・ブランコ市(人口11.7万人)のみで、生産物は産人が産先まで買付に来る。昭和45年に中北信移民約500家族が地区周辺に入植営農したため、一時米穀の市価が下落したこともあるが、現在、アマゾン開発ブームは国道、州道の急速な拡充と相まって当地区まで押し寄せており、市の人口も急増傾向にあり市場の軒並みに不安はない。 雨期の1～4月までは地区内の道路状況が悪化するが、従来の日に交通医接となること少なく、地区内の道路も相提供の積極で修繕をしている。 飲水は10m内井の掘抜井戸を利用しており、水質は良好である。 地区内に診療所はないが、保健衛生局が看護婦を必要に応じて派遣。また、事業団職員が巡回診療を行っている。リオ・ブランコ市内には日系医師(高橋出身)が開設している。 学校は公立小学校が地区内にある。中学以上の上級学校はリオ・ブランコ市にある。

人植戸数と(内地)	年度	30	31	32	33	31
	戸数					13
	人員					81

主な出身県名：熊本、長崎、徳島

昭和53年10月現在

人植世帯数	人植数		人植世帯数		農家戸数
	区分		戸数	人数	戸数
	日本人	居住	26	109	12
		非居住	-	-	-
計		26	109	12	

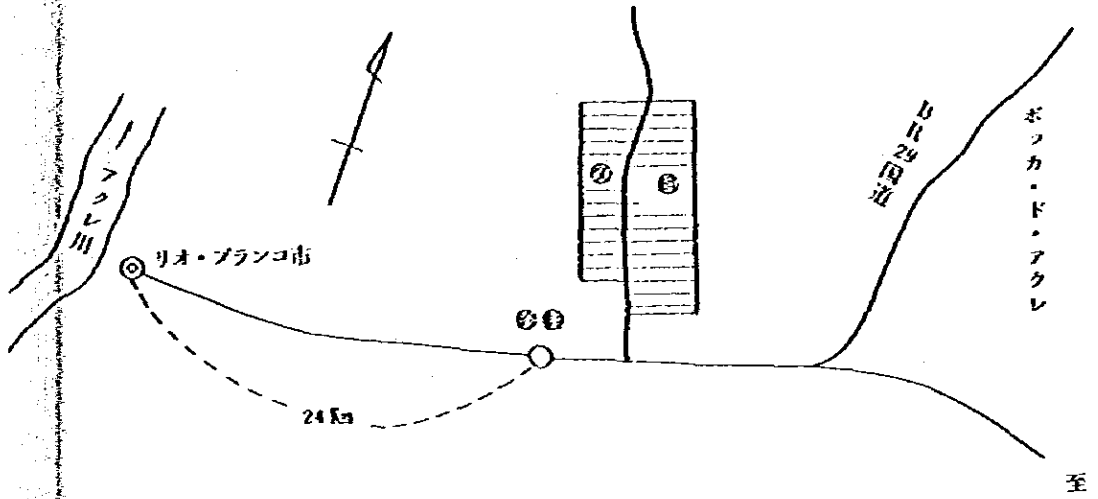
昭和58年4月1日現在

分譲状況	総面積	1,500 ha			
	ロッテ面積	30 ha			
	分譲条件および価格	(アクレ直轄地取得と駐ベレーン領事との契約)無償。			
	分譲条況	分譲済面積	未分譲面積	道路、市街地等利用地	餘地
		150 ha	-	-	-
	地産取得	全戸申請中(含1戸3ロッテ申請者)			

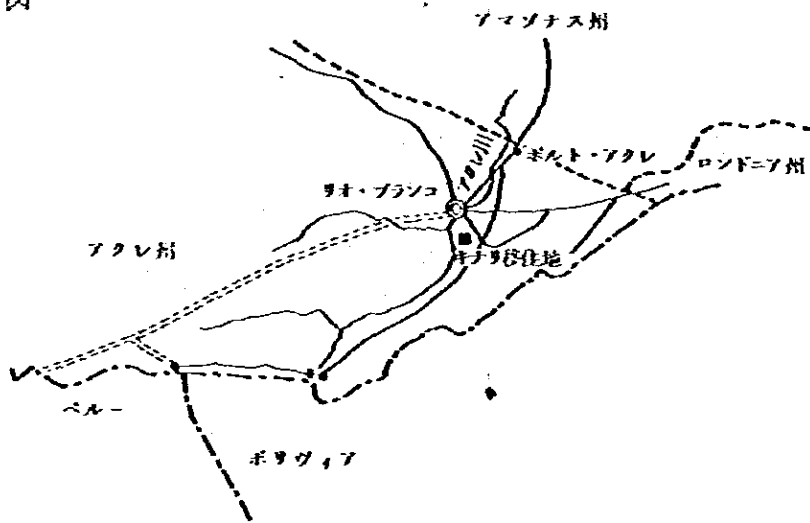
昭和53年10月現在

農業	主作目	茶作・養鶏・そ菜
	営農保護機関	
	営農指導 金融機関	事業所ベレーン支部、アクレ県農村技術民営普及公社 銀行

移住地略図



地区略図



03 その他主な移住地の概況

州名	地区名	形態	入植戸数	主要作物
パラ州	サンタ・イサベル	自然集団	127戸 (633人)	菜豆, 大豆, デンデヤシ, マモン, メロン等
	カスタニヤール	"	180 (820)	マモン, マラクジャ, 胡椒, カカオ, 牧畜, 菜豆
	イガラッペアス	"	37 (180)	胡椒, マラクジャ, マモン, メロン
	サンタ・マリア	"	24 (181)	胡椒, カカオ, マモン, メロン
	カバネマ	"	32 (156)	胡椒, 大豆
	カピトン・ボーン	"	24 (131)	胡椒, カカオ
	ブジャルー	"	22 (110)	胡椒
	サンタレオン (注)	"	75 (308)	大豆, 菜豆, 胡椒
パラ州	ノーバ・チンボテウ	"	31 (120)	以下開発形態・作物は上記とは異同して, 開発の進行と共に社会的に形成された。
	アバエテ・ツーパー	"	56 (265)	
アマゾナス州	マナオス近郊	"	20 (89)	
ローライマ直轄州	ボアピスタ	"	11 (64)	
ロンドニア州	アリケメス	"	49 (164)	
	ジ・バナラ	"	90 (486)	
その他 在	パラ州内	"	320 (1,750)	
	マラニオン州内	"	32 (153)	
	ピアウイー州内	"	3 (20)	
	アマゾナス州内	"	350 (1,607)	
計			1,483 (7,187)	

(注) 事業試験により, 1983年3月公民館が建設された。

昭和58年4月1日現在

II レシーフエ支部

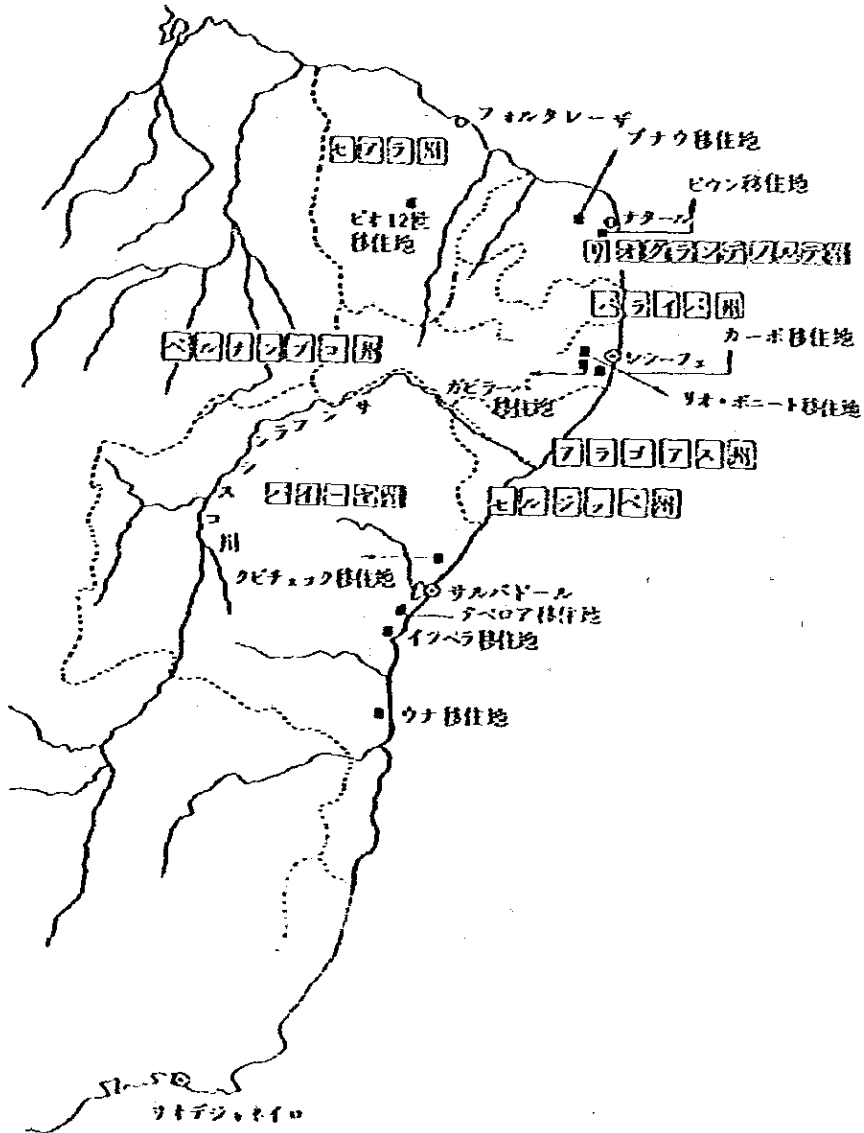
レシーフェ支部

支部機構

レシーフェ支部(レシーフェ市)

管轄州

セアラ州, ベルナンブコ州, リオ・グランデ・ド・ノルテ州, パライバ州, プラゴアス州,
セルジッペ州, パイセ州



1 移住所在地域の概要

管轄地域	<p>ブラジル東北部の次の地域を管轄する。 セアラ州 ベルナンブコ州 リオ・グランデ・ド・ノルテ州 パライバ州 フラゴアス州 セルジッペ州 パイェ州</p>
概	<p>管轄地域の総面積は 966,435 km² で日本国土面積の 2.7 倍に当り、ブラジル国土の約 11% を占める広大な地域である。 全人口は 28,717,976 人で全ブラジル人口 (約 1 億 2,115 万人) の約 23% を占め、人口密度は 1 平方キロメートル当り 297 人で全ブラジル平均の 14 人を上まわっている。127,963 km² に及ぶ地域はブラジル東北部の湿潤モンスーン気候区を含む雨量の多い多様な気候条件下にあり、大西洋に沿ってほぼ帯状をなしている。</p>
要	<p>この地域は古くから砂糖キビ、橙、ココア、椰子の単一経営が行われ比較的の開発が進んでいる。一方内陸部の Caatinga 地域 (642,187 km² に及ぶ産木林地帯) を含む半乾燥地域は 716,632 km² の広大な面積を有しているが、降雨量少く常時の旱魃地帯で養牧開発が最も遅れており、住民は慢性的な食糧不足に悩まされ依然として後進性が強く残存する地域である。 東北部は多数のポルトガル人入植者砂糖園の労働力として導入した黒人奴隷の影響が強く、イペリヤアフリカの社会生活習慣ならびに文化の色彩が強く、また富貧の差が著しい。 1959 年末に東北の開発庁 (SUDENE) が設置されブラジル連邦政府の大規模な地域開発政策が与えられるに反してその変換は著しく、地域内格差の是正に努力がいられている。</p>
主	<p>〔レンフェス市〕 東北管轄地域の政治・文化の中心地、人口 125 万人でベルナンブコ州の首府、1980 年の国勢調査ではブラジル第 3 の都市から第 6 位に落ちているが、これは首府の人口分散計画が功を奏したもので、大レンフェス市内の人口をもってランク付けをすると São Paulo, Rio de Janeiro, Belo Horizonte に次ぐ第 4 の都市となる。古くから砂糖、サイザン菓、橙、植物油脂等の輸出港であるが、近年 SUDENE の工業誘致策により軽工業地帯として発展しており、SUAPE 工業港の造成が着手される等、輸出回廊整備、近代化も着々と進められている。</p>
移	<p>観光地としても有名で「南米のヴェニス」と呼ばれる程市内には運河が多く、築造地オランダ市と共に歴史的建物が多い。</p>
市	<p>〔サルバドール〕 人口 124 万人、パイェ州の首府、1501 年 11 月 1 日アメリコ・ベスパーチドによって発見され 1549 年、初代総督トメ・デ・ソウザにより建設され、1763 年まで植民地時代のブラジルの首府であった。 市は丘の上の上町と急斜面いり下町 (商業地区) に分かち、これをエレベーターで連絡している。市内には 365カ所の教会 (カトリック) があり歴史的にも文化的にも日本の京橋に当る。</p>

古くからココア、煙草、鮮産物の輸出港として栄え、近年石油が州内に産出されるに及んで石油化学工業地帯として発展しつつある。

2 東北伯日本人移住の歴史

1. 戦前の日本人移住：

東北伯地域へは戦前日本からの組織だった移住は行われてはいない。しかし、わずかにあるがアマゾン地域あるいはサンパウロ方面から転住し商業または農業に従事した邦人があった。例えばフェルタレーザの藤田氏(故人、花卉栽培、ペルーより転入者)、レンソーフ、およびその近郊の支那(故人)、皆藤(故人)、博松(いずれも商業)、平川、猪又、大山(いずれも故人、農業)の各氏があった。又サルパドールおよびその近郊では島田、渡辺、時、小笠原(いずれも農業)の各氏をあげることが出来る。

これ等の邦人は戦後日本から当該地域へ移住者を送る場面で受入側に立って常に別に便宜を与え、その実績は大きい。

2. 戦後の日本人移住：

戦後の移住は、いわゆる辻村・松原村により開始されたもので、先ず昭和28年にはパイオニア隊のウナ達那移住地に向け38世帯235人が移住した。この移住者は入植間もなく入植地への不満からトラブルを起し、一時は半数以上の転出者を出した。なお、この転出者の多くは(10戸と推定される)同管内のインペラ移住地へ受入れられたが、そのわずかを残して南的方面へ再度転出して行った。昭和31年に至り東北伯地域への移住者が急に増加した。この大きな理由は農業開発を振興する観点から連邦機関(INIC-現INCRA)・州機関(農務局)により積極的に移住地造成が行われ、日本人移住者が受入れられたためである。

因に昭和31年にビウン移住地(管理者、INIC;R.N.州)の入植が始まり、昭和33年に比均・ボニード(INIC)、ジュセリーノ・クビチュック(通称JK-州農務局)西移住地およびレンソーフ、近郊分益農の受入、翌34年にブナウ(農務局)、35年にビオ12世移住地(INIC)へ移住者が受入れられる等この期間に当該地域の邦人移住者受入数は239戸を数えた。

その後移住者の中には他の地域へ転住する者も多くあったが、他方ではアマゾンあるいは南伯地域から転入してくる者もあって現在約300戸(農家)を数える。

3 移住地の概要

(I) ピオ12世移住地

所在地	セアラ州パカトゥーバ郡グアイウーバ区ピオ12世移住地 (W38°18' S41°0') PIC-PIOM. GUAIUBA. MUNICÍPIO DA PACATUBA, ESTADO DE CEARÁ (註 PIC=PROJETO INTEGRADO DE COLONIZAÇÃOの略)	
面積	1,390 ha	
経緯	セアラ州に集約的近代農業を普及させると共に、州都フォルタレザ市場へ産物を供給する必要があるとのパラíba州カンピーナ・グランデ市で開催された北東部カトリック司教会議の提唱により、連邦政府 (INIC) が私有農場 (サン・ヂェ・ロニモ) を買収して、INIC直営として創設した混合移住地である。昭和48年INCRA (元INIC) の引き上げに伴いパカトゥーバ郡に編入された。 日本人は昭和34年日本直文の8世帯、レシーフからの現地人植1世帯 (レシーフ・分益農家) の計9世帯が入植した。 INICは移住地造成に当って低地で確立農業を行なわせる予定で用水路の設置を計画していたが、予算不足で完成を見ず、このため1戸がマラニョン州へ転移した。現在残っているのは、その後分家独立した1戸を加えて計6戸である。	
自然環境	地形 地質・土壌 植生・林相 気候	標高30~40mの高台地、緩傾斜地・低地より成る大波状地形。 花崗岩系母岩から成る植壤土または砂質土。 密なる灌木林でところにより耐乾性の産香木が見られる。 平均最高気温33.0℃、平均最低気温21.0℃、平均気温26.9℃ (1979年 IBGE統計による)
社会環境	主要都市への交通手段 市 地区内通路整備状況 電 飲 水 公共施設	移住地~グアイユーバ間砂利道8km、雨天通行支障なし。 グアイユーバ~フォルタレザ 完全舗装52km バス便多い。 鉄 道37km フォルタレザ市 (セアラ州都) 人口111万人 グアイユーバ町 人口 8千人 (推定) フォルタレザ市 雨天通行支障なし 中心地区のみ配電済み。 飲料水は深井戸による。昭和51年度高價予算で深井戸復旧工事を入植者各戸に行い昭和53年2月に完成した。 移住地内に小学校がある。医療設備は移住地内にはないが、グアイユーバに医師が在住している。またフォルタレザ市には総合病院があり、日系2世の医師がいる。

入植状況

入植累計 9戸(うち現地入植1戸)
 男性累計 4戸
 独立 1戸
 現在 6戸 15名

(昭和58年4月1日現在)

主な出身県名：長野、鹿児島

入植者世帯数

区分	入植地	入植世帯数		農家戸数
		戸数	人数	戸数
日本人	居住	6	15	6
	非居住	-	-	-
	計	6	15	6

昭和58年4月1日現在

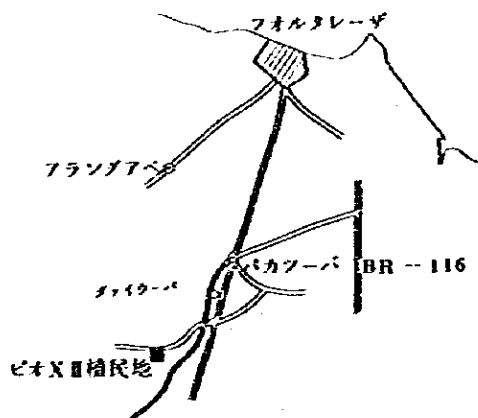
分譲状況

総面積 1,390 ha
 ロット面積 1ロット約20 ha
 分譲条件及価格 本地券交付条件は土地、家屋を含め、約7,000 Cr \$
 10年の分譲払い可(1974.1.1現在)
 地権取得 全戸取得済

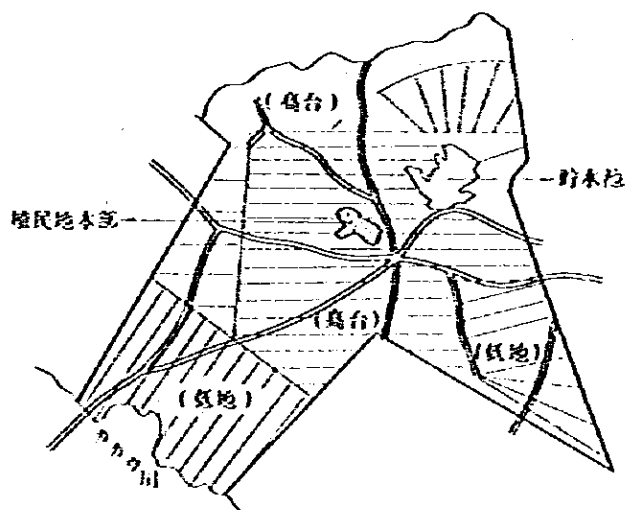
農業

主作目 鶏卵、農業
 形態 養鶏専業農家(4戸) 農業専業農家(2戸)単一形態のため危険性が高い。
 農具の普及状況 トラック 1.0台、モーター 1.8台、揚水ポンプ 1.5、他
 (昭和57農年度)
 家畜飼育頭数 山羊(成7.5頭・仔3.8頭)、ヒツジ(成7.5頭・仔2.5頭)、
 肉牛4.8頭(仔)(昭和57農年度)
 農業保護機関
 営農指導 事業団レンゾフ、支部
 金融機関 銀行
 その他 この地域は乾燥地帯で、畜産農業が行なわれている。

地区略図



移住地略図



(2) ピウン移住地

所在地	リオ・グランデ・ド・ノルテ州ニジヤ・フロresta移住地 PIC-PIUM, MUNICÍPIO DE NISIA FLORESTA, ESTADO DE RIO GRANDE DO NORTE (註. PIC=PROJETO INTEGRADO DE COLONIZAÇÃOの略)	
面積	3,300 ha	
経緯	地域の農業技術の向上と、州都ナタール市への農業、果実の供給を目的として、日本人と留国人を混合入植させるべく計画。昭和31年開設された州と連邦の共同移住地である。 入植当初はメロンが大当たりし、前途に大きな希望もたれたが、昭和35年に集中豪雨があり一時移住者は転居し、更に昭和45年8月家長の集居交通事故が発生したため転住が続き、現在の居住者数は3戸となっている。	
自然環境	地形 地質・土壌 植生・林相 気候	沿岸の湿地帯とそれに連なる緩傾斜の高台地。 低地は有機質の多い黒泥質土壌、台地は砂質土。 低地は湿地帯草類、高台は雑林。附近高台に椰子園あり。 年平均気温25.7℃、平均最高気温33.6℃、平均最低気温19.1℃ 年間降雨量803mm。(1979年IBGE統計) 雨期2～8月 乾期9～1月
社会環境	主要都市への交通手段 市 地区内道路整備状況 電気 飲料水 公共施設	移住地～ナタール市間は、完全舗装道路でバスその他車輛交通のみ。 ナタール～レシーフ：間も、完全舗装道路で、バスその他車輛の交通が非常に多い。(バス5時間) ナタール市が主な出荷先であるが、市場は小なため、乾物はレシーフ：市にも出荷している。(主として個人出荷) ナタール市は近年発展が著しく行来者はある。 砂道。雨期通行支障なし 全戸電化済。 飲料水は主要井戸で水質良好、水量豊富。 INCRA事務所、小学校、工業学校、クラブ1 地区内に診療所があり毎週内科医、歯科医が出張している。INCRAに移居された昭和48年以降は中絶している。 地区内に小学校1校がある。
入植状況	入植者数 計 11戸(うち現地入植2戸) 退去者数 計 8戸 現在 3戸 7名	昭和58年4月1日現在

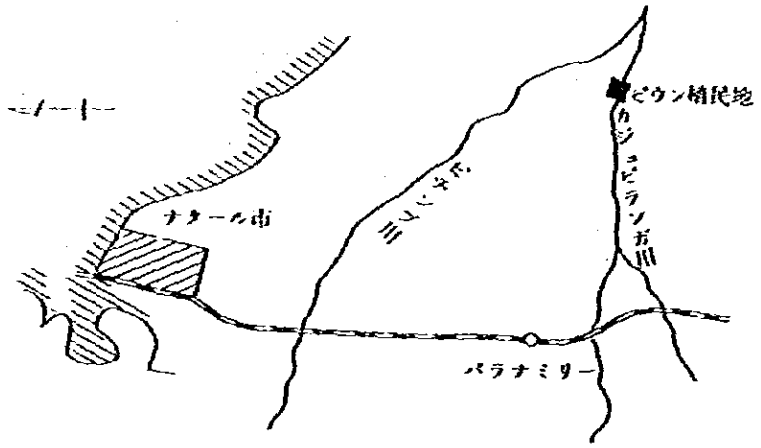
主な出身県名：神奈川県、熊本、栃木

入植世帯数	入植数		入植世帯数		農家戸数
			戸数	人数	戸数
日本人	居住	3	7	3	
	非居住	—	—	—	
	計	3	7	3	

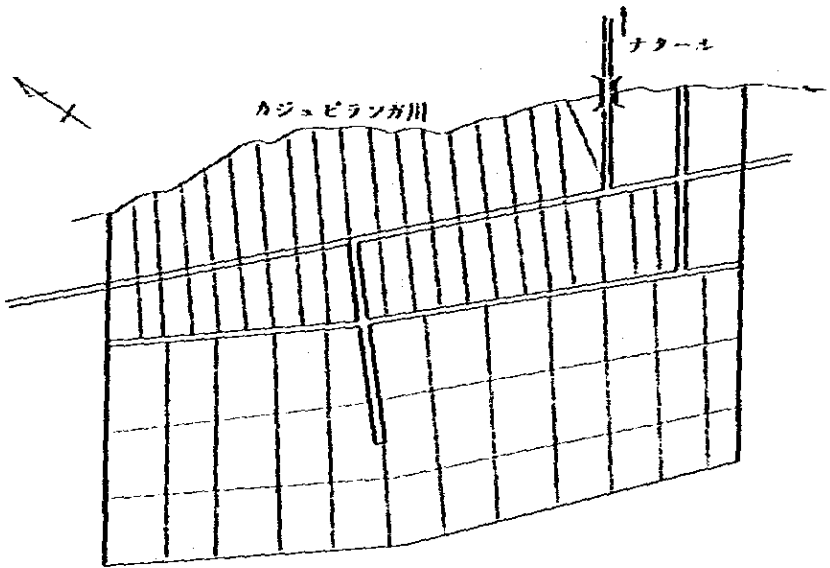
昭和58年4月1日現在

分譲状況	総面積	3,300 ha
	ロッテ面積	1,000 ha
農影	台地	47.0~47.5 ha
	低地	2.5~3.0 ha
農業	分譲条件及価格	1975年本荘権交付、土地、家屋含み約8,000~9,000Crも分譲可。(本荘権交付時の条件)
	地権交付	全戸取得済
業	主作目	メロン、スイカ、グラジオラス
	農影	メロン、スイカ等野菜を主体とし、これにグラジオラス等の花卉を組み合わせた経営
業	農具の普及状況	耕耘機 1.0台 動力 1.0台也(昭和57農年度)
	家畜飼育頭数	特になし
業	営農指導機関	事業団レシーフ支店
	金融機関	銀行
業	その他の	1,000 haが砂質土の台地で占められ、台地にはココヤシ、カシューが植え付けられているが地力不足のため生育が芳しくなく、そのため低地約5 haを利用した花卉と野菜栽培が主体となっている。

地区略図



移住地略図



(3) リオ・ボニート移住地

所在地	ペルナンブコ州ボニート移住地 PIC-RIO BONITO, MUNICÍPIO DE BONITO, ESTADO DE PERNAMBUCO (註, PIC=PROJETO INTEGRADO DE COLONIZAÇÃOの略)	
面積	1,380 ha	
経緯	昭和31年、プライバ州カンピーナグランデ市で開催された東北的カトリック司教会議の決議に1、東北的地域の経済および社会の発展と東北的人の定着、更にはレンフェ、市の食糧供給地帯とするので、INIC(現INCRA)が創立したものである。 日本人に対しては、特に夏季乾燥際に標高の高い土地を利用しての蔬菜栽培が期待されていた。日本人移住者は昭和33年に5世帯、昭和35年に9世帯が日本からの直来で入植した。その貸貸物件(車輦)の利用をめぐって感情的な対立が生じ転出する者が出た。差にブナウ移住からの転出者が入植する等、一時的移転が激しかったが、結局、現在日本人移住者は16世帯が入植している。移住地は昭和48年INCRAの引上げとともに無償に譲渡された。	
自然環境	地形 地質・土壌 植生・林相 気候	全体として起伏の多い丘陵地で溪谷が各所にある。 高地部砂壤土、低地部(谷間)は粘壤土〜壤土 森林多い(主として再生林) 年平均気温 22.3℃ 平均最高気温 26.8℃ 平均最低気温 17.7℃ 年間降雨量 1,900mm(1981年現地委託観測データ) 雨期3〜8月 乾期9〜2月 区別は比較的明確
社会環境	主要都市への交通手段 市 町 地区内道路整備状況 電気 水 公共施設	レンフェ〜ボニート間は製鉄、ボニート〜リオ・ボニート植民地間には舗装されていない。 レンフェ、市〜ボニート市は定期バス1日3往復。 レンフェ、市人口 125万人 ボニート市人口 1万人 主体はレンフェ、市、一部カルアルー市へ各戸出荷、ただし、花卉栽培は別出荷 良好。幹線8m巾、支線6m巾。昭和57年多、事業所より、道路対策として、道路用設計購入費19,225千円を寄附した。 全地区電化済 各戸連根井戸、水質良好、水量豊富。 移住地内に診療所がある。ボニート市には無料診療所のほかに、社会福祉院が受け入れ診療所および総合病院がある。

入植戸数と人員 (内地)
 主な
 入植世帯数
 人口
 分譲状況
 食

学校は移住地内に農村小学校が1校ある。高校はボート市にある。
他の施設としては、農機事務所1、売店1、倉庫、修理工場1、製材所1、
等があるが都へ移着された後は活用されていない。

入植戸数と人員 (内地)	年 度	33	34	35	現 地 入 植 者
	戸 数 人 員	5		9	13

主な出身県名：福 岡、長 野、長 崎

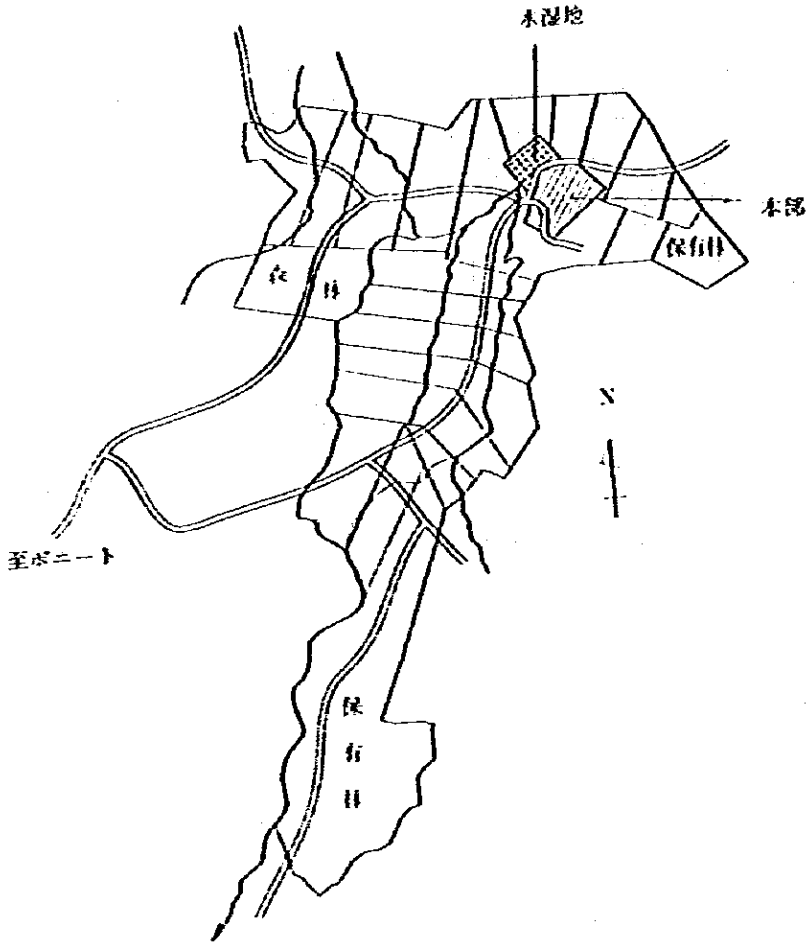
入植世帯数	区 分	入植世帯		人 植 世 帯 数		農 家 戸 数
		居 住	非 居 住	戸 数	人 数	戸 数
日 本 人	居 住	16	-	77	-	16
	非 居 住	-	-	-	-	-
	計	16	-	77	-	16

昭和58年4月1日現在

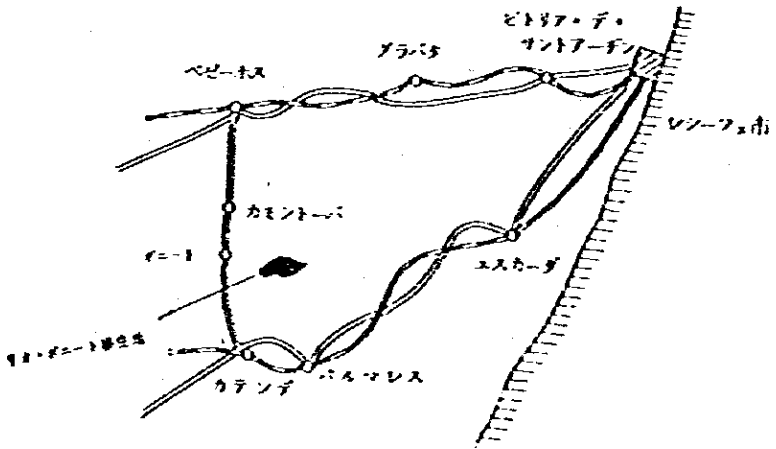
分譲状況	総 面 積	1,380 ha
	ロッテ面積	1ロッテ約20~25 ha
	分譲条件及び価格	1973年12月31日本地券交付 6,000~10,000Cr3, 10年年賦 払
	地 権 取 得	全戸取得済

農 業	作 目	バラ、キャベツ、ピーマン
	作 態	バラ、グラジオラス等を花卉に農機を組み合わせた経営
	農機具の普及状況	トラック 0.5台 トラクター 0.5台 鋤機 1.0台、スプリンクラー 28.8基、等(昭和57年度)
	家畜飼育頭数	特になし
	営農相談機関	
	営農指導	事業所レンジャー支部
	金融機関	銀行
	主作目の販売取扱機関	卸売商人、マガリー食品加工会社
	そ の 他	当初マラクジャ栽培が順調に伸びていたが値下がりにより農業に転向、本年作物として目標が達成付けられた。その後、近年でサンプラロより転住してきた者が、バラ、グラジオラス等の花卉栽培を導入、これが現在営農の主体となっている。

移住地略図



地区略図



(4) ウナ移住地

所在地	バイーヤ州ウナ郡ウナ移住地 PIC UNA, MUNICÍPIO DA UNA, ESTADO DA BAHIA (註 PIC=PROJETO INTEGRADO DE COLONIZAÇÃOの略)	
面積	5,494 ha	
経緯	昭和16年バイーヤ州が民有地を買収し、州内農業者の定着を目的として創設した移住地であったが、昭和24年達邦直営となった。第2次大戦後ブラジルに日本人の移住が再開されてアマゾン地域と時を同じくして最初に日本人移住者が集団入植した移住地である。 昭和28年より4年に亘り50世帯が入植したが日本人移住者は入植後まもなく一部の婦勤者により事件を起し15世帯の離脱者を出し、内10世帯はイツペラ移住地へ、5世帯はジョーイバ移住地へ移転した。	
自然環境	地形 地質・土壌 植生・林相 気候	段状地形、小河川およびその流域低湿地、傾斜地および高台から成る。 低地は有機質に富む土壌、傾斜地および高台地は第三紀層の砂質土または砂質土壌 熱帯雨林で、林相は密である。 年平均気温22.5℃ 平均最高気温25.0℃ 平均最低気温20.0℃ 年間降水量2,300mm 雨期4～8月、乾期9～3月 (1981年現地委託観測データ)
社会環境	主要都市への交通手段 市 地区内道路整備状況 電 公共施設	ウナ移住地～イタブナ間 砂岩舗装道、毎日バス往復 イタブナ～サルバドール間 定期バス毎日ひらばん、所要8～10時間 ウナ～イレウス間 直達道路建設中 イタブナ、イレウスに空港あり、移住地内にテコテコ発着場あり。 イタブナ市人口 5.6万人(130区) ウナ町人口 2.3万人(10区) イレウス市人口 約7.3万人 イタブナ市、ウナ町 良好 センター地区は、ウナ町より送電々化所。またロッテ内は、協同銀行からの貸金券人と事業団の電化助成により1981年に全域が電化した。 (事業団補助金11681千円) 小学校2、会館(事業団補助1980年10月完成)1、倉庫1、修理工場1、売店1 移住地内に診療所、薬局があり医師看護婦が常駐している 小学校(5年生)は地区内にあるが、中学以上の正規学校はウナ町、イタブナ市に寄宿している。

入植戸数と人員 (内地)	年度	28	29	30	31
	戸数	38	1	4	8
	人員				
	現地入植者	23			

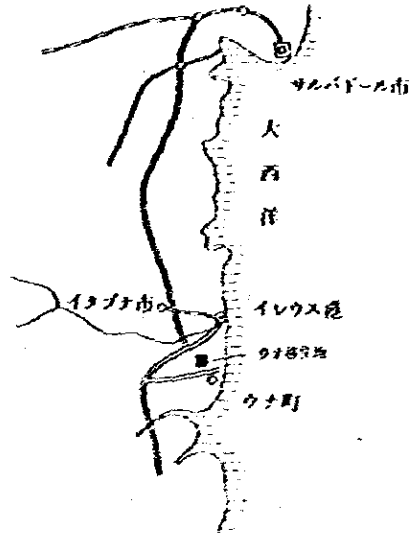
主な出身県名：北海道、京都、東京

入植世帯数	区分	入植数		入植世帯数		農家戸数
		戸数	人数	戸数	人数	戸数
	日本人	居住	34	168		29
		非居住	2	—		—
		計	34	168		29

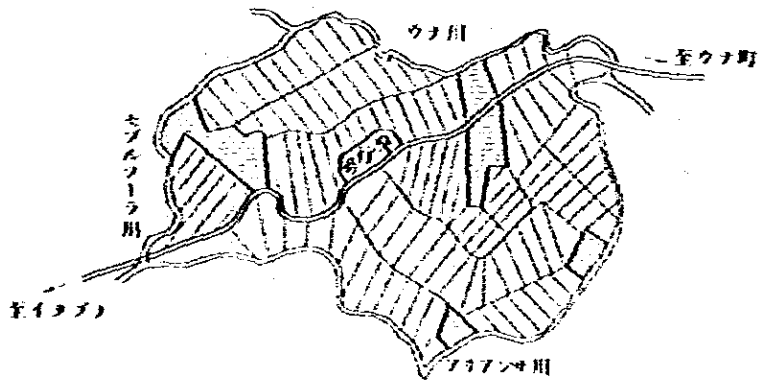
昭和58年4月1日現在

分譲状況	総面積 5,494 ha ロツテ面積 30 ha 分譲条件及価格 26~40 ha 1ロツテCr\$3,000~Cr\$7,000 一括払~10年払 (1975年10月10日現在)
分譲状況 地権取得	分譲 分譲契約締結日は1975年10月から1976年7月で全戸取得済
農形 農機具の普及状況	主作目 バラゴム、コンヨウ、カカオ 態 バラゴムを主体に、コンヨウ、カカオ等を組み合わせた経営、専業栽培農家も多 農機具の普及状況 トラック 0.8台 トラクター 0.6台 耕耘機 0.3台 動力 0.7台、他 (昭和57年農年度)
業 営農指導 金融機関 主作目取扱機関 その他	営農指導機関 営農指導 事業団レンゾフェ支那 カカオ栽培計画実行委員会(CEPLAC) 金融機関 銀行 主作目取扱機関 仲買人に従先販売 その他 入植当初、植民局(現在のINARA)よりゴムの栽培が義務づけられた。そのゴ ムが採収の段階に入って病害にかかされ経済的に低迷していたが、その後カカ オ、コンヨウ等が導入され営農自立も進みつつある。

地区略図



移住地略図



(5) カーボ移住地

所在地	ペルナンブコ州カーボ移住地 COLONIA CABO, MUNICÍPIO DE CABO, ESTADO DE PERNAMBUCO	
面積	3,500 ha	
経緯	ペルナンブコ州政府は、土地を持たない農民に土地を与え生産意欲を向上させるため、昭和38年レシーフ、南方30kmの不良甘蔗地を接収し、州直営の移住地として開設した。 この移住地に対し、ブナウ移住地の転出者、レシーフ、近郊分益農の日本人合計12家族が昭和39年から41年にかけて入植した。 しかし現在、当移住地で農業を営んでいる者は3戸である。	
自然環境	地形 地質・土壌 植生・林相 気候	標高13m 緩傾斜の起伏に富む。 砂糖キビ漢運路のやせ地。下層に不透性粘土起層あり 砂糖キビ畑の跡地 年平均気温25.5℃、最高平均29℃、最低平均22.3℃、雨量2,064.3mm (レシーフ地区 1979年IBGE統計)
社会環境	主要都市への交通手段 市境 地区内道路整備状況 電気 飲料水 公共施設	移住地人口近くを、レシーフ・ヘサルパドール間国道(BR101号線、完全舗装)が通っている。 カーボ市(人口5万人)徒歩20-30分 レシーフ(125万人)へは35km レシーフ、市、カーボ市 専業農家3戸は自家用車で出荷する程度 整備がわくれており、降雨が甚くと車輦の通行が非常に困難となる。 電化済 井戸水および河川水を利用 地区内に小学校が1校ある。日本人子弟はカーボ市の学校へ徒歩通学している 医療機関はカーボ市、レシーフ市にある。
入植状況	入植累計 退耕累計 現在戸数	12戸 ブナウ、リオ・ポニート退耕者及びレシーフ、近郊分益農 9戸 レシーフ、市内 3戸 9名 (昭和58年4月)

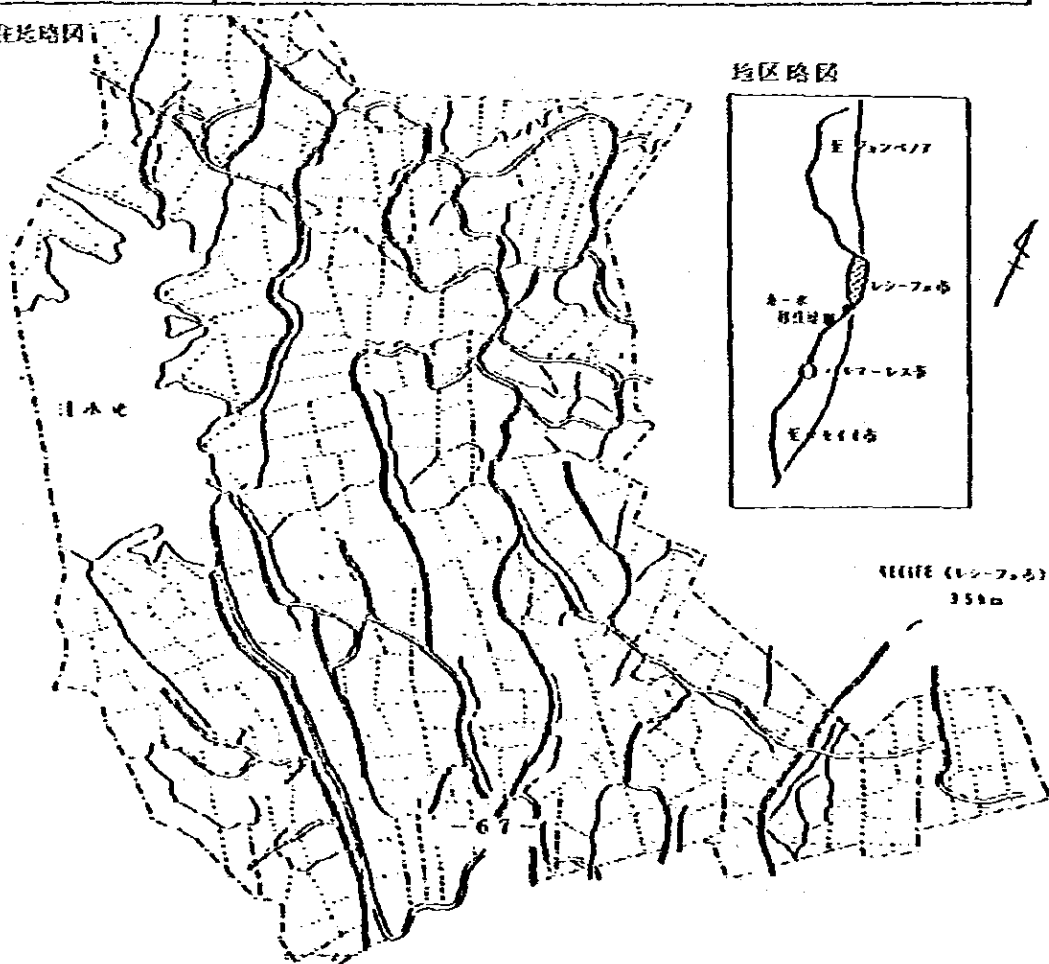
人 植 世 帯 数	入植地		人 植 世 帯 数		農 家 戸 数
	区 分		戸 数	人 数	戸 数
	日 本 人	居 住		3	9
非 居 住			—	—	—
計		3	9	3	

昭和58年4月1日現在

分 該 状 況	総 面 積	3,500 ha
	ロ ッ テ 面 積	1 ロ ッ テ 50 ha
	分 譲 条 件 及 価 格	1 地 代 3300 Cr \$、 掘 置 な し 10 年 分 括 又 は 一 括 払 い (寓 長) (1968.12.21 日 現 在)
地 権 取 得	全 戸 取 得 済	

農 業	主 作 目 録	蔬菜が中心で一部花卉、ゴキバ栽培を行なっている。 不食甘藷耕地であっただけに地力に劣るが、都市に近く地の利を生かした近郊型農業
	管 農 援 護 機 関	
	管 農 指 導 金 融 機 関	事業団レシーフ・支部 銀行

移住地略図



地区略図

350m
レシーフ (レシーフ)

(6) イツベラ移住地

所在地	パイ-キシイツベラ郡イツベラ移住地 PIC ITUBERA, MUNICÍPIO DE ITUBERA, ESTADO DA BAHIA (註 PIC=PROJETO INTEGRADO DE COLONIZAÇÃOの略)								
面積	5,000 ha								
経緯	昭和29年に県内農業者の定着を目的として創立された州政府の移住地である。昭和28年日本人の入植は、クナ移住地の条件で越境した15世帯のうち、10世帯が入植した。当時の移住地は正式に開設されていなかった。転住経路もなく、マラリアが流行し莫大の被害をふもつたため、8世帯が越境したが、その後地からの転住者もあり、現在19世帯になっている。								
自然環境	地形 彩 地質 土壌 植生 林相 気候	標高160~230m、起伏の多い山陵地、水陸に恵まれている。 第3紀層砂岩母材、鉄分の含有多く壤土ないし砂質壤土。 原生林、再生林あり、林相は相当厚く有用材も含まれる。 最高平均気温27.8℃、最低平均気温20.2℃ 年間平均気温23.6℃ 雨期2~7月、乾期8~1月 平均年間降雨量2,100mm (1981年現地委託観測データ)							
社会環境	主要都市への交通手段 市場 地区内道路整備状況 電気 飲料水	移住地よりイツベラ町まで10km、バレンサ市まで52kmで、州都サルバドール市へは、西方ガンドウ町を経て国道101号線により通じている。 サルバドール市より国道101号の国道545号分岐点迄250km及びバレンサ市までの52kmは完全舗装、バレンサ市及び101号通船のガンドウ町との間はそれぞれ未舗装であるが、道路整備は良好である。 イツベラ町0.5万人 バレンサ市5.6万人 イツベラ町、バレンサ市、サルバドール市が主な市場である。 砂利道路および直上である。 電化(昭和57年度、事業費補助5,867千円) 30m程度掘削すると飲料水が得られるが、現在浅井水、湧水を利用してゐる。							
人口(内移住者)	年度	28	32	41	45	46	48	現 住 人 数	7
人口(内移住者)	戸数	10	6	2	3	1	2	現 住 人 数	7
人口(内移住者)	人員							現 住 人 数	7

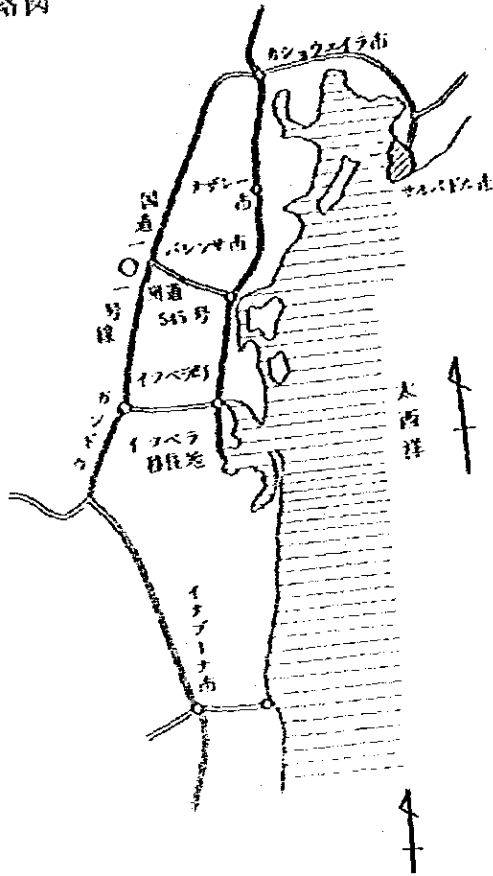
主な出身県名：福島、福岡、三重、北海道

人 世 帯 数	人 世 帯		人 世 帯 数		農 家 戸 数
	区 分	人 世 帯	戸 数	人 数	戸 数
日 本 人	居 住	19	75	19	19
	非 居 住	—	—	—	—
	計	19	75	19	19

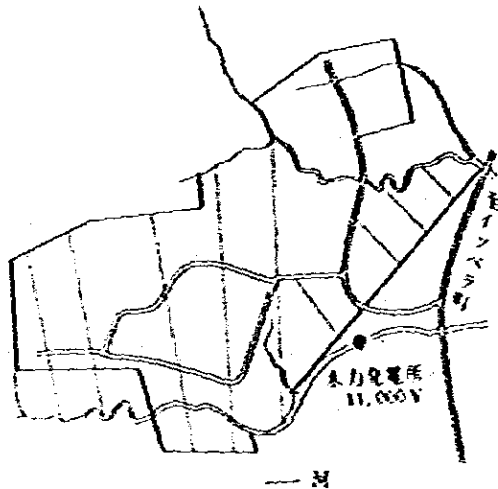
昭和58年4月1日現在

分 譲 状 況	<p>杉 面 積 5,000 ha ロ ッ テ 面 積 25 ha 分譲条件および価格 25 ha 当り 6,500 Cr⁸, 5年分償払、一括払可能。 18 ha ~ 25 ha 1 ロ ッ テ 分 譲 価 格、一括払 ~ 20 年々賦 Cr⁸, 3,000 ~ 3,000。 (1974.11.28現在)</p> <p>分 譲 状 況 況 況 地 権 取 得 全戸取得済</p>
農 業	<p>主 作 目 チョウジ、ハワイマモン、マラクジ、 形 態 チョウジ、ハワイマモン等の複合経営 農機具の普及状況 トラクター 0.9台、トラック 1.1台、鋤資 0.8台、耕耘機 0.7台 点(昭和57農年変)</p> <p>営 農 民 護 機 関 営 農 指 導 事 業 課 レンゾフ、支 部 カカオ栽培計画実行委員会 (CEPLAC) 金 融 機 関 銀行</p> <p>そ の 他 当移住地は丁字(チョウジ)栽培の奨励により山本喜博司氏(ブラジルにおける農業功労賞)を授賞した余幸清氏とハイキ州において胡椒栽培の先鞭をつけた倉谷茂人氏の二人の農家が、この地域の農業をリードしている。また農家経済の安定を図るため胡椒(マモン等)の導入に意欲的である。これらの作物は、今や近隣地域のブラジル人の間にも普及され、香辛香料作物生産地の中核となっている。</p>

地区路网



移住地路网

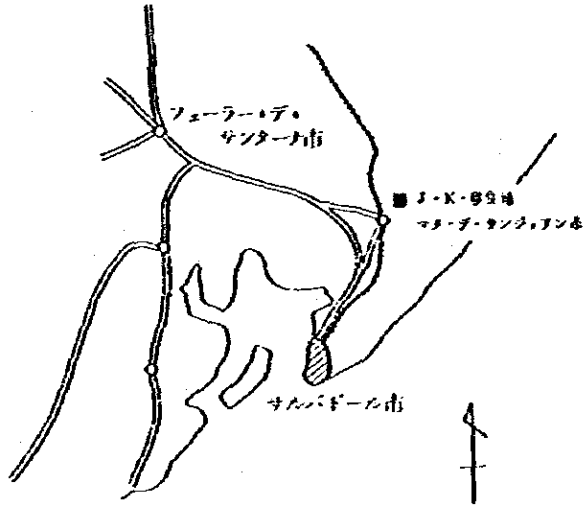


(7) クビチエック (JK) 移住地

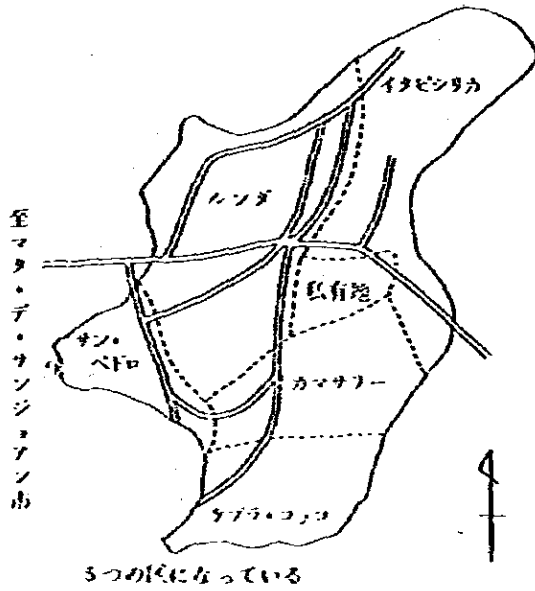
所在地	バイーヤ州マタ・デ・サンジョアン郡ジュッセルノー・クビチエック移住地 NUCLEO COLONIAL DE JUSCELINO KUBISTCHEK (J. K). MUNICIPIO DE MATA DE SÃO JOÃO. ESTADO DA BAHIA	
面積	4,900 ha	
概要	サルバドール市およびフーラー・デ・サンターナ市を中心とした地域への生鮮食糧の供給、市内農業者の定着を目的として、連邦及び州が共管で創設を計画した移住地であるが、他地域の日本人移住者の優秀な成績を知るに及んで、日本人の優秀な農業技術を公開し、バイア州の農業振興をはかるべく考慮し、日本人の導入を追加計画したものである。 日本人の入植は昭和33年に始まり、今日までに123世帯が入植したが、通称問題、経営不振等により多く転出した。問題の通称は昭和44年に整備された。現在55世帯が入植している。	
自然環境	地形 地質・土壌 植生・林相 気候	標高は90m~100m緩やかな起伏のある丘陵地 第3紀砂岩母材、植生土ないし砂壤土 林相は厚く、再生雑木林 最高平均気温28.3℃ 最低平均気温22.2℃ 雨期3~8月 乾期9~2月、平均年間降雨量1,800mm
社会環境	主要都市への交通手段 市場 地区内道路整備状況 電気 給水 公共施設 事業団長課 自治体施設等 その他	移住地よりマタ・デ・サンジョアン市まで6km、マタ・デ・サンジョアン市~サルバドール市間は鉄道および道路が通じている。道路は舗装され所要時間約2時間。 サルバドール市（人口124万人）が主な市場である。 砂岩道路および粘土であるが、雨期は道路状況が極度に悪化する。なお、事業団より、昭和50年度道路工事費として2,142千円を補助した。 1979年7月に全域電化済（事業団補助20530千円） 20m~30m掘削すると飲料水が得られるが、殆んどは河川水、湧水を利用している。 公民館（1978年1月完成） 事務所1、作業所1、診療所1、畜産処理場1、種鶏場、肥料配給設備機械一式 地区内に診療所兼病院がある。小学校は地区内4校、中学校はマタ・デ・サンジョアン、高校大学はサルバドール市にあり、学生数に寄宿して通学している

入 植 状 況	人 情 戸 数 員	年 度 戸 数 人 員	33	34	35	36	37	38	現 地 人 情 者
			5	49	25	30		1	3
主な出身県名：愛媛、長崎、福岡、青森、鹿児島、新潟、宮城									
入 植 世 帯 数	入植数		入植世帯数		農家戸数				
	区 分		戸 数	人 数	戸 数				
	日 本 人	既 住	55	253	55				
		非 既 住	—	—	—				
	計	55	253	55					
昭和58年4月1日現在									
分 譲 状 況	総 面 積	4,900 ha							
	ロ ッ テ 面 積	イタビツリカ地区25 ha、ムンダ地区20 ha							
農 業	分譲条件および価格	Cr\$ 400~500 2年務農 10年分譲払(1969年4月現在)							
	分譲状況	全ロット分譲済み							
	地権取得	全戸取得済							
農	主 作 目	バラ、キク、キュウリ							
	形 態	バラ、キク、グラジオラス等の花卉栽培を主体にキュウリ、ピーマン、インゲン等の蔬菜等を取り合わせた経営							
	農機具の普及状況	トラック 0.6台、トラクター 0.2台、農機 1.2台、 スプリンクラー 1基、等(昭和57農年度)							
	家畜飼養頭数	肉牛(成2.3頭・仔0.5頭)、豚(成1.1頭・仔6.3頭)(昭和57農年度)							
	貸農賃課税関係	貸農賃指導 李奥所レシーフ・支那							
	全農機関	銀行							
土作物取扱機関	特買果を営む親任者子弟が特買し、サルパドールに出発するほかマナ・デ・ン・ジ、アン市で直売する。								
そ の 他	一時農業栽培特にとマトが中心であったため、市場において入植者間の競争となり経営不振であったが、近年では花卉栽培や果樹、畜産を取り入れている。								

地区略図



移住地略図

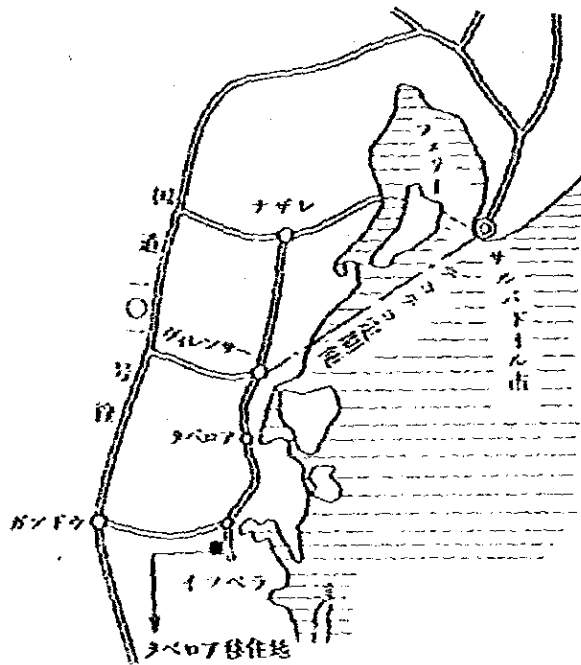


(8) タペロア移住地

所在地	バイ州タペロア郡 MUNICÍPIO DA TAPEROA, ESTADO DA BAHIA	
面積	1,500 ha	
経緯	<p>ベレーン支部管内第1トマスー移住地に入植していた一部農家が、同移住地に胡椒の病害が大発生したため、新しい胡椒栽培地を求めて各地を調査した結果、当移住地と同一自然条件下のイツペラ移住地で胡椒、丁字が立派に栽培されているのを見て、第1トマスー移住者を中心とする転住者のみによって形成された移住地である。</p> <p>当初胡椒を中心として営農を進めていたが、同地へトマスーから流入した胡椒の根腐病が大発生したため胡椒栽培に見切りをつけ、丁字、カカオ、グアラナ、ハワイマモンに転換し従来の胡椒単作営農から香料作物と熱帯果樹を取り入れた複合営農を進めている。将来的には香料作物の一大生産地帯の形成が考えられるが、専門知識・技術が不足していること、販路の未整備等から営農指導の必要性が増大している。</p> <p>現在入植者数は、第1トマスー移住地からの入植者と他地域からの入植者を加えて、日本人は38戸とブラジル人10数戸が入植し、タペロア混合移住管理委員会を組織し自治的管理体制をとっている。</p>	
自然環境	地形 地質 植生 気候	<p>海抜山頂標高10~180mにあり、洪水に恵まれている。</p> <p>壤土、ラトゾールの大型粒状をしつ、土壌構造はさわめてよいが肥沃地でない。</p> <p>原生林、再生林あり、林相は相当厚く有用材も含まれている。</p> <p>イツペラ移住地と同様同じ</p>
社会環境	主要都市への交通手段 市場 地区内道路整備状況 電気・飲料水 公共施設	<p>州都サルバドール市より国道101号線と州道545号分岐点迄250kmは完全舗装、州道545号によるバレンサ市(人口56万人)経由タペロア間24kmは未舗装であるが道路整備は良好である。サルバドール〜バレンサ間は1日3~4回のバス便あり、1日4便のエア・タクシーの便もある。</p> <p>バレンサ市、サルバドール市が主な市場である。</p> <p>砂利道および盛土である。昭和49年度、州道総局が道路舗装を実施したため極めて良好。近い将来国道に直結する計画がある。</p> <p>イツペラ発電所から送電されているが、農耕地帯は導入されていない。近い将来バレンサ市より引込みの計画がある。電力および飲料水については、大部分の者がタペロア市内に居住していることから完備している。</p> <p>公民館(事業開始)1953年8月完成)</p>

入と 植 戸 数 員	年 度	現 地
	戸 数	入 植
	人 員	38
		123
主な出身県名：宮城、青森、山形、福岡、大分、北海道		
昭和58年4月1日現在		
分 譲 状 況	総 面 積	1,500 ha
	ロ ッ テ 面 積	30~130 ha
	分譲条件および価格	平均3,000~1,000 Cr\$/ha
	分譲可能面積	個人取引による(タペロア移住地は集団化による任意移住地)
	地 権 取 得	全戸取得済
農 業	主 作 目	パパイヤ、ガラナ、丁字
	農 形 態	ガラナ、丁字等香料作物を主体にパパイヤを組み合わせた経営
	農機具の普及状況	トラック 0.9台・鋤機 0.6台、脱粒機 0.3台、池(昭和57農年度)
	家畜飼養頭数	
	営農保護期間	
	営農指導 金融機関	事業団レンプー支部 カカオ栽培計画実行委員会(CEPLAC) 銀行

地区略図



(9) その他主な移住地の概況

入 植 地 名	州 名	入 植 者 数		農家戸数	備 考
		戸 数	人 数		
アラゴアス	アラゴアス州	17	61	7	散在住集団 近郊農業 農業
カラベラス	バイヤ州	27	134	19	散在住集団 農業, 果樹
ノーバ・ピソザ	バイヤ州	12	71	12	.
ジュラーナ	バイヤ州	19	101	19	.
シャンガー	ネアラ州	15	-	-	散在住集団 業務, コーヒー, 相模 農業
ベルナンブーコ	ベルナンブーコ州	30	-	-	散在住集団 業務, 養蚕, 農業
南 バイア	バイヤ州	(注)58			事業団民局により 1983年2月公民館 で建設された。
計		120	367	57	

昭和58年4月1日現在

III リオ・デ・ジャネイロ支部

Ⅲ リオデジャネイロ支部管内

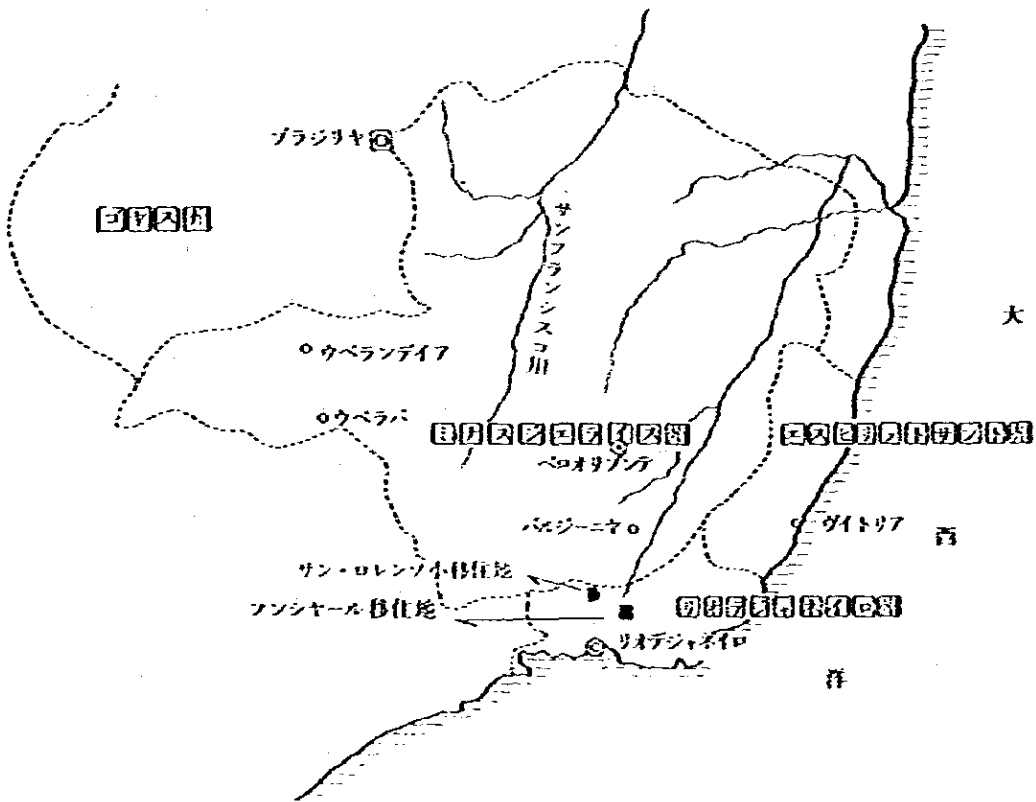
支部機構

リオ・デ・ジャネイロ支部（リオデジャネイロ市）

└─ ブラジリア出張所（ブラジリア）

管轄州

リオ・デ・ジャネイロ州、グワナバラ州、エスピリット・サント州、ミナス・ジェライス州
（除く三角ミナス）、ブラジリア連邦区、ゴヤス州南部



1 移住地所在地域の概要

<p>概 要</p>	<p>面積44,268Km²、人口1,040万人、州都はリオ・デ・ジャネイロ市</p> <p>リオ・デ・ジャネイロ州は東部地方海岸に位置するが、北部はエスピリト・サント、西部はミナス・ジェライス、南部はサンパウロの各州と境界を接している。</p> <p>地勢は州の中央を横断するマンチケイラ山脈と南部の海岸山脈が海岸まで押し寄せ、全体に500～1500mの高地を形づけている。マンチケイラ山脈はオルゴンス、タクアラ、アラクスクルピシヤイス、リオ・プレット、モンテ・ペルヂなどいくつかの小山脈に分かれ、ことに西部の山脈中にアグリヤス、ネグラス、プレチレイラ、オルゴンス山脈中にはモウロ・デ・カベソン、ペードラ・アスー、ペードラ・ド・ソーノなど、いずれも高さ2,000mを超える高峰が連なりブラジル屈指の高地となっている。しかし、北東部はわずかに平地が見られる。河川はミナス州との州境を流れるパライーバ・ド・スール川(1,058Km)を中心に無数の小川がある。その主なものは、ムリアエ(290Km)、ドイス・リオス(200Km)、グアンズー(180Km)等である。</p> <p>また海岸地帯には多くの塩水湖がありその最大のはフェイア湖(130Km²)である。</p> <p>気候については、海岸地帯は熱帯性の高温多湿な気候であるが、高地地帯は亜熱帯性の温暖な気候である。</p>
<p>産 業</p>	<p>〔農業〕</p> <p>リオ・デ・ジャネイロ州は気候と地味に加えてリオ・デ・ジャネイロ市という大消費地に恵まれ、早くより農業が盛んである。主な農産物はコーヒー、米、トウモロコシ、サトウキビ、果実、七葉類などである。</p> <p>牧畜産も盛んで特に養蠶等は近代設備をとり入れて同州の重要な産業の一つである。</p> <p>〔鉱業〕</p> <p>カーボ・フリオ付近には広大な塩田がある。また、大理石、白雲石、金、鉛、黒鉛、石棉等を産出する。</p> <p>〔工業〕</p> <p>リオ・デ・ジャネイロ州はブラジルで最も工業の発達した州の一つで、リオ・デ・ジャネイロ市周辺には、あらゆる種類の工場が密集している。ボルタ・レドンダにあるナショナル製鉄所は、ラテンアメリカ最大の規模をもつ、このほかパラマンサ、ハイム、ラナリ、トルクアトの4製鉄所、二つの巨大な造船所、製糖所、自動車、石油化学、セルローズ、繊維、金属、機械、皮革、時計、セメント等無数の工場がある。</p>
<p>主 要 都 市</p>	<p>リオ・デ・ジャネイロ市</p> <p>人口約485.8万人、リオ・デ・ジャネイロ州の州都、1763年から1960年までブラジルの首都であった。サン・パウロとともにブラジルの2大商工業地帯を構成している。ブラジリア産物文化、観光、商業の中心で、世界3大美産の一つとして有名である。</p> <p>同市はボルタガルの若海名ゴンザロー・コエリョ(Gonzalo Coelho)が1502年1月1日</p>

<p>上 委 係 市</p>	<p>に見出し、河口を河口と間違えリオ・デ・ジャネイロ（1月の河）と命名した。1555年から1567年までフランス人がこの地を占領し、これを駆逐するためメン・デ・サ（Men de Sá）が1565年、植民地を建設したのが現在のリオ・デ・ジャネイロ市の始まりである。</p> <p>キリスト像のあるコルコバード峰、河口のボン・デ・アスカール（移転パンの山）等の奇岩があり、また市内に多くの歴史的建造物があり大西洋に面するコパカバーナ、イパネマの海岸は美しく世界的に有名である。</p> <p>グァナバラ湾をへだてて、かつてのリオ・デ・ジャネイロ州の州都であったニテロイ（Niteroi）市があるが、グァナバラ湾橋架設後の完成により1975年グァナバラ州とリオ・デ・ジャネイロ州は合併しリオ・デ・ジャネイロ州となった。</p>
----------------------------	---

2 移住地の概要

(1) フンチャール移住地

所在地	リオ・デ・ジ・ネイロ州 カン・エイラス・デ・マカク郡 COLÔNIA FUNCHAL MUNICIPIO DE CACHOEIRAS DE MACACU, ESTADO DO RIO DE JANEIRO リオ・デ・ジ・ネイロ州リオ・デ・ジ・ネイロ市の北東100km	
面積	1,015 ha	
経緯	野菜、果樹、養鶏等を中心とした都市近郊型の集約農業を行う移住者を受け入れる移住地として、昭和34年医療協働事業団の前差である旧日本海外移住振興株式会社が購入した移住地である。入植は昭和35年から始まり、現在は32戸が入植定住している。	
自然環境	地 形 地 質 ・ 土 壌 植 生 ・ 林 相 気 候	平坦地と数十米の山地が混在し複雑な地形で、利用できる土地は概ね70%以内である。 台地は壤土ないし砂壤土。低地は粘土質或いは場所によっては砂壤土で石が多い。 大体再生林、低地の部分に湿性草木がある。 乾期5～10月、雨期 11～1月であるがその区分は不明瞭。 年間平均気温23.6℃(最高28.8℃、最低19.8℃) 年間降雨量約1,817mm
社会環境	主要都市への交通手段 市 場 地区内道路整備状況 電 気 飲 水 公 共 施 設 事業団長 酒 組 合 等 そ の 他	カンヨエイラス・デ・マカク町(人口約1.1万人)まで11km、リオ・デ・ジ・ネイロまで約100km、ノーバ・フriburgo市(人口1.4万人)まで58km 大消費都市リオ・デ・ジ・ネイロ及びニテロイ市を対象としており、立地条件は良好である。 土道であるが、雨期でも通行可能。事業団より昭和55年度道路対策として道路機械購入費7,746千円を補助した。 1969年(昭和44年)電化工事完成、事業団半額補助(7,347千円) 飲料水は各戸10m内外の井戸を利用し動力ポンプで給水 小学校 1校 公民館(1977年6月完成) 倉庫 車庫兼宿舍 中学以上の上級学校及び医療機関は、カン・エイラス・デ・マカク町、ニテロイ市およびリオ・デ・ジ・ネイロ市を利用している。

入植戸数 (内地人)	年度	36	37	38	39	40~52	現地入植
	戸数 人員	12	4	1	1		7

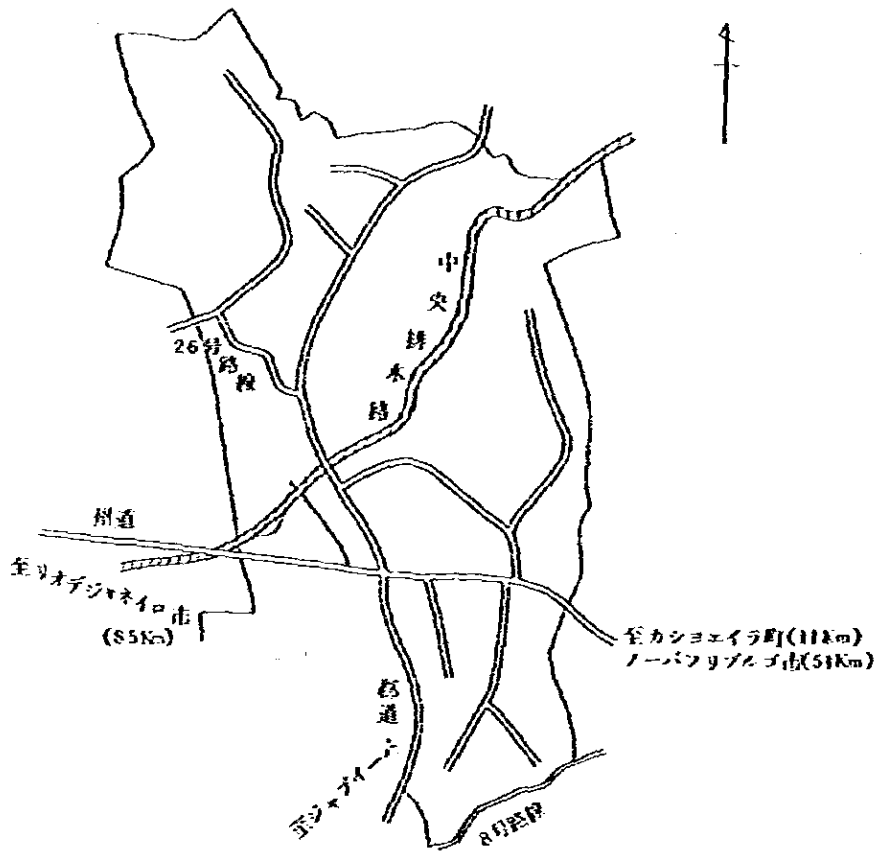
主方出身県名：北海道、福岡、山口

入植世帯数	区分		入植世帯数		農家戸数
			戸数	人数	戸数
	日本人	居住	32	157	32
		非居住	-	-	-
	計		32	157	32
現地人		15	64	15	

昭和58年4月1日現在

分譲状況	総積	1,015 ha			
	ロッテ面積	1ロッテ11.3 ha			
分譲条件及価格	分譲条件及価格	一括払805千円 分割払頭金10千円年割5年分割払 料0.12千			
	分譲可能面積	分譲済面積	未分譲面積	道総市街総等	除地
		9928 ha (88ロッテ)	0	2.2 ha	4.2 ha
分譲取得状況	分譲取得状況	88ロッテ中 取得済86ロッテ 申請中2ロッテ 昭和58年3月末現在 昭和58年3月末現在			
	農形	農形 鶏卵、グアバ、レモン、マラクジヤ 養鶏、グアバ、レモン、マラクジヤ等果樹の専業農家、およびこれら2部門の 複合経営 農機具の普及状況 耕耘機 1.1台 トラクタ 2.0台 トラック 0.1台 他(昭和56農年度) 家畜飼養頭数 肉牛(成0.1頭・仔0.6頭)、乳牛(成0.5頭・仔0.3頭)(昭和57農年度) 営農促進機関 市農協・デ・ジ・ネイロ支店およびコナヤ農組の専門技術員 営農指導 銀行			

移住地略図

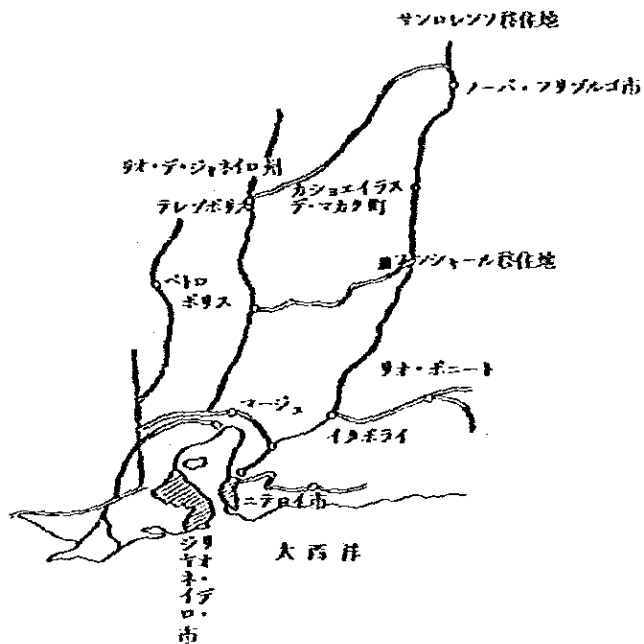


(2) サン・ローレンソ小移住地

所在地	リオ・デ・ジ・ネイロ州ノーバ・フリブルゴ郡カンボ・コエーリ、地区、及びサン・ローレンソ地区		
面積	168 ha		
経緯	雇用、借地、分益農の独立を目的として集落団によって設定された、ブラジルで最初の小移住地である。昭和50年より入植が始まったが、現在は2戸が入植定住している。		
自然環境	標高	1,100 m ~ 1,200 m	
	地形	右岸山脈の山腹に位置し、全体的には移住地入口より中心部までは平たんな地形をなし、先に進むに従って急勾配となる。前方に標高約2,000 mの山岳を見る。	
環境	地質・土壌	表土は灰色の黒色を呈し、可成りの有機質を含み肥沃である。	
	植生	平たんな部は牧草畑、丘陵部は原生林	
環境	気候	気温0℃~30℃、年間雨量約1,500 mm 高地であり、南緯22°であっても可成り冷涼地である。近隣はリオ・デ・ジ・ネイロの避暑地として有名である。洪水については平たんな地は降雨により洪水することがある。	
	社会環境	主要都市への交通手段	ノーバ・フリブルゴ(人口14万人)までの交通は至便であるが、ノーバ・フリブルゴ~小移住地間(40km)は定期バスが日に2回運行しているが主に自家用車を使用している。
環境	区内道路整備状況	上道である。雨期には通行に困難を来たすこともある。	
	電気	自家発電	
環境	飲料水	井戸を利用(5~10 m)	
	公共施設	小移住地区近辺にはなく、全ての公共施設に恵まれている ノーバ・フリブルゴに依存している。	
入植戸数		年度	58
(内地) 入植戸数		戸数	2
		人員	6
すべて現地入植			
昭和58年4月1日現在			
分譲状況	総面積	168 ha(内保留地17.1 ha)	
	分譲面積	27.9 ha	
分譲条件及価格	一括払	4,000\$千円	
	分譲払	頭金10万3千円 5年分納払 利息12%	

況	分譲可能面積	150.9Ha (6ロット) 全て分譲済
	地権取得状況	6ロット全て取得済
		昭和58年3月末現在

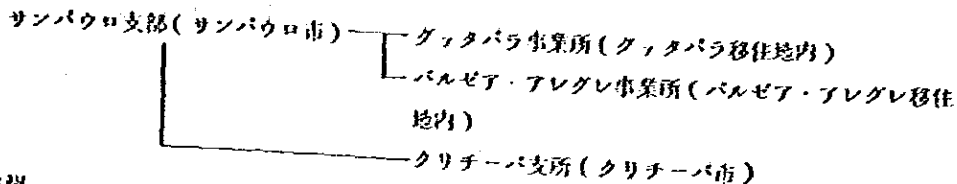
地区略図



IV サン・パウロ支部

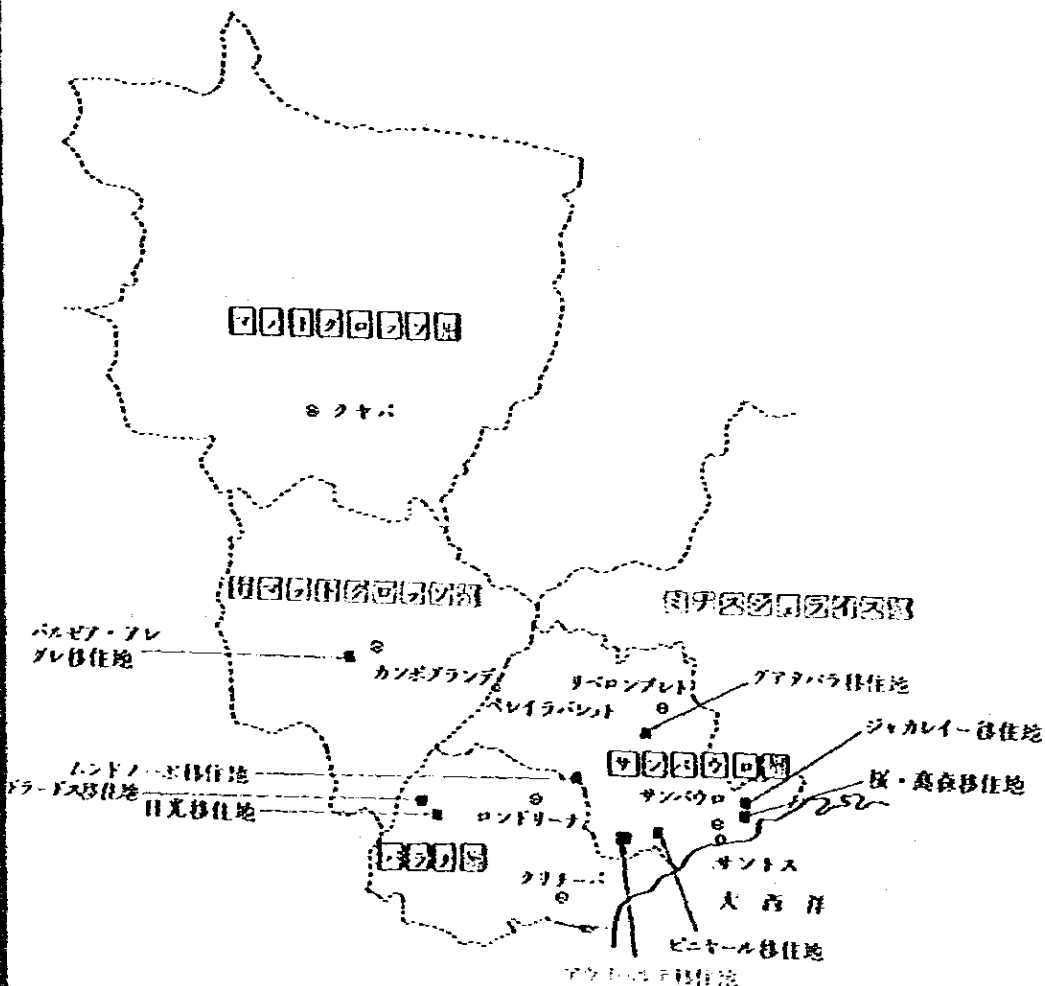
Ⅳ サン・パウロ支部

支部機構



管轄州

サン・パウロ州、パラナ州、南マツト・グロソ州、マツト・グロソ州、ミナス・ジェライス州の一部(三角ミナス)



I 移住地所在地域の概要

(II) 南マット・グロップ州の概要

州移住内地	バルゼア・アレグレ
概	<p>人口 1,370,333人, 面積 350,548km², 人口増加率(70~80)3.19</p> <p>南マットグロップ州は79年1月にマットグロップ州より分離独立した。全土に占める割合は4.2%, 人口密度は3.9人/km²(80年)である。</p> <p>中西部地区に属し、北部はマット・グロップ州、東部はゴイアス及びミナス・ジェライス州のごく一部、南部はサンパウロ、パラナ州及びパラグアイ国、西部はボリヴィア、パラグアイ国と境界を接している。</p> <p>地勢は州中央部に標高約500mのマラカジ、山脈が分水嶺をなし、これにより西部はパラグアイ川、東部はパラナ川方面に緩傾斜している。</p> <p>西部にはアマンバイ山脈がパラグアイ国境に接して南下している。西北部にはパラグアイ川及びその支流流域に標高100mのパンタナルと呼ばれる湿原地帯が広がっており毎年雨季には氾濫する。</p> <p>東西両側を流れるパラナ、パラグアイ川は航行の便があり、またパラナ川にジャ、ピアー、ウルブングの2大発電所が設けられている。</p> <p>気候は熱帯サバナに属し、全体に高温多湿で州都のカンボ・グランデ(標高542m)における年平均気温は22.4℃最高月31.1℃(10月)最低月14.8℃(7月)年平均湿度71%である。3~8月が乾期、9~2月が雨季となっており特に12月に降雨が多い。年平均降水量は1,827.1mmである。</p> <p>パラグアイ川沿いのコロンバ(標高116m)で年平均25.1℃最高月(12月)27.4℃最低月(7月)21.4℃、年平均湿度73%。パラナ川沿いのトレス・ラゴス(標高313m)では年平均23.1℃、最高月25.8℃(12月)、最低月18.8℃(7月)、年平均湿度75%となっている。</p>
産	<p>〔農業〕</p> <p>西北部のパンタナル及び南部地方では牧畜が盛んで、79年度生産高は第三位(全国比7.9%)である。その他南部地方では稲作が盛んで米、大豆、南京豆、棉花、トウモロコシ、マンジ、カ、コーヒー等が主作物である。</p> <p>〔工業〕</p> <p>カンボ・グランデを中心に幾分の発展が見られる。主な工業生産物は鋼鉄、セメント、石灰、等である。</p> <p>〔鉱業〕</p> <p>コロンバ附近のワルクンに豊富な鉄鉱及びマンガン鉱があり、すでに採掘が行われている。</p> <p>カンボ・グランデ市</p> <p>南マット・グロップ州州都で人口30万人、同市の創設は1889年8月で、農畜産物の集積地であり近隣地方が発展するにつれて人口が増加し、1970年頃から急速な発展を遂げ、79年1月が州都となった。</p>

(2) サン・パウロ州の概要

邦内 主要地	ジャカレイ、グックバラ、ピニヤール、ムンド・ノーボ 校・高森、アウリベルデ
概	面積 247,898km ² 人口 25,010,698人 (人口密度 101.25) 増加率 3.18 ('70~'80年)
概	サンパウロ州は南部地方に位置するブラジルの代表的な州の一つで北部はミナス・ジェライス、リオ・デ・ジャネイロ、西部は南マット・グロッツ、南部はパラナの各州と境界を接し、東部は大西洋に面している。
概	地勢は東部海岸に沿ってマール山脈が縦断し、東部帯は標高500~1000mの高地を形成し、パラナ川流域では標高100m内外の中高の台地となっている。マール山脈は海岸に押し寄せ標高1,000mを超える山脈がそびえ立っている。このマール山脈と平行してミナス・ジェライス州との境にはマンチケイラ山脈が横たわり、部分的に1500m以上の高地を形成している。この中にあるカンボス・ジルドンは標高1710m、ブラジルの最も高所にある都市の一つである。サンパウロ州の河川の多くは、こうした地勢のため海岸側から内地へ向かって流れるという一見逆の現象が見られる。西部のパラナ川にそそぐ主な河川にはチエテ(1,112km)、ペイン(500km)等々があり南部海岸を流れるものにはイグアッペがある。パライーバ川は一度西流、グアラレーマ附近にて反転東行してリオ・デ・ジャネイロ州北部から大西洋にそそぐ。
概	これら河川は航行とともに発電にも利用されチエテ川だけでも大小10ヶ所以上の発電所が設けられている。
概	地質は大部分が二畳紀及び三畳紀系の花崗岩質層で砂岩、変岩、石灰岩などの入りまじった二畳紀が最も広い部分を占め、玄武岩、輝緑岩より成る三畳紀系は主に北部にあらわれており、これらでできた土壌テラ・ロッサは肥沃で知られ、農耕に適している。マール山脈及びマンチケイラ山脈は主として、片麻岩より成り太古代(約10億年前)の造陸運動でできたものと見られる。
要	気候は、州南部を南緯線が横切り全体的に亜熱帯性で温暖であるが、東部の高気圧帯に比べ西部のパラナ川沿岸地方での気温はかなり高い。
要	州都サンパウロにおける年間平均気温は18℃、最高月(2月)22.3℃、最低月(7月)14.3℃で年間を通じ気温差は8℃、四季の変化がはっきり感じられる。夏期最高気温は35℃を超えることも珍しくなく、冬期にはときどき降雪を見ることがあるが結氷することは殆んどない。
産 業	〔農業〕 サンパウロ州の農業はコーヒー栽培が勃興するまで、ほとんど見るべきものがなかったがコーヒー産業の発展とこれにともなう商工業の発歩によって、たちまち農業の大本拠地となった。コーヒーの生産量は一時パラナ州やミナス・ジェライス州に第一位を争ったが、現在は第一位である。 現在、主な農産物は棉花、米、トウモロコシ、豆、落花生等がある。 また、農業における日本人の功績は大きく、日本人により開発栽培されている作物も少なくない。 農業と並行して牧畜業も盛んで、サンパウロ市近郊では乳牛の飼育が盛んである。養鶏は日本人が中心となり、鶏卵の生産量は全国最高となっている。

	<p>〔鉱業〕 大量の燐灰石及び白炭石を産するほか硝石、鉛鉱、石綿、ボーキサイトなどを産する。</p> <p>〔工業〕 サンパウロ州はブラジルで最も工業の発達した州で、ことにサンパウロ市とその付近には鉄鋼、自動車、機械、化学、繊維、食品などあらゆる種類の工場が密集し、ラテン・アメリカ最大の工業地帯を作り出している。</p>
<p>注 委 都 市</p>	<p>サンパウロ市 人口1999万人(1980年) サンパウロ州の州都、1554年1月25日マヌエル・デ・ノブレガ、ジョゼ・デ・アンジュータ等イエズス修道士会によって創設せられたブラジル第一の都市で、海拔800mの高原にある。</p> <p>ブラジル経済の中心であり、自動車工業を始め各種の近代工業が付近に集中しており南米で最も発展の速度の速い都市といわれる。</p> <p>日系人数も多く日本からの進出企業、企業も多い。</p> <p>サントス市 人口41.1万人(1980年)、サン・パウロの門戸をなし、ブラジル最大の輸出入港でコーヒー積出港として世界的に有名である。港は外海から屈曲したグアルジ・水道を約5kmのぼった奥にある。郊外のサン・ビセンテ(São Vicente)は1532年建設されたブラジル最古の植民地であるが現在は海水浴客を対象とする観光地となっている。</p>

(3) パラナ州の概要

<p>州内 の住 民 の 住 居 地</p>	<p>日 光</p>
<p>概 要</p>	<p>面積 199,060Km²、人口 2,630,466人、人口密度 33.88 増加率 0.96 パラナ州はブラジルの南部地方に属し、北はサンパウロ州、西はパラグアイ及びマトグロッソ州、南はサンタ・カタリーナ州に囲まれ東は大西洋に面している。 地勢は南部をマール山脈、中部をゼラール山脈が縦断しパラナ川流域を除き、全体が500~1000mの高原で部分的には1000mを超える高地がある。 クリチーバにおける標高は900m、ボンダ・グロッサ950m、アブカラーナ870m、グェラブアーバ1116mで最高地はピニコ・ド・モルンビーの1800mである。ゼラール山脈はエスペランサ、ピキリ、カンゾーなど無数の小山脈に分かれている。河川はほとんどはラ・プラタ河系に属しパラナ河に流れ込む。パラナ河とイグアス川には、それぞれセッチ・クーダス、イグアスと名付ける巨大な滝がある。これらの河川は航行、発電に利用されている。東部は天然の良港でパラナグア港がある。 パラナ州の地質は、二疊紀系及び三疊紀系の沈積岩石層と、海岸線の沖積層からなり、特に中西部に広がる三疊紀系の玄武岩台地は世界最大のものでこれからできた土埃テラ・ロッシュは灰で最も農業に適している。 気候は北部地方を除き全体に温帯性で、ブラジルで最も生活に適した地域と言われる。クリチーバにおける年間平均気温は16.2℃、最高月(1月)平均26.1℃、最低月(7月)11.9℃であるが、冬期に氷点下以下になることも珍しくない。南部のパルマスではこれより低く年間平均15.2℃で冬期には降雪、結氷のほかにしばしば降雪をみる。北部地方の気候は南部より寒いが同じく冬期にはしばしば降雪を見る。雨量はクリチーバで1,352mm、パルマスで1,904mm、全体に1,500~2,000mmである。9月~3月が雨季で、平均して1月~2月が最も多い。4月~8月は乾期で6月~8月は最も少ない。また、中南部高原にはアラウカリヤ(パラナ松)による独特の植物相が見られ、地方の景光に大きな特徴を与えている。</p>
<p>産 業</p>	<p>〔農業〕 パラナ州はブラジル最大の農業振興地帯で農産物の生産量はサン・パウロ、ミナス州と並び3大州の地位を占めている。主な農産物はコーヒー、米、トウモロコシ、棉花、フュージョン等があげられる。また牧畜業も最近盛んになりつつある。 〔鉱業〕 パラナ州には豊富な鉄鉱、鉛鉱、銅鉱があるほか、金、マンガン、ダイヤモンド、螢石等を産出する。 〔工業〕 パラナ州の工業は近年急速な発展を見せている。政府はパラナ経済開発公社(CODEPAR)を設立し、工業の開発・促進に力を注いでおり、各地には製紙、紡績、機械、セメント、食品、皮革、製糖などの大工場が次々と建設されている。中でも、モンテ・アレグレのクラピン製紙会社は南米最大の規模をもつ。</p>

主 要 都 市	<p>クリチーバ市</p> <p>パラナ州政府の所在地で人口108万人、東部高原に位置し標高900m。1654年に創設され、1854年首府となった。詩人エルメス・フンテスにより微笑の町(Cidade Sorriso)と名付けられ優雅な雰囲気に満ちた近代都市である。パラナ州の経済的発展に伴い急速に発展した。</p>
------------------	---

2 移住地の概要

(II) ジャカレイ移住地

所在地	サン・パウロ州ジャカレイ郡 COLONIA, JACAREÍ, MUNICÍPIO DE JACAREÍ, ESTADO DE SÃO PAULO 州都サン・パウロ市より67km	
面積	613 ha	
経緯	農業、果樹、養蚕等を中心とした近郊農業を営む移住者の受入地として、昭和34年に旧日本海外移住振興株式会社が取得・造成した移住地である。移住者の受入れは昭和35年から始まり、現在50戸が入植定住している。	
自然環境	地形	北部および南東部に10～130mの丘陵がある。この丘陵に挟まれた中央部は盆地でパラティ河が貫流している。標高530～570
	地質・土壌	丘陵地：花崗岩系、砂壤土および壤土 低地：葎礫性壤土
自然環境	植生・林相	丘陵地、果樹園、低地は農業用地
	気候	年平均気温 19.5℃ 年間降雨量 1,215.9mm 乾燥1～9月 雨期10～3月 年により降雪あり
社会環境	主要都市への交通手段	移住地人口から各都市への道路は完全舗装。 バス便はひらびんで、所要時間は1時間半。 ジャカレイ市人口10.4万人、8km。サンパウロ市人口719.9万人、67km モジダス・クルーゼス市人口12.2万人、40km。
	市内環境	サン・パウロ市およびリオ・デ・ジャネイロ市の青果市場等。 昭和56年度に事業団補助（総額11408千円）により道路整備を行ない良好となった。
社会環境	電教	昭和16年度（施行は昭和17年）事業団補助により電化（補助額5,635千円） 兼型井戸で水質は良好である。
	公共施設	公民館1（1981年9月完成） ジャカレイ小学校（教師5名、生徒120名、内、日系人27名） （昭和58年3月末現在）、職員宿舍
社会環境	その他	中学、高校、病院等ジャカレイ市を利用している。

人植戸数(内地人)	年度	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	
	戸数	33	2					1				
	人員	176	9					4				
	年度	45	46	47	48	49	現地人植					
	戸数					1	32					
人員					6	165						

主な出身県名：長野、熊本、広島、山形

昭和53年10月現在

人植世帯数	入植数		人植世帯数		農家戸数
	区分		戸数	人数	戸数
日本人	居住		50	244	46
	非居住		-	-	-
	計		50	244	46
現地人			5	20	1

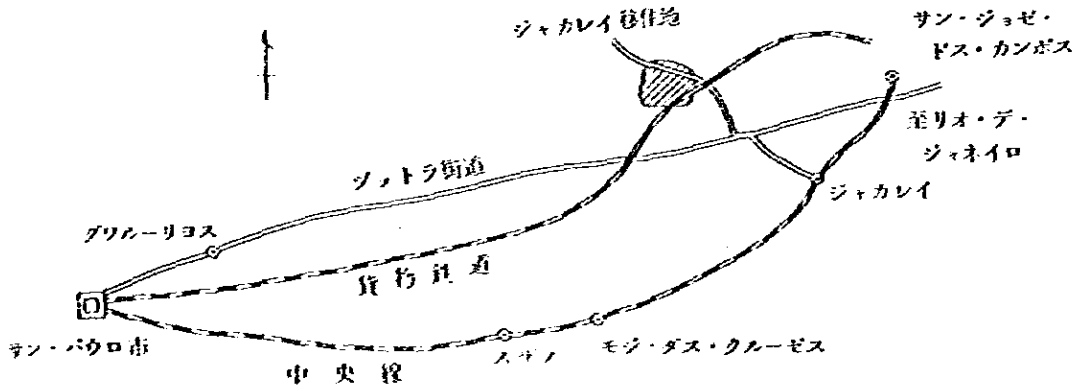
昭和58年4月1日現在

分譲状況	総面積	613 ha			
	ロッテ面積	5.9~8.2 ha (平均6 ha)			
	分譲条件及び価格	一括払864千円 分払払いは頭金10%以上4年一括5年均等払い。但し土地代金額について全期間年12%の利息を加算する。			
	分譲可能面積	559 ha (87ロッテ)			
分譲状況	分譲済面積	未分譲面積	道路市街地等利用地	餘 地	
	559 ha	0	25 ha	27 ha	
地権取得	87ロッテ中取得済85ロッテ、未取得2ロッテ(内、申請中1ロッテ)				
	昭和58年3月末現在				

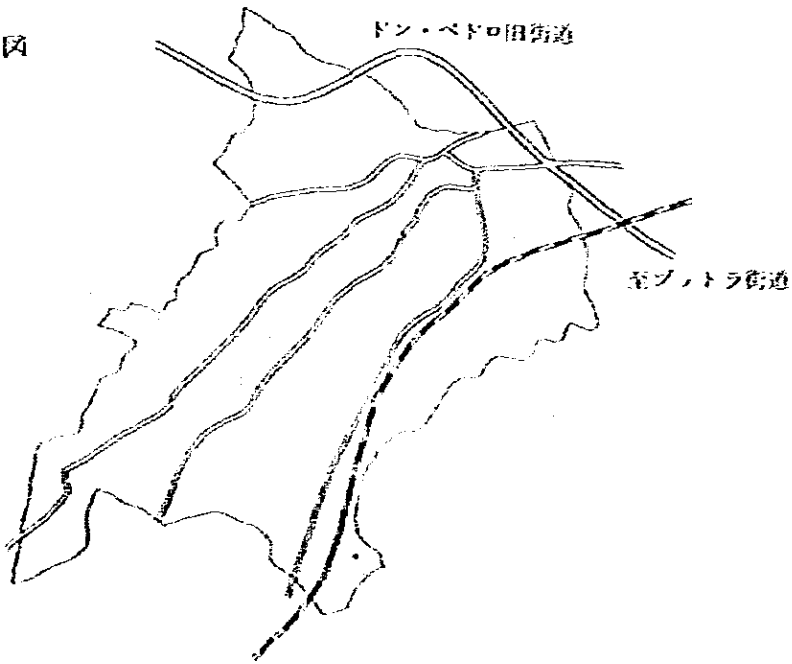
農業	主 作 目	養蜂、花卉(バラ、キク、グラジオラス、マリ)	
	農 形	養蜂、果樹、花卉を主体とした都市近郊型農業	
	農機具の普及状況 (昭和54年度)	トラクター 0.6台、トラック 0.5台、耕耘機 0.6台	
	家畜飼養頭数 (昭和54年度)	豚 8頭	

営農援護機関	
営農指導	コチア産業組合
金融機関	銀行、組合
農産物販売取扱機関	コチア産業組合

地区略図



移住地略図



(2) グアタバラ移住地

所在地	サン・パウロ州リベロン・プレト移 NUCLEO COLONIAL GUAJAPARA, RIBEIRÃO PRETO, ESTADO DO SAO PAULO	
面積	7,294 ha	
経緯	<p>当初、全国拓殖委員達が山形、茨城、長野、岡山、山口、鳥根、佐賀の7県(各県拓達)から資金的援助を得、コチア産種と協約してグアタバラ耕地の一部を購入することとして、田移住振興会社に代理取得を依頼した。その後、造成、分譲に供するすべての事業を移住振興会社が行うことになり、全拓達、コチア産種はそれぞれ日本国内と領内でのあっせんおよび指導、生産物の販売等で協力することとなった。移住は昭和36年から開始されたが、移住者は当初前記7県からあっせんされた。(後全対象にあっせんが行われたが7県以外からの内地移住者はない)</p> <p>営農は低地を利用しての水田および蔬菜作と、丘陵地を利用しての柑橘・雑作栽培を予定したが、必ずしも順調に進展せず、現在では営農型態が変り養蚕、養蚕、果樹の導入がはかれ、これらの組み合わせで進められている。入植定住者は119戸である。</p>	
自然環境	地形	約60%が大谷状地形地、10%がモジグリス川の低地である。 標高510~581m
地質・土壌		丘陵地は輝緑岩および砂岩の風化土壌より成るテラロソフ、ミストラーダ pH 4~4.5
植生・林相		低地は赤泥土および泥炭土(腐植性)部分的に白色砂壤土。 丘陵地：小灌木林または草地 低地：河川沿って原生林産生
気候		年平均気温22.6℃ 平均最高気温31.8℃ 平均最低気温13.3℃ 年間雨量1,128mm 雨期10月~3月 乾燥4月~9月
社会環境	主要都市への交通手段	移住地~リベロン・プレト市間 急行バス等頻繁 所要時間1時間 リベロン・プレト~サン・パウロ市間 急行バス等頻繁 所要時間5時間 グアタバラ町~サンパウロ市間 鉄道 約7時間 ① グアタバラ町 人口約2.5千人 幹路、鉄道12km 無装束であるが雨天通行可 ② リベロン・プレト市 人口約30万人 幹路35km サン・パウロ州北部の中心都市 ③ アララクアラ市 人口約7.7万人 幹路35km 果樹加工工場など多い

社 会 環 境

(4) サン・カルロス市人口約10.9万人 陸路45km
 大学が多い

(5) リオ・クラロ市 人口約10.3万人 陸路100km

(6) サン・パウロ市 人口約719.9万人 陸路285km

以上2以下は各都市間完全陸路

場 サン・パウロ市、リベロン・プレット市、その他周辺の各都市
 主として共同出荷であるが、製袋人出荷および優先販売

地区内道路整備状況 総て土道である。其路は普通。
 交換分合後の丘陵道路が整備されていない。
 低地道路は、高懸劣悪となる。

電 気 昭和44年事業開始により電化完成。(事業補助金10318千円)
 その後交換分合により移転した丘陵地の一部は未電化。

飲 料 水 主として自家用井戸(15m位)による。一部共同簡易水道。
 公共給水日本井戸(120m位)昭和45年度事業開始により建設

公 共 施 設
 事業開始後 診療所医師は常駐していない。グェタバラ町の病院より定期的に医師が来
 ており、これに対し、事業所は特約医協金を出している。グェタバラ小学
 校(教師4名、生徒82名、内、日系人50名)

組 合 等 警察官派出所、公民館(1982年3月完成)

そ の 他 コチア産種事務所、販売所、製糖配合所、精米所、野球場
 全拓遊樂場並びに各種植物発
 演習医科週に一回、リベロン・プレット市より往診している。
 産接費用(フェンダ・グェタバラ)には医師が常駐している。
 中学以上の土蔵学校はリベロン・プレット市に通学。

人 口 数 と 人 員 (内 地)	年 度	36	37	38	39	40	41	42	43	44
	戸 数	16	26	40	32	1				
	人 員	83	135	210	116	5				
	年 度	45	16	17	現 地 人 口					
	戸 数			11	36					
	人 員			48	178					

主な出身地名 : 茨城, 山形, 長野, 真 母, 長 山, 山 口, 佐 賀

昭和53年10月現在

人 情 世 帯 数	入 植 数		入 植 世 帯 数		農 家 戸 数
			戸 数	人 数	戸 数
	区 分	居 住 非 居 住	119	623	115
日 本 人	居 住	119	623	115	
	非 居 住	—	—	—	
	計	119	623	115	
現 地 人		1	3	0	

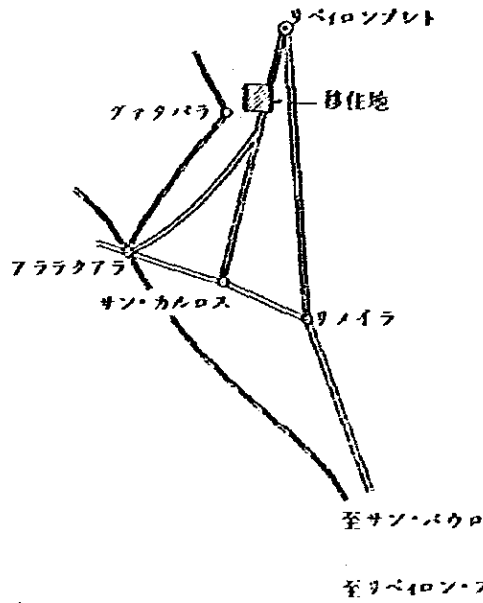
昭和55年3月末現在

分 譲 状 況	総面積	7,294 ha			
	ロ ッ テ 面 積	低地3 ha 丘地2~6 ha			
	分譲条件及び価格	一括払90~1,122千円(丘地), 2.5~269.5千円(低地) 分割払(頭金50千円以上減額)丘地1年後払, 低地8カ月後払, 利息12% 市街地 一括払い384千円, 分割払(頭金50千円減額なし, 1年後払 利息12%)			
分 譲 状 況	分譲済面積	5,018 ha (1,236 ロ ッ テ, 全拓達分譲地750 ha 含)			
	未分譲面積	1,659 ha (1,132 ロ ッ テ)	359 ha (101 ロ ッ テ)	541 ha	1,759 ha
	分譲状況	(昭和58年3月末現在)			
地 権 取 得	1,111 ロ ッ テ 中 (内, 市街地9 ロ ッ テ) 取得済937 ロ ッ テ, 未取得88 ロ ッ テ (内, 申請中116 ロ ッ テ) (昭和58年3月末現在)				

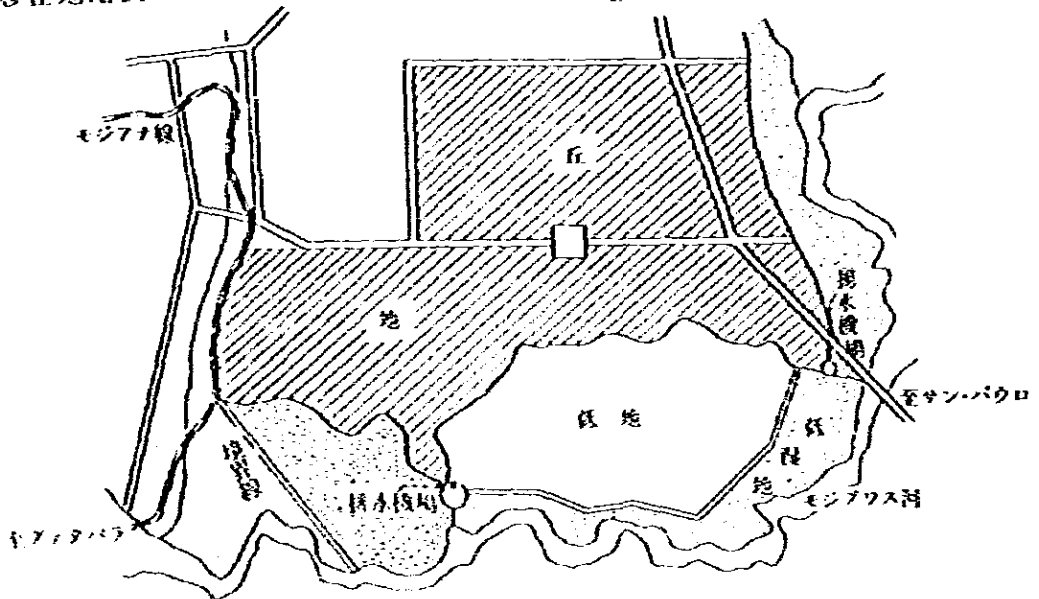
農 業	主 作 目	蕎麥, マヌ, 水稲
	形 態	兼営, 兼営, 及び米作のみ業及びこれらを組み合わせた営農
	農 具 の 普 及 状 況	トラクター 1.4 台, トラック 0.2 台 (昭和57農年度)
	家 畜 飼 養 頭 数	豚(成5.9頭・仔3.8頭) (昭和57農年度)
	営 農 援 護 機 関	中央信託局・パワロ支店及び同支店グァタバラ事業所。 カンピーナス(200ha)ピランカーバ農人等研究機関, 並びにコチア産業組合 ブラ拓製米等
金 融 機 関	銀行, 組合	
主 作 物 の 販 売 取 扱 機 関	蕎麥: コチア産業組合 マヌ: ブラ拓製米 果樹: 各種加工場 米: 農先販売	

農 業	そ の 他	入植当初、貧民は低地を利用しての水田及び蔬菜作と丘地を利用しての稻稈、雑 作栽培を予定したが、必ずしも順調に進展せず、現在は養鶏、養蚕及び稲作のいわ ゆる三白農業を3本柱として進められている。
--------	-------	--

地区略図



移住地略図



(3) ビニヤール移住地

所在地	サン・パウロ州サン・ミゲル・アルカンジャ郡 FAZENDA DO PINHAL MUNICÍPIO DE SÃO MIGUEL ARCANJO, ESTADO DE SÃO PAULO	
面積	755 ha	
経緯	蔬菜、果樹、養鶏を中心とした近郊農業を行う移住者の受入地として、昭和37年田日本海外移住振興株式会社取得、造成した移住地である。この移住地の指導には事業団の依頼を受けて南伯産業組合中央会があたっている。現在の人権戸数は55戸である。	
自然環境	地 形	緩谷状形、丘陵部はやゝ平坦その傾斜ゆるやかな傾斜(5~7°)標高660~735m。 小川数本あり。
	地 質・土 壌	頁岩を母材とする土壌で壤埃土が主体。丘陵部にテラ・ロッサ系土壌が部分的にある。
	植 生・林 相	40%が原生林、20%が雑木林、40%が荒地および放牧地。
	気 候	年平均気温18.1℃ 平均最高気温26.9℃ 平均最低気温7.2℃ 年間雨量1,293mm 雨期12~4月 乾期5~11月
社会環境	主要都市への交通手段	移住地へ各都市間 バス便頻繁 サンパウロ市より国道経由で81年アスファルトが完成した。 所要時間 車で2時間半、バスで4時間。
	社 会 環 境	サン・パウロ市 人口約 719.9万人 陸路 163Km イタベチニンガ市 " 6.1万人 " 60Km ソロカバ市 " 25.5万人 " 100Km ピエダーデ市 " 1.3万人 " 80Km ピラルド・スール " 8千人 " 22Km サン・ミゲル・アルカンジャ市 " 8千人 陸路約 20Km
	市 場	主としてサンパウロ市、その他近郊都市
	地区内道路整備状況	全部土道であるが、80年事業団補助(総額7,925千円)により道路整備され良好となった。
	電 気	昭和15年度事業団補助により電化(事業団補助9,782千円)
	水 道	各戸に架設戸で良好
	公 共 施 設	公共用送電線本数昭和19年事業団補助により200本の架設戸架設。

事業団長 議

移住地内に医療施設はないが最も近い町 ビラール・ド・スール市並びにサン・ミゲル・アルカンジョ市に事業団特別区がある。また、2、3の病院もある。
教員宿舎、倉庫、公共用地探用

組合等
その他

組合事務所並びに倉庫
ビニヤール小学校(教師4名、生徒106名、内、日系人50名)
(昭和58年3月末現在) 日本語学校1校
中学校へはビラール・ド・スール市もしくはサン・ミゲル・アルカンジョ市へバス通学。

人
口
推
計

人 口 推 計	年 度	昭和37	38	39	40	41	42	43	44
	戸 数	3	7	4	3	1			
と 内 地 人 地 人 員	人 員	14	31	23	11	3			
	年 度	現 在 年 度							
	戸 数	55							
	人 員	215							

況

主な出身県名：福井、富山、福島、千葉

昭和53年10月現在

人 口 推 計	区 分	入 植 数		入 植 世 帯 数		農 家 戸 数
		居 住	非 居 住	戸 数	人 数	戸 数
人 口 推 計	日 本 人	居 住		55	333	54
		非 居 住		-	-	-
人 口 推 計	現 地 人	計		55	333	54
				-	-	-

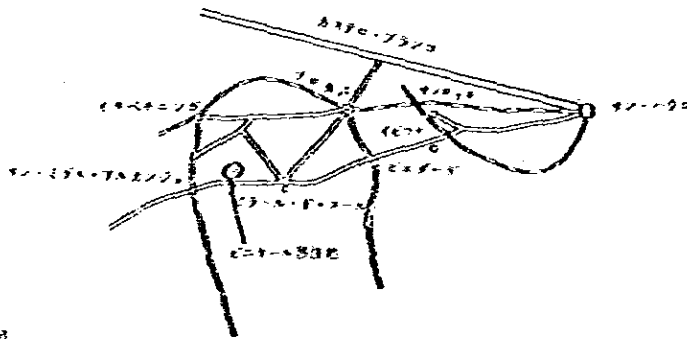
昭和58年4月1日現在

分 譲 地 の 取 得	総 面 積	756ha			
	ロ ッ テ 面 積	1ロット105~121ha平均12ha			
分 譲 地 の 取 得	分譲条件及価格	一括払650千円			
		分割払い日額全10月以上1年間置5年均等払い。但し土地代金額について全期間年12厘の利息を全額とする。			
分 譲 地 の 取 得	分譲可能面積	729ha(60ロット)			
	分譲状況	分譲済面積	未分譲面積	道路占街地等利用地	除 地
分 譲 地 の 取 得		729ha	0	29ha	0
	地 権 取 得	全戸取得済(60ロット)			

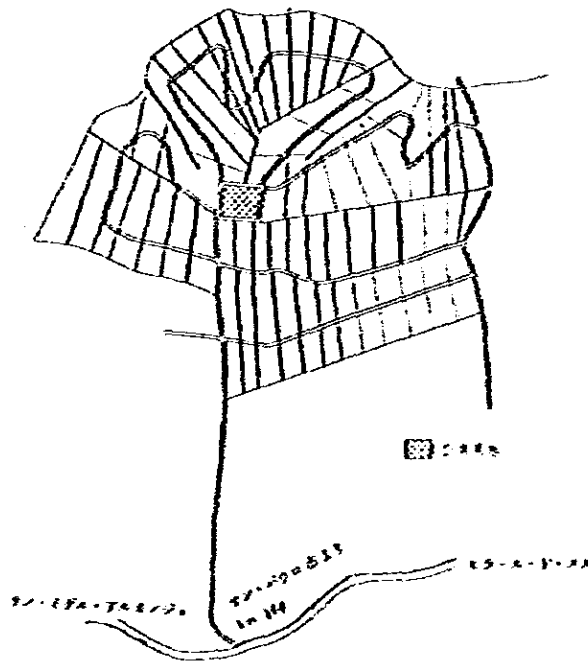
昭和58年3月末現在

主 作 目 形 態	ブドウ, トマト, ニンジン 果樹(イタリアブドウ及び着下の柑橘, ピワ, リンゴ, カキ)専業農家が殆んどで, 一部トマト, ニンジン, フュジョン等蔬菜との組み合わせによる農業
農機具の普及状況	トラクター0.7台 耕耘機0.7台 トラック0.3台
家畜飼養頭数	肉牛0.2頭 乳牛0.2頭 豚0.3頭 役馬0.1頭
営農支援機関	
営農指導	南伯産業組合指導部, 専業団
金融機関	銀行
主作物販売取扱機関	南伯産業組合中央会 ビニヤール単協

地区略図



移住地略図



(4) ムンド・ノーボ移住地

所在地	サン・パウロ州オウリーニョス郡 BAIRRO MUNDO NOVO, MUNICÍPIO DE OURINHOS, ESTADO DE SÃO PAULO		
面積	239 ha		
経緯	サンパウロ産業組合中央会、傘下のオウリーニョス産業組合が、旧ムンド・ノーボ耕地を買収し、組合員となる日本人移住者を受け入れるために創設した移住地で、移住者は昭和36年および37年に、日本から17世帯現地から7世帯が入植した。現在は15戸が入植定住している。		
自然環境	地 形 地 質 - 土 壤 植 生 - 林 相 気 候	緩傾斜起伏地の高台及び緩傾斜の台地 標高420~450m テラロシアに露岩の残った土、保水力に優れ極めて肥沃 一部に原始林地帯があるが大部分は開拓地 年平均気温26℃ 平均最高気温34℃ 平均最低気温12℃ 年間雨量1200-1500mm	
社 会 環 境	主要都市への交通手段 市場 地区内道路整備状況 電気・飲料水 公共施設	移住地～オウリーニョス市間 砂利道良好、トラック等 オウリーニョス市～サン・パウロ市間 完全舗装 バス頻繁 所要時間8時間 鉄道1日1便 オウリーニョス市 人口約5.3万人 北東 7km サン・パウロ市 人口約719.9万人 南東 394km 上通であるが良好。 電気・水道共に完備している。 移住地内には医療施設なし オウリーニョス市に医療施設完備 移住地内に小学校1校 中学校・高校はオウリーニョス市学校	
入植戸数と人員	年度	昭和36	37
入植戸数と人員	戸数	8	8
	人員	13	41
	年度	現地人植者	
	戸数	9	
人員	13		

主女出身県名 : 愛媛, 北海道, 長崎

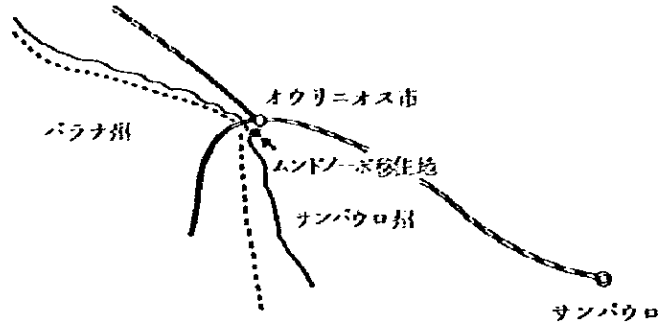
昭和53年10月現在

入植世帯数	人植数		入植世帯数		農家戸数
			戸数	人数	戸数
日本人	居住	15	93	15	
	非居住	-	-	-	
	計	15	93	15	
現住人	計	1	5	1	

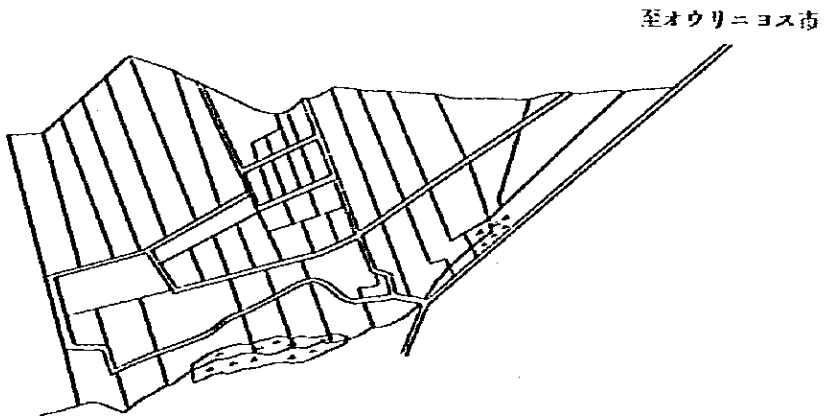
昭和58年4月1日現在

分譲状況	<p>総面積 239 ha</p> <p>ロ・テ面積 10 ha</p> <p>分譲条件及価格 一括払い 652 Cr \$</p> <p>分割払い 渡航前に391千円</p> <p>2年目より毎年210千円相当約賃を3年間に支払う。</p> <p>延 権 取 得 全戸取得済</p> <p style="text-align: right;">昭和53年10月現在</p>
業 務	<p>主 作 目 鶏卵, マユ, コーヒー</p> <p>形 態 鶏卵を主体に養蚕, コーヒー, 果樹等を組み合わせた営農を行っている。</p> <p>農機具の普及状況 トラクター1.3台, トラック0.8台 (昭和51年)</p> <p>家畜飼養頭数 豚0.7頭 (昭和51年)</p> <p>営農長 養蚕課 養蚕指導 事業用サンパクロ支部, 事業援助による専門家が年数回個別指導に当たっている。また, サンパクロ産業組合中央会より, 時々果樹関係の営農指導員がまわっている。</p> <p>金融機関 銀行</p> <p>その他 入植者は旧耕地から引継いだコーヒーを主体として営農を行っていたがそのサビ病により打撃を受け, 現在ではわずかに栽培が見られる程度である。栽培計戸生糸などを製糸会社の生産により昭和48年末より養蚕の導入が認められている。</p>

地区略図



移住地略図



(5) 核・高森移住地

所在地	サン・パウロ州グワラレーマ郡 COLÔNIA CEREJEIRA, ESTRADA GUARAREMA KM6, BAIRRO GOIABAL, MUNICÍPIO DE GUARAREMA, ESTADO DE SÃO PAULO					
面積	200 ha					
経緯	日系コロニアの有力者足立小平治氏が、昭和35年伯人買上の土地の委任を受けて日本人移住者と分譲することとなった。当初同氏の出身県である岐阜県から受入れたが、後全国から受入れることとなった。入植者は日本直来と現地からとあわせて現在76戸が定住している。					
自然環境	地形	緩い起伏の丘陵、小川、谷川、湧水等豊富。標高580~590m				
	地質・土壌	壤土				
	植生・林相	再生林を含む草原地帯				
	気候	年平均気温17℃ 年間降雨量1,500mm				
社会環境	主要都市への交通手段	近傍各都市へバス便が頻繁にある。				
	市場	サン・パウロ市	人口	約719.9万人	57Km	
環境	地区内通達整備状況	良好				
	電気料	自力で電化済み、一部事業に給電。				
環境	公共施設	井戸(但し、該地区の極く一部に水のないロッチあり。)				
	事業団保護その他	小学校、教員宿舎、日本人会館、倉庫、公民館(1980年12月完成) 日照学校 中学・高校はグワラレーマ市もしくはサン・カレイ市に通学 移住地内に医療施設はなくグワラレーマ市を利用				
入植戸数と人員(内地)	年度	37	38	39	40	41
	戸数	39	0	1	3	1
	人員	171	0	19	11	3
	年度	現地入植者				
	戸数	98				
	人員	169				

主な出身県名：岐阜、長野、広島

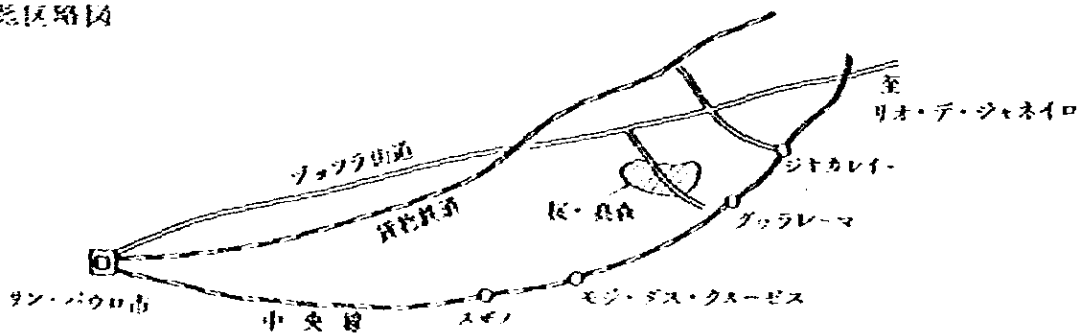
昭和53年10月現在

入植世帯数	入植数		入植世帯数		農家戸数
	区分		戸数	人数	戸数
日本人	居住		76	432	76
	非居住		-	-	-
	計		76	432	76
現地人			17	95	7

昭和58年4月1日現在

分	総面積	200 ha
該	ロッテ面積	1ロッテ約5 ha
状	分譲条件及価格	一括払い 金 52万円 借 28.8万円 分割払い 借金残金は1年以内。
況	地権取得	取得済。 一部分割出来たの者が491号法律(1971年10月1日付法律5709号)の制限にかかり未取得である。
		昭和53年10月現在
営	主 作 目	花卉(バラ、グラジオラス)
業	営 業 状 況	露地バラの栽培専業農家がほとんどで、一般農場との複合経営および兼業を含む。
て	営 業 指 導 機 関	事業団サンパクロ支店、協力機関としてコチヤ産協等。
農	主産物の販売取扱機関	花卉は主として個人。
産	団	蔬菜、鶏卵、鶏肉、果実は主として組合。

地区地図



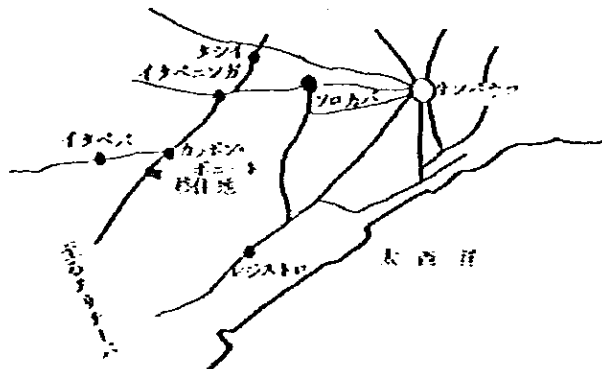
(6) アウリベルデ移住地

所在地	サン・パウロ州カッボン・ボニート郡 NUCLEO AURIVERDE, MUNICÍPIO DE CAPÃO BONITO ESTADO DE SÃO PAULO	
面積	418 ha	
経緯	青年就移住者独立用及び本邦からの入植者を対象として、昭和52年に事業団が取得、造成した移住地である。入植者の受入れは昭和53年より始まり、現在15戸が入植定住している。	
自然環境	地形 地質・土壌 植生・林相 気候	地形が高く(標高750m)北部、西部に向かって約50mの標高差がある。 地区内に3本の小川が流れており波状形地が3ヶ所にわかれてある。 粘板岩系を母岩とするLatosol Vermelho Escuroと呼ばれる赤色壤埃土 20haの再生林の他は牧野、雑草地である。 年平均気温 20.1℃ 年間降雨量 1,453.2mm 乾期 1~9月 湿期 10~3月
社会環境	主要都市への交通手段 市場 区内道路整備状況 電気 教科書 公共施設	移住地人口から各都市への道路は完全舗装 カッボン・ボニート市(人口2.4万人) 距離 6.5km ソロカバ市(人口25.5万人) " 13.3km サン・パウロ市(人口719.9万人) " 24.5km カッボン・ボニート市、サン・パウロ市等 土道であるが良好 電気は移住地人口から、保留地まで通じて配線され(昭和56年度)、延長域外へ連絡している。(事業団建設費7,568千円) 8~10mの深井戸で水質は良好である。 移住地内に特にないがカッボン・ボニート市に病院がある。また同市に小学校、中学校、普通高校、商業高校、併設学校がある。
人と 植戸 数員	年 度 戸 数 人 員	現況入植者 11 47

昭和56年9月末現在

人 植 世 帯 数	人 植 数		人 植 世 帯 数		農 家 戸 数
	日 本 人	現 地 人	戸 数	人 数	戸 数
	居 住		15	63	15
	非 居 住		11	-	11
	計		26	63	26
	現 地 人		-	-	-
昭和58年4月1日現在					
分 譲 状 況	総 商 積	419 ha			
	ロッテ面積	15 ha			
	分譲条件及び価格	一基地の5.070千円、分譲払い月額金20万、4年の据置、5年分割払 但し土地代金額について全期間年12万の利息を計算する			
	分譲可能面積	410 ha (27ロッテ)			
	分譲状況	分譲済面積 39.5ha (26ロッテ)	未分譲面積 1.5ha (1ロッテ)	貸 賃 用 途 等 (道路市街地利用等) 9ha	
	地 権 取 得	26ロッテ中、取得済1ロッテ、未取得25ロッテ			
		昭和58年3月末現在			
農 業	主 作 目	農業、果樹、花卉			
	営 農 援 護 機 関	コチア産業組合			
	営 農 指 導 金融機関	コチア産業組合 銀行、組合			

地区略図



(7) バルゼア・アレグレ移住地

所在地	マト・グロソ州テレーノス郡 FAZENDA VARZEA ALEGRE, MUNICÍPIO DE TERENOS, ESTADO DE MATO GROSSO DO SUL	
面積	36,172 ha	
経緯	昭和32年、邦人自営農受入地として旧日本海外移住振興株式会社が、購入造成した移住地である。入植は昭和33年から開始され山口県人が多い。当初はバナナ及び米を中心とした営農に従事したが思わしくなく、その後兼鶏を導入し柑桔、アパカシ(パイナップル)などの果樹と組み合わせての経営は順調であり、又一部では牧畜も行なわれており、61戸が入植定住している。	
自然環境	地形 北端は平坦地、南端は緩傾斜丘陵地 標高250~310m 地質・土壌 主に砂壤土、砂質土、若干のテラ・ロソ、テラ・マサペ地帯が斑点状に散在。 植生・林相 いわゆるカンボセラード地帯である。原始林や再生林が散在するが有用材乏しく草生地帯も極めて多い。	気候 年平均気温24.7℃ 平均最高気温34.0℃ 平均最低気温10.0℃ 降雨量 1313mm 雨期10月~3月 乾期4月~9月 区別は明確。
社会環境	主要都市への交通手段 鉄道はノロエス線の駅が地区内に2ヶ所あり、カンボ・グランデ市まで約180分、テレーノス市まで約30分、1日に2便ある。 カンボ・グランデ市からサン・パウロ市間1,043kmに日、鉄道、バス便、航空機がある。	交通 毎日2、3回で 30時間 バス 夜行含めて毎日6往復 13時間 航空機 毎日2本、時により3本 1時間半 カンボ・グランデ市(18万人)、サンパウロ市1,043km テレーノス市(3千人) 距離 20km カンボ・グランデ市(30万人) 15km カンボ・グランデ市、クヤバ市、サン・パウロ市 地区内道路整備状況 上述であるが良好 地区内に国道BR262号(アスファルト)が通っている(カンボ・グランデ~アキタウアサ~ポリビタ国境)。 電気 昭和53年度化(事業費補助17,707千円) 水道 入植者は自営戸、公共団地及び市街地の組合団地の事業所、学校、

社 会 環 境	公 共 施 設	組合などは鉄道用水道を借用利用している。
	組 合 等 そ の 他	<p>移住地内に医療機関はないがカンボ・グランデ市に カトリック教団経営慈善病院、私立病院がある。</p> <p>パルデア・アングレ小学校（教師1名、生徒30名、内、日系人5名） （昭和58年3月末現在）</p> <p>倉庫、飼料配合所、組合共同販売所</p> <p>公民館（事業費援助、1975年3月完成）</p> <p>中学校以上の上級学校は、カンボ・グランデ市に寄宿</p>

入 植 戸 数 と 内 地 人 員	年 度	昭和33	34	35	36~49
	戸 数	8	9	24	
	人 員	37	41	129	
	年 度	50	現地入植		
	戸 数	1	59		
	人 員	2	251		

昭和53年10月現在

主な出身県名：山口、広島、兵庫、大阪

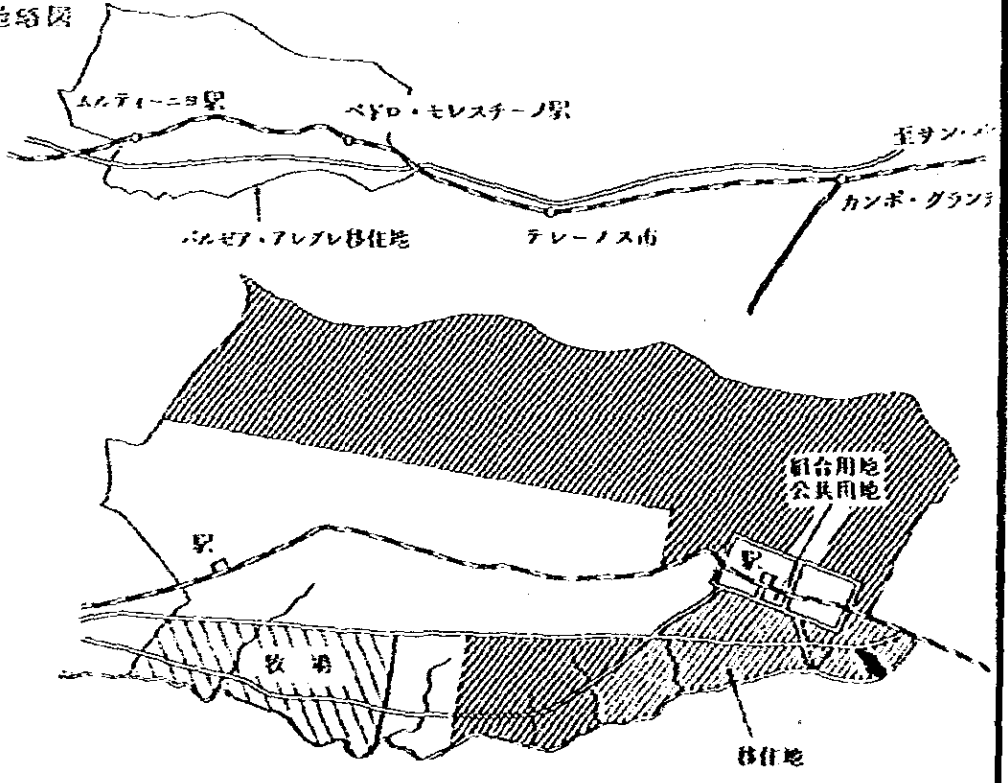
入 植 世 帯 数	入 植 数		入 植 世 帯 数		農 家 戸 数
			戸 数	人 数	戸 数
	日 本 人	居 住	61	311	60
		非 居 住	-	-	64
		計	61	311	124
	現 地 人	14	58	14	

昭和58年4月1日現在

分 譲	総 面 積	36,363 ha
	ロ ッ テ 面 積	25 ha (小型ロッセ) 888 ha (大口ロッセ)
	分譲条件及価格	一括払い大宅17,477千円、小型825千円 小型ロッセの分割払いは延令10年以上1年払済5年均等払い、大口ロッセは延令50年以上一括済なし2年払い。但し土地代金全額について、全期間年12千の利息を計算する。
	分譲可能面積	31,215 ha (218ロッセ)

状	分譲状況	分譲済面積	未分譲面積	道路市街地利用地等	餘地
		31,245ha (218ロット)	0	2,120.5 ha	1,596.5ha
地	権	取得			
況		218ロット中、取得済118ロット。(内、申請中14ロット)、 未取得100ロット			昭和58年3月末現在
農	主	形			
	目	鶏卵、相模			
	態	委嘱農業農家が殆んどで一部果樹、蔬菜を組み合わせた営農を行っている。			
	農	具の普及状況			
		トラクター1.1台 トラック0.5台 トラクタ0.6台その他(昭和57農年度)			
	家	畜飼養頭数			
		肉牛(成1.8頭・仔2.4頭)(昭和57農年度)			
	営	農			
	指	導			
		事業団 農協 IPEAO(西部農教調査実験研究所)			
	金	庫			
		銀行			
果	主	作物取扱機関			
		協会は、パルゼア・アレグレ産業組合、果樹については商人或は個人が直接カンボ・グランデ市にて販売している。			
七	の	他			
		パルゼア産物はサン・パウロ産粗中央会に加盟しており同会の養鶏技術的に よって時々技術指導が行なわれている。			

移住地地図



(8) 日光移住地

所在地	パラナ州マリア・エレナ郡 COLÔNIA NIKKO, MUNICÍPIO DE MARIA HELENA, ESTADO DO PARANÁ	
面積	904.9 ha	
特徴	牧場の雇用移住者が、寮泊して事業場から土地購入金の借負を受けて、仮想的に独立した地区である。経営の主体はコーヒーであるが、最近日果栽培力を入れている。現在の入植定住は28戸である。	
自然環境	地形	緩やかな起伏のある起伏地。地区内に小川が2〜3本ある。標高約470m
	地質・土壌	テラロシネミスタ砂壤土、pH6.5
	植生・林相	原生林(落木、喬木が密植)
	気候	年平均気温 24℃ 平均最高気温 33℃ 平均最低気温 17℃ 年間降雨量 1,200mm内負
社会環境	主要都市への交通手段	移住地〜マリア・エレナ バス1日3便 所要約1時間 ・〜ウムアラマ * 2便 * 2時間 ・〜セラ・ドス・ドウラード * 3便 * 30分 ・〜ロンドリーナ * 1便 * 7時間 マリア・エレナ市 人口 約2千人 25km ウムアラマ市 * 5万人 40km セラ・ドス・ドウラード市 12km ロンドリーナ市 * 25.8万人 350km
	地区内道路整備状況	土道。雨天通行は可能だが極度に悪路となる部分がある。
家	電 気	昭和51年事業開始時に電力化(供給量4,996千円)
	水 利	各戸井戸水利用。水質良好
公 共 設 施	小 学 校	小学校1校(但し校舎は昭和51年度着工事業場が建設)
	公 民 館	公民館(1975年3月完成)
そ の 他		地区内に衣類洗濯場はないがウムアラマ市に洗濯場がある。 中学校・高校はウムアラマ市にあり

人 植 戸 数 と 人 員 (内 地)	年 度	現地人植者
	戸 数	62
	人 員	319

主な出身県名：高知, 愛媛, 鹿児島

昭和53年10月現在

人 植 世 帯 数	入植数		人 植 世 帯 数		農 家 戸 数
	区 分	居 住	戸 数	人 数	戸 数
日 本 人	居 住		28	213	28
	非 居 住		-	-	2
	計		28	213	30
現 地 人			15	90	15

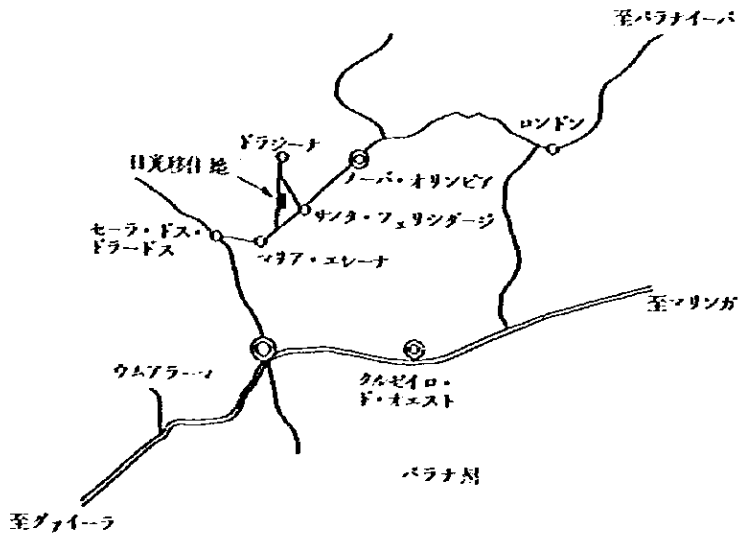
昭和58年4月1日現在

分 譲 状 況	総 面 積 904.9 ha ロ ッ テ 面 積 1 ロ ッ テ 約 1210 ha (56 ロ ッ テ) 分 譲 条 件 及 価 格 契約の当事者並びに入植者団体と地主との契約 土地代はha 15~75 程度1年分割 (但し入植当時の価格で現在は高値) 地 権 取 得 全戸取得済
------------------	--

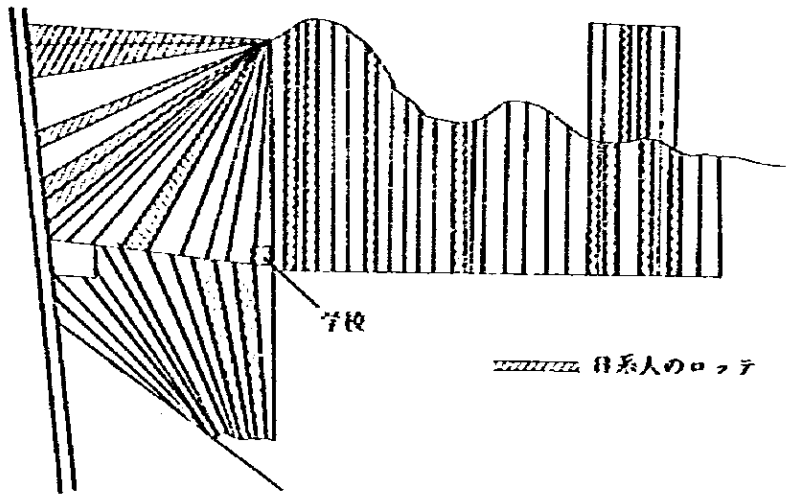
昭和53年10月現在

農 業	主 作 目 コーヒー, 鶏卵, ブドウ, マユ 形 態 コーヒーを主体にフュージョン, 大豆, 落花生等雑作を組み合わせた飼養, ブドウ, 養蚕も経営に取り入れる農家がある。 農機具の普及状況 トラック1.0台 トラクター0.5台 飼養1.5台 その他(昭和53農年度) 家 畜 飼 養 頭 数 肉牛(成12.0頭・仔7.0頭), 豚(成22.0頭・仔2.3頭), 乳牛(成1.0頭・仔0.4頭), 役馬(成1.1頭・仔0.1頭)(昭和53農年度) 営 農 研 究 機 関 営 農 指 導 事業協同サンパクロ支店 畜 産 研 究 会 畜産産業組合中央会以上の専門家に係る指導が時にある。 金 融 機 関 銀行, 上 作 物 取 扱 機 関 産物産組
--------	--

地区略図



移住地略図



V ポルト・アレグレ支部

V ボルト・アレグレ支部

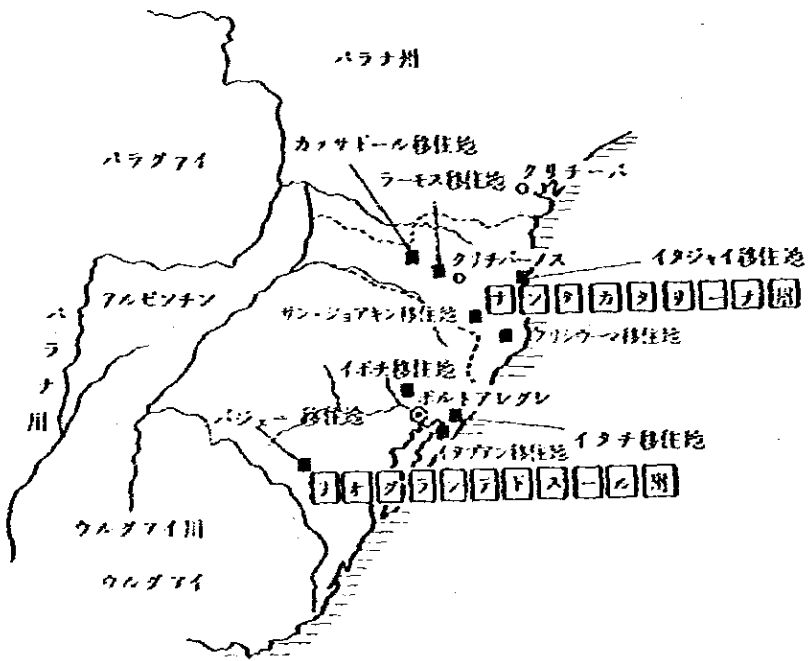
支部概観

ボルト・アレグレ支隊(ボルト・アレグレ市)

管轄州

リオ・グランデ・ド・スール州

サンタ・カタリーナ州



1. 移住地所在地域の概要

管轄州	サンタ・カタリーナ州, リオ・グランデ・ド・スール州
概 要	<p>サンタ・カタリーナ州は人口3,659,500人(1978年), 州都はフロリアノ・ポリスである。リオ・グランデ・ド・スール州は7,971,128人, 州都はボルト・アレグレ市である。人種構成は此州とも白人比率が他州に比べ低い(リオ・グランデ・ド・スール州89%, サンタ・カタリーナ州95%, ブラジル平均61.0%)</p> <p>気候は亜熱帯から温帯に属し, 年平均気温は15℃~20℃である。雨量は年間概ね1,200mmから1,800mmで夏乾冬湿で, ウルグアイ型である。</p>
産 業	<p>管内の主要産業は農牧畜で労働人口の15%が第1次産業に従事している。</p> <p>(農業) 奥地は大面積による農牧畜(木綿, 大豆, 小麦, 馬鈴薯等及び牛・羊等), 近郊は中小面積での集約農業(ブドウ, 桃等温帯果樹及び蔬菜類, 花卉等)が多い。 生産量から見れば, リオ・グランデ・ド・スール州の米はブラジルの22%を生産する。</p> <p>(工業) 企業数においてはリオ・グランデ・ド・スール州はサンパウロに次いで2位, サンタ・カタリーナ州は5位を占めている。皮革工業, 金属加工組工業, 有機化学工業, 機械工業, 食糧品加工業, ブドウ酒製造業等が盛んでヨーロッパ系移住者が母国の技術を移転し発展させた分野が多く多角的である。企業規模は零細企業が多く, 従業員が100名未満のものが95%をしめている。</p> <p>(鉱業) 石炭はサンタ・カタリーナ州がブラジル総生産額の80%を, リオ・グランデ・ド・スール州が20%強を産出している。リオ・グランデ・ド・スール州では銅(ブラジルの90%以上), 及び黄水島, 木化石等も産出している。</p>
主 要 都 市	<p>ボルト・アレグレ市</p> <p>リオ・グランデ・ド・スール州の主都, パットス川の北端グワイバ河口の南岸(市緯30°0'53")に位置する。</p> <p>1752年以降ポルトガル(系)人が大西洋上のポルトガル領アソールズ島から移住, 1824年以降は中央ヨーロッパ系(ドイツ人, イタリア人, ポーランド人, スペイン人)が移住してきており, 人種のもザイク都市となっている。</p> <p>ボルト・アレグレは1712年に創設され, ボルト・ド・スカザイスと呼ばれていたが, 1772年に町造りが始められ1773年に現在の市名ボルト・アレグレと改称され, 1810年に政府が置かれ州都に昇格している。</p> <p>グワイバ河, ショクイ河, シーノス河及びカイ河が合流し, グワイバ湖となっておりパットス湖に連なっていて, 水路の要衝に位置していること, 外国人が移住してきたこと及び鉄道が敷設された等もあって工業化が促進され南部ブラジルの政治, 経済, 文化の中心となっている。</p>

市の人口は1,170,000人(1980年推定)、ブラジル第5の人口をもつ都市である。
気候は温帯的で年間平均気温は19℃と温暖であるが、標高が15mと低いゆえに、パントス湖の影響を受けて夏は非常にむし暑い。

2. 移住地の概要

(1) ラーモス移住地

所在地	サンタ・カタリーナ州、クリチバーノス郡フレイ・ロジエリオ地区 DISTRIO DE FREI POGERIO, CURITIBANOS, SANTA CATARINA (NUCLEO COLONIAL "GOVERADOR CELSO RAMOS")	
面積	1,137ha (5007ア)	
経緯	サンタ・カタリーナ州中、山部地帯の農業振興のため、同地域に通ずる温帯果樹及びその他の農作物並びに小畜畜の飼育に専門的技術を有する日本人を導入することを目的として、州と事業団が協定に基づいて創設した州直営の混成移住地である。(日本人入植枠70名、現地伯国人枠30名) 日本人の入植は、昭和39年及び翌40年に現地から16世帯、日本からは昭和42年以降今日まで3世帯が入植しているが、その後雇用青年の受入と独立、他地域からの移住地内或いはその隣接地への入植もあり、ラーモス地区在住の日本人数は57戸となっている。	
自然環境	地形	傾斜1~7°の丘陵地帯で、地区内に低地多数。 母岩が玄武岩の壤土、粘壤土、砂壤土、pH 5~5.8 未利用地は大部分再生林化し、灌木、雑草が繁茂している。現在殆んど自然原生林は残っていない。
	気候	年平均気温 15~16℃ 平均最高気温 24.5℃ 平均最低気温 9.1℃ 年間降雨量 1,400~1,600mm
社会環境	主要都市への交通手段	移住地〜クリチバーノス市間(23km)砂利道。定期バス1日2往復のみが、入植者自家用車等がひんぱんに通っている。所用時間30分。 クリチーバ市〜クリチバーノス市〜ラージェス市〜ポルト・アレグレ市間 完全舗装。
	市場	クリチーバ市〜クリチバーノス市 定期バス1~5便 約5時間。 クリチバーノス市〜ラージェス市 定期バス1~5便 約2時間。 ラージェス市〜ポルトアレグレ市 定期バス2便 7時間。
	地区内道路整備状況	モモ、リンゴ等果樹は、主にサンパウロ市へ直接共同出荷。花立類は主にポルト・アレグレ市場、その他一部はサンパウロ、クリチーバ及び直轄都市。
	電気	電化は昭和52年度までに完了(事業団補助1,159千円)
	飲料水	主要井戸(7~8口)水質良好、水量は豊富である。

社会	公共施設 事例掲載	ラームス小学校(教師3名,生徒81名,内,日系人20名), 教員宿舎2棟, 公民館1棟(1981年8月完成)。地区内に医療機関はないがクリチバーノス市(人口1.5万人)に総合病院がある(フレイ・ロジェリオ病院)。
	その他	中学校, 高等学校はクリチバーノス市, クリチバ市, ラージュス市, ボルトアレグレ市に通学あるいは寄宿。

入植戸数 (内地)	年度	44	45	46	47	48
	戸数	3	2	5		1
と内地 人員	年度	現地入植者				
	戸数	72				
	人員	-				

昭和53年10月現在

主な出身県名：北海道, 長崎, 山口, 沖縄

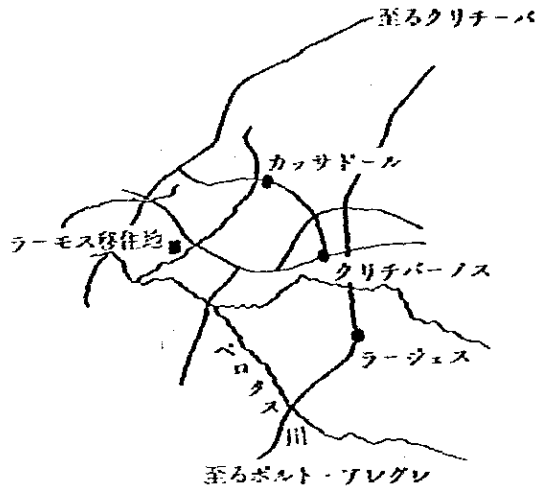
入植世帯数	区分	入植数		入植世帯数		世帯戸数
				戸数	人数	戸数
	日本人	居住	57	289	57	
		非居住	-	-	5	
		計	57	289	62	
現地人		15	-	15		

昭和58年4月1日現在

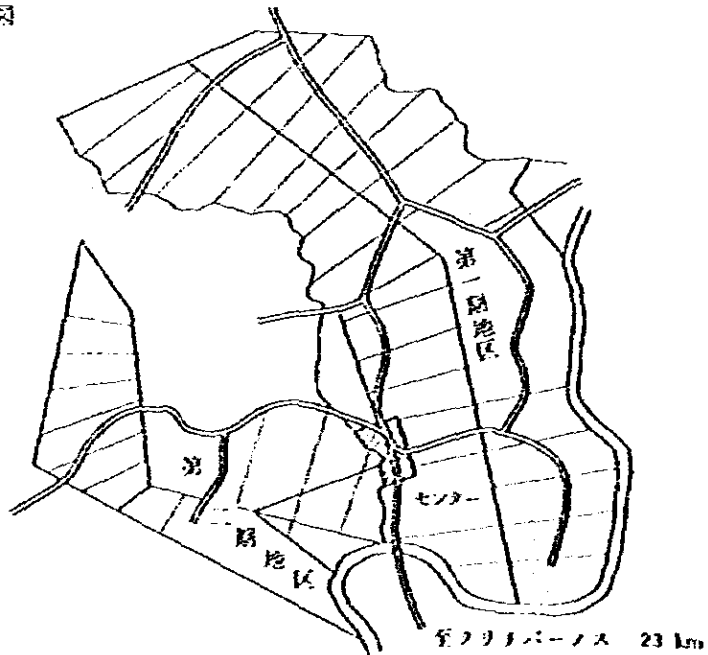
分譲 状況	総面積	1,137ha(50ロット)			
	ロット面積	1ロット平均25ha(12haのロットも7ロットある。)			
	分譲条件及び価格	土地代(含住宅資材代) Cr \$1997 3年返済 10年分払(無利子)。 11年9月以降 土地代 Cr \$1000 3年返済 5年分払(無利子) 住宅資材は購入価格を8年後5年分払。			
分譲状況	分譲済面積	未分譲面積	道路市街地等利用地	除地	
	1,115ha	-	225ha	-	
分譲取得	民法入植者(全員第一次入植)は土地代払込を完了しており, 地権取得済, また払込中のものも全員地権は完結済となっている。				
農産物	主産品	ニンニク, トマト, ビーマン等の果菜類, カーネーション, キク及びリンゴ等の温帯果樹。			
	特産品	花卉生産(カーネーション, 菊)グループ, 輸送果菜生産(トマト, 人参, ビート等)グループ, ニンニク生産グループ及び, リンゴ, 後生産グループとそれぞれ専業分化している。			

農 業	農機具の普及 状況	トラクター0.9台,トラック0.4台,耕耘機1.2台,動機1.1台(昭和57農年度)
	家畜飼育頭数	乳牛0.1頭,肉牛0.4頭,豚(成0.3頭・仔0.1頭)(昭和57農年度)
	営農援護機関 営農指導	市野ボルトアレグレ支部,州農業改良普及事務所,INV実験場が近接にある(ピエドラ直60km)
	金融機関	銀行
	生産物取扱機関	大部分の生産物はコナア・南伯両農協を通じ,サンパウロ市へ共同出荷している。

地区略図



移住地略図



(2) イボチ移住地

所在地	リオ・グランデ・ド・スール州イボチ移及びドイス・イルモン郡 VALE DAS PALMEIRAS, MUNICIPIO DE IVOTI, ESTADO DO RIO GRANDE DO SUL	
面積	257.53 ha	
経緯	リオ・グランデ・ド・スール州分島移住者が中心となり、事業開始土壌購入資金の懸賞を受けて、昭和42年26戸が集団的に土壌購入後立した地区で、移住地農家の雇用青年および近在近郊農家の一部が同様の奨励で隣接地区を買収入植し、現在45戸が定住している。	
地形	地	谷から山頂まで150~250mあり、北西に傾斜をなす丘陵の一角にイボチ移住地がある。標高平均200m
地質・土壌	地質・土壌	玄武岩、結晶片岩を母岩とする赤褐色ラテライトで有機質に富み水はけが悪い。
植生・林相	植生・林相	再生雑木林、アカシア・メグラ植林地が大部分であったが、現在は殆んど全部が耕地となっており、ベツタン河沿いの共有地だけが雑木林で残されている。
気候	気候	年平均気温 21.1℃ 平均最高気温 26.3℃ 平均最低気温 14.2℃ 年間平均降水量 1,363.8mm 降霧：冬期数回。
交通手段	主要都市への交通手段	ポルト・アレグレ市より完全舗装道路(BR116)50kmでイボチ町に至る。ポルト・アレグレ市人口(117万人)50km、イボチ町(人口5千人)3km ノーボ・ハンブルグ市(人口8万人)10km、サン・レオポルド市(人口5万人)15km、ドイス・イルモン市(人口1万7千人)6km。
市場	市 場	ポルト・アレグレ市、サン・パウロ市、リオ市、ヨーロッパ諸国。
地区内道路整備状況	地区内道路整備状況	無舗装。雨天時若干泥がけ化するところがあるが、幹線道路は舗装に転入されており、新設路も総舗装を行っている。
電気	電 気	電化は州の補助を受け自力で導入。
飲料水	飲 料 水	事業開始時に1年51年度に3ヶ所の深井戸を掘削、良好な水質の飲料水が得られる。
公共施設	公共施設	深井戸3基、ダム及び給水塔、農業事務所兼保健所、公民館(1981年8月完成)
その他	その他	医療施設はイボチ町、ドイス・イルモン市、ノーボ・ハンブルグ市にある病院を利用している。イボチ町にも小学校及び中学校がありここに通学しているものもある。高校、大学はノーボ・ハンブルグ、サン・レオポルド、ポルト・アレグレ市に通学又は寄宿。

入植戸数(内地人)	年度	41~46	17	現地人精者
	戸数		2	55
	人員		2	

主 女
出身 名 : 鹿児島, 北海道, 山口, 熊本, 静岡

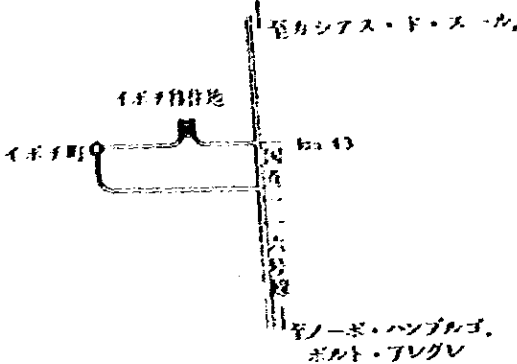
昭和53年10月現在

入植世帯数	入植数		入植世帯数		農家戸数
			戸数	人数	戸数
	区分	居住	15	262	15
		日本人	非居住	—	—
計		15	262	15	

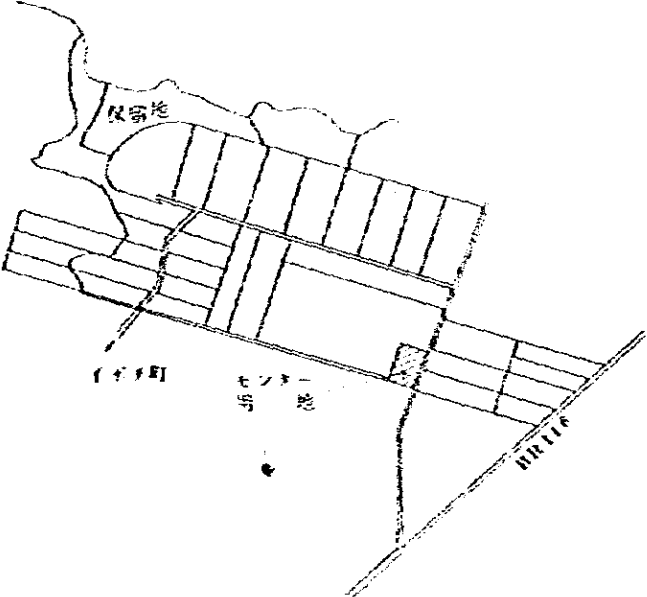
昭和58年4月1日現在

分譲状況	総面積	257.53ha
	ロッテ面積	107テ 584ha
農	分譲条件及仕終地確保	数人の地主より独立期成会が一括購入(事業団の融資援助)事後各人に分譲。全戸取得済
	主作物	ブドウ, カーネーション, カキ
業	農具の普及状況	イタリヤ種, 巨峰種などの生食用ぶどうを主作物としてこれに, ピワ, 柿, 柑橘, モモ等つ果樹及び蔬菜を組み合わせた営農を行っている。 トラクター0.2台, 耕耘機1.1台, 農具1.9台 他(昭和57農年度)
	営農指導機関	事業団ポルトアレグレ支部
業	営農指導	銀行,
	金融機関	イボナ農協
業	主作物取扱機関	各町ブドウ, 梨等を組み合わせた営農を行っていたが, 現在で日果農家人が全体の約85%を占めている。(昭和56農年度)
	その他	

地区略図



移住地略図



(3) イタチ移住地

所在地	リオ・グランデ・ド・スール州オゾーリオ移イタチ村 VILA ITATI, MUNICIPIO DE OSORIO, RIO GRANDE DO SUL.	
面積	139.5ha	
経緯	リオ・グランデ・ド・スール州の分益費移住者が中心となり、事業団の土地購入融資を受けて、昭和42年集地的に土地購入し独立した地区である。現在16戸が入植定住している。	
自然環境	地形	東は河どまりで、移住地の東半分はその河の沖積層の谷、西半分は丘陵である。谷と丘陵の間に小川と低平地がある。
	地質・土壌	玄武岩、結晶片岩を母岩とする褐色のラテライトで、有機質に富み水けけが良い。
	植生・林相	再生雑木林
	気候 (トールス市)	年平均気温 17.9℃ 平均最高気温 21.7℃、平均最低気温 14.1℃ 年間降雨量 1,123mm
社会環境	主要都市への交通手段	移住地～オゾーリオ市、ポルト・アレグレ市とも完全舗装(BR101)である。バスは直行1便運行している。
	イタチ村人口	500人 3km
	トールス市人口	2万人 60km
	オゾーリオ市人口	2万人 70km
	ポルト・アレグレ市人口	117万人 170km
	市場	ポルトアレグレ市が主市場、その他近傍都市。
	地区内道路舗装状況	幹道がイタチ村を環状に1周しており、移住地であるが雨天でもバス運行の中止はない。
	電気	電化済み。
	飲料水	井戸を使用している。
	公共施設	共同花立倉庫兼集会所(始発の融資援助)

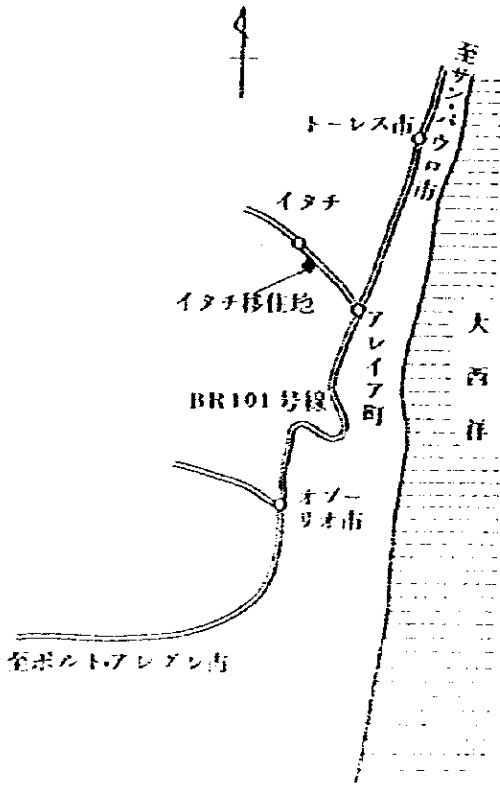
入 植 世 帯 数	入植数		入植世帯数		農家戸数
			戸数	人数	
	日本人	居住	16	92	16
		非居住	—	—	—
計		16	92	16	

昭和58年4月1日現在

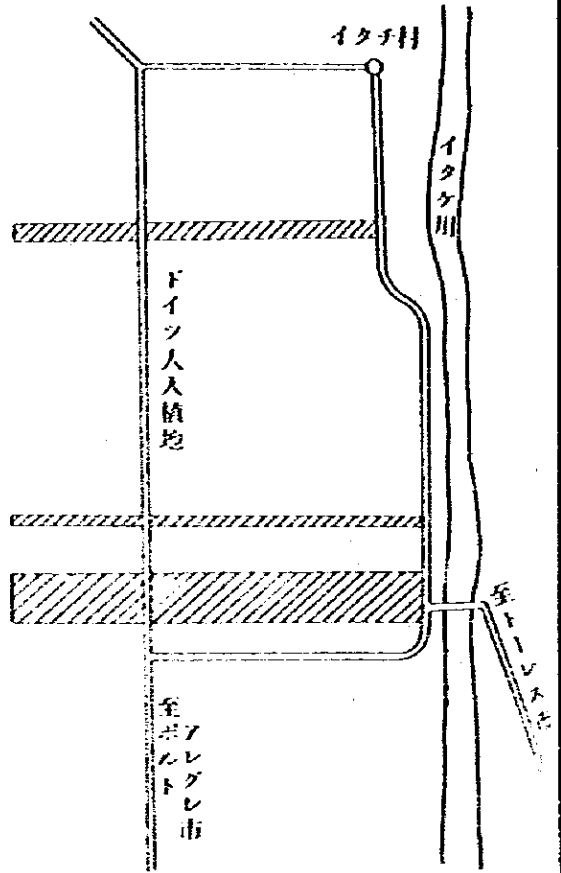
分 譲 状 況	総面積	1395ha			
	ロフト面積	1ロフト平均 14ha 但し一部入植者(6戸)は96ha			
	分譲条件及価格	13年転入者 7戸 ha当り 850 Cr\$ 事業ほ翠資金を含む現金一括払い 15年転入者 2戸 ha当り 1200 Cr\$			
	分譲状況	分譲済面積	未分譲面積	道路市街地等利用地	餘地
	1395ha	—	—	—	
地権取得	全戸取得済				
昭和56年9月末現在					

農 具	主作物形態	トマト、ピーマン、キュウリ、バラ、キク、カーネーション等。 トマト、ピーマン、キュウリ等の野菜専業及びキク、カーネーション、グラジオラス、バラ等を組み合わせた花専業経営に2分されている。	
	農具の普及状況	トラック0.7台、耕耘機1.7台、動力2.5台他(昭和56農年度)	
	家畜飼育頭数	馬0.1頭(昭和56農年度)	
	営農促進機関 営農指導	事業団ポルトアレグレ支部	
	金融機関	銀行。	
	主要取扱販売 店	ポルト・アレグレ市場の依託販売業者	

地区略図



移住地略図



(4) イタジャイ移住地

所在地	サンタ・カタリーナ州イタジャイ移 NUCLEO COLONIAL "RIO NOVO" ITAJAI, ESTADO DO SANTA CATARINA	
面積	60ha	
経緯	<p>昭和 44年、ラーモス移住地ネククリン祭の席上、IRASC総長、州農務長官、当時のブラジル農業開発院 (INDA) 駐在官等より、近い将来沿岸地帯に日本人を主とする農業衛星移住地を設定することについて、是非検討して欲しい旨要望があった。</p> <p>その後昭和 46年5月に至って、IRASCより正式にイタジャイ地区についての現地調査依頼があった。</p> <p>従来、イタジャイを始めとする近傍主要都市における農業生産は殆んどみるべきものがなく、果菜類の90%はサン・パウロ、パラナ方面からの移入者に頼ってきたが、鮮度が著しく落ちる上に高価であり、市民の食生活は極めて貧弱であった。</p> <p>そこで、日本人を中心とする農業衛星移住地を設定して、生産物を新設予定の市中央市場に直結させ近傍主要都市の新鮮果菜類の供給を確立せしめるとの具体的構想を持つに至った。</p> <p>市は土地の購入ロツテ造成、電気導入、住宅建設等をIRASCに、住宅建設費用の負担、州農業改良普及院 (ACARESC) は営農相談、融資あっせん、当事業団は日本人入植者の選考をそれぞれ担当し、昭和 47年に日葡混成入植を開始したものである。現在の入植定住者は6戸である。</p>	
自然環境	地形・土壌	沿岸平担低湿地 標高15m 表層部は、100~150cmの老朽有機物堆積、その下は水成岩を母岩とする砂質土と泥炭質粘土の混合土壌
自然環境	植生・林相	広葉樹の中に有用樹木が発生する常緑林で、60%程度は熟腐化している。 多雨温帯性気候 1971年(昭和46年)の観測結果、 年平均最高気温 27.66℃ 年平均最低気温 16.48℃ 年平均相対湿度 76.52% 年平均降雨日数145日で降着日数約、降雨量は1,589.8mmである。
社会環境	上巻松市への交通手段	移住地~イタジャイ市間はBR101号線南下3km、車で10分程度、BR101号線をひんがんに跨るバス便を利用。 BR101号線はフロリアノ・ポリス市、ポスト・アグレ市およびクラチーバ市、サンパウロ方面に通じている。 ショインピレ市 人口約8万人 BR101北上約50km イタジャイ市 人口約8万人 BR101南下約 3km

市 場	カンボリウ市	人口約3万人	BR101南下約5km
	フロリアノ・ポリス市	人口約18万人	BR101南下約85km
	ブルメナウ市	人口約10万人	BR101西方約35km
	ブルスケ市	人口約5人万人	BR101南西約30km
	イタジキイ市		
地区内道路整備状況	リオ・ノーボ川沿いに幅員8mの公共道路が貫通している。		
電 気	電気は創設に当り導入されている。		
飲 水	飲料水用水道は完備しているが、リオ・ノーボ川の川水を浄溜しているもので、水質は良くない。		

入とへ 内 地 員	人数	現地入植者
	戸数	
	人員	26

主な出身県名：北海道、熊本、高知、茨城

昭和53年10月現在

入 植 世 帯 数	区 分	入植数		入植世帯数	世帯戸数
		戸数	人数	戸数	戸数
	日本人	居住	6	24	6
		非居住	—	—	—
		計	6	24	6
現地人		3	3	3	

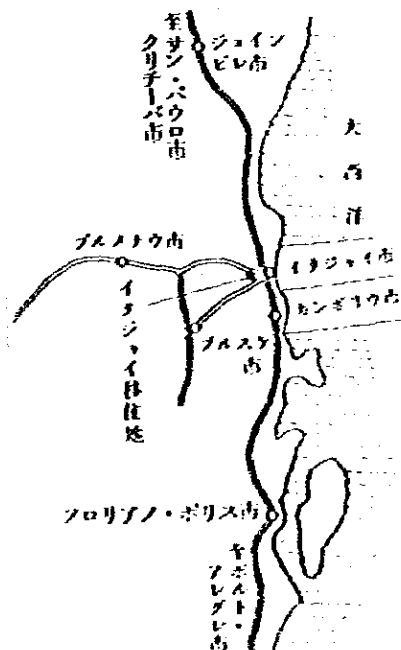
昭和58年4月1日現在

分 譲 状 況	総面積	60ha			
	ロツテ面積	1ロツテ6ha×10ロツテ			
	分譲条件及価格	1ロツテ価格、土地代・家屋建築費・造成費の合計 C:¥25,000 2年分償10年払い			
	分譲可能面積	60ha			
	分譲状況	分譲済面積	未分譲面積	道路市街地等利用地	冷 地
地権取得	全戸取得済				
	60ha	—	—	—	

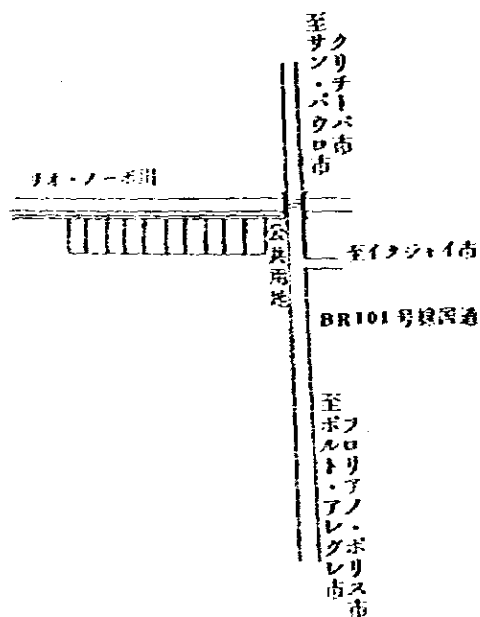
昭和56年10月末現在

農 業	主 作 目	キク、トマト、ナス等各種の近郊農業種で、目立った中心作物は設定されていない。
	形 態	キク、バラ、グラジオラス等の花卉。 トマト、ナス、カリフラワー等の農業を組み合わせた営農。
	農機具の普及 状況	トラクタ0.3台、耕耘機1.4台、動力1.6台 他(昭和56農年度)
	営農指導機関	
	営農指導	事業団ホルト・アレグレ支店 農業改良普及協会 (ACARESC)
	金融機関	銀行
	土作物取扱機 関	個人出荷(朝市又は個人売店等)

地区略図



移住地略図



(5) カッサドール移住地

所在地	サンタカタリーナ州カッサドール郡バイオール・ベレーヨ地区 NUCLEO COLONIAL "PAIOL VELHO", MUNICIPIO DE CAÇADOR, SANTA CATARINA	
面積	275 ha	
経緯	昭和15年頃、ラーモス移住地における日本人農家の果樹栽培状況を視察したカッサドール市長は、その成果に鑑み同郡内にも日本人を中心とした温帯果樹栽培を主とする小入植地を創設すべく、その可能性について検討を行い適地を物色した結果、農地改革に協力的な地主の所有地に決定し、市がこれを買上げIRASCの協力のもとに移住地を設定した。一方日本人入植者の選考に当っては、在リオ・グランデ・ド・スール州、サン・パウロ州の希望者の中から、当該カッサドール郡IRASCと協議の結果10家数を選定し、昭和18年3月第1陣として9家数、翌19年3月1家数の合計10家数が入植した。また近年、近傍地区への入植農家が漸増している。	
自然環境	地形	緩な起伏型、パナナ松よりなる森林にはかなり強度の傾斜が見られるが、全体的に見ればほんの一部である。標高900m~1,100m。
	地質・土壌	玄武岩を母岩とする砂壤土、有機質が比較的豊富、特に森林部には粗大有機質が堆積している。 pH 4.5~5.5
自然環境	植生・林相	雑木原生林(若干の有用木混生)と再生林および牧草地 大部分広葉樹、針葉樹はパナナ松の外2~3種で僅く一部、森林は密でない。現在森林はほとんど残っていない。
	気候	年平均気温 16.8℃ 平均最高気温 22.4℃ 平均最低気温 10.9℃ 平均年間降雨量 1,576mm 降雨日数 120日
社会環境	主要都市への交通手段	移住地~カッサドール市間は8km。(豊島築装州道) カッサドール市からBR116号線まで60kmは完全舗装。 BR116号線は、ボルト・アレグレ市およびサン・パウロ市、クラナーバ市に達している。
	市場	果樹の大部分とトマトはサン・パウロ市、及びリオ・デ・ジャネイロ市に出荷、その他は地元市場
社会環境	地区内道路整備状況	幅員6mの幹線道路(雨期は相當ひどく通行不能となることもある)。

飲料水	飲料水はロフテ毎に掘抜井戸施設あり
電気	電気は55年度末に州、県の協力により完全電化された。
公共施設	移住地内には、医療、教育等の公共施設はないが、カフサドールにあるものを利用している。事業所保護による大型トラクター1台(附属機一式を含む)。

人と 植人 戸数 数日	入植者 区分	現地人 植者
	戸数	14
	人員	

主な出身県名：福岡、茨城、青森、熊本、大分、静岡、東京、長野、長崎、北海道

昭和53年10月現在

入植者 数	区分	入植数		入植世帯数		農家戸数
		居住	14	60	14	14
	日本人	非居住	1	6	1	1
		計	15	66	15	15
	現地人		—	—	—	—

昭和58年4月1日現在

分 区 況	総面積	275ha			
	ロフテ面積	1ロフテ 25ha			
	分譲条件および価格	土地代(含家賃) Cr \$ 25,000、3年控償8年々賦貸利子 透貨価修正なし			
	分譲可能面積	周辺に購入可能な私有地あり(持価ha当りCr \$ 8,000~10,000)			
	分譲状況	分譲済面積	未分譲面積	道路法街地等利用地	除地
	275ha	—	—	—	
	地権取得	全戸取得済			

昭和56年10月現在

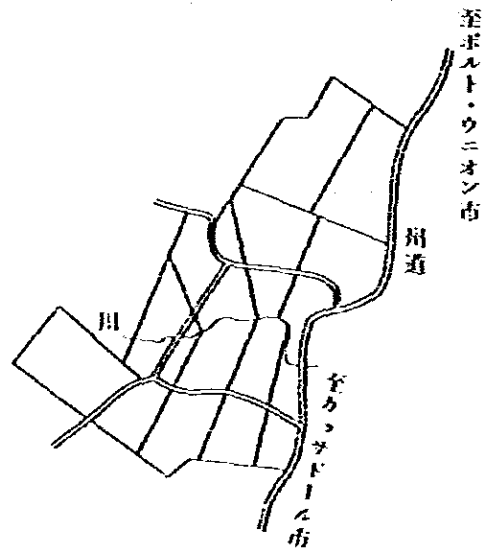
農 業	上作物	トマト、リンゴ、ニンニク
	形態	トマト、ニンニク、タマネギ等の野菜を主体に、リンゴ、スモモ等の果樹及びカーネーション、グラジオラス等の花を組み合わせた宮農
	農機具の普及状況	トラック1.4台、トラクター1.6台、鋤直1.5台、耕耘機0.6台他(昭和57農年度)
	家畜飼育頭数	豚0.2頭(枚)(昭和57農年度)

営農指導機関 営農指導	事業団ポルトアレグレ支部、州農業改良普及事務所 (ACARESC)、国立果樹試験場附属訓練センター (ヴィディアラ市) があり、カッサドール市に州立農業試験場、また市役所勤務農業に州の改良普及技術員が常駐し指導にあっている。
金融機関	銀行
主作物取扱機関	南米中央産業組合 (サンパウロ)

地区略図



移住地略図



(6) バジュー移住地

所在地	リオ・グランデ・ド・スール州バジュー郡フロレンサ村 VILA FLORENSA, MUNICIPIO DE BAGE, ESTADO DO RIO GRANDE DO SUL	
面積	26 ha	
経緯	昭和36年4月バジュー市近郊に分益農として、ブラジル人農場に入植し、以来段階的に借地営農にきりかえた4家族が、土地を共同購入し従来の蔬菜単作に果樹を加え、営農を安定させる計画をたて事業団が融資等でバックアップした独立移住地である。現在の入植定住者は4戸である。	
自然環境	地形	なだらかな起伏地形、移住地の境界をなすバジュー川に臨んで、ゆるやかに傾斜している。
	地質・土壌	赤色プレソー土地帯に位置しているが、暗灰色味をおびた砂壤土である。心土層は白い粘土質で、表土は浅く(40~50cm程度)軽い土で流亡しやすい。保水力も決して強い方でない。特に陽陰分が貧弱であるが、pHは5.5~6.5である。
	植生・林相	茂成の牧場の一部である。
	気候	高原内陸性の夏乾冬湿がはっきりした気象型である。年平均気温17.7℃、平均最高気温23.6℃、平均最低気温12.5℃、雨量1,311mm、降雪日数65日。
社会環境	主要都市への交通手段	バジュー市中心街まで3km、ポルト・アレグレ市までは370km、全線舗装されている。バジュー市は、ウругァイ国境より60kmの地点に存在し、軍事上重要任務をもち国境守備隊が配置されている。又、大農場に広く取り囲まれた市で、商業も活況を呈し、また市全体として極めて落ちついた雰囲気をかもしている。市内人口約10万人。
	市場	バジュー市、ポルト・アレグレ市
	地区内道路整備状況	私道であるが、良好な状態である。
	電気	電気は現在導入されていない。町役所に申請中。
	飲料水	飲料水は各ロッテに掘抜き井戸を設備している。
公共施設	移住地内にないが、バジュー市のものを利用している。	
人口	年 数	現在人口
内 地	戸 数	1
数 計	人 員	18

主な出身県名 長崎

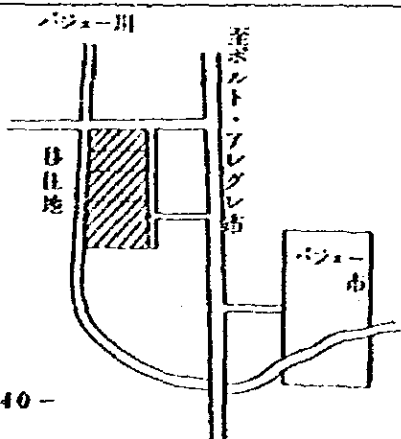
入植世帯数	入植数		入植世帯数		農家戸数
	区分		戸数	人数	戸数
	日本人	居住	4	15	4
		非居住	—	—	—
計		4	15	4	
現地人			—	—	—

昭和58年4月1日現在

分譲状況	総面積	26 ha			
	ロッテ面積	5 ha (3ロッテ), 11 ha (11ロッテ)			
	分譲条件および価格	ha当り2,000 Crで購入 周辺地価(時価Cr \$500,000~1,000,000/ha)			
	分譲状況	分譲済面積	未分譲面積	通路市街地等利用地	除地
		26ha	—	—	—
地権取得	全戸取得済				
	昭和56年10月現在				

産業	主 産 目	ぶどう他果樹および養蚕
	農機具の普及状況	耕耘機2.0台, 発動機2.2台他(昭和52農年度)
	家庭教育頭数	なし
	営農指導機関	市立既ボルトアレグレ支那が農務局地区改良普及所 を組織 銀行
主産物の取扱機関	バジャー市の目抜き通りで隔日移動朝市があるので直売小売を行うとともに、市内の農産物売業者に卸売りを行っている。またブドウは-移ボルト・アレグレ卸売場に共同出荷して委託販売を行っている。	

移住地略図



(7) クリシューマ(ファシナル)移住地

所在地	サンタ・カタリー州クリシューマ移住地 FORQUILHINIA, MUNICIPIO DE CRICIUMA, ESTADO DO SANTA CATARINA (NUCLEO COLONIAL "FAXINAL")	
面積	100 ha	
注	クリシューマ移住地は、炭坑関係者を中心として人口82,000人(1970年)の州内では屈指の経済成長をなしてきてきた工業地域であるが、近郊に野菜、果樹等の供給地がなく、これらの大部分をサン・パウロ、ポルト・アレグレ方面から移入していた。 そこで移住局はラーモス、イタジャイ、カサドル等協定入植地の例にみられるように、日本人中心の移住地を創設し、新鮮野菜等の供給ルートを確立するという構想をもつに至った。 1973年5月、IRASC及び移住局は、従来のように、これを協定移住地として旧JAMICを含めた3者の協定をもって設定することが最良の方法であるとの結論を得、具体的な検討に入った。以降3者の協定によって土地の選定、移住地計画の策定等検討を行った結果1973年12月IRASC、移住局、旧JAMICが協定者に署名し、ここにクリシューマ移住地の誕生を見るに至った。協定にもとづき、移住局は土地購入、コック養成、電気導入、住宅建設、IRASCは住宅建設費の負担、融資料を、旧JAMICは日本人入植者の選考をそれぞれ担当し1974年6月入植を開始した。	
自然環境	地形 植生・林相 気 候	低いなだらかな丘陵と低地が小段状形に続く丘陵牧場地等の一帯 ユーカリの植林が点在するほかは完全に牧野となっている。 多雲湿潤気候 平均最高気温 25.5℃、 平均最低気温 13.6℃、 平均相対湿度 81.0%、 降 雨 量 1,558.1mm
社会環境	主要私車への 交通手段 市 場	移住地からクリシューマ市の中心までは容易に築かれた州道21km、クリシューマ市よりBR101号線までポルト・アレグレ市までは30km、フロリアノ・ポリス市までは210km、サン・パウロ市は700km、定期直通バスが利用できる。 クリシューマ市 人口 8万人 県道 24km(州道) フロリアノ市 人口 7万人 50km(州道) フロリアノ・ポリス市 人口 17万人 210km(BR101号) ポルト・アレグレ市 人口 117万人 330km(") クリシューマを中心とする近隣都市を対象に野菜を供給。

地区内道路整備状況	クラシューマ市からバカリア市(リオ・グランデ・ド・スール州)に通ずる州道簡易舗装が移住地の境界線を通っている。
電気	電気は創設と同時に郡により導入されている。
飲料水	飲料水は郡当局により掘抜き井戸から、電力主水道で各戸に給水。水質良好。
公共施設	移住地内に公共施設はないが、クラシューマ市にあるものを利用。クラシューマ市内に4病院(600ベッド)、移住地より1kmの地点に小学校あり、7km地点のフォルキリーニヤ村に小、中学校がある。また、クラシューマ市には高校から単科大学まで完備している。事業団長課により中型トラクター2台を共同利用中。

入植戸数と員	入植者	8
	人員	25

主な出身県名：千葉、鹿児島、福岡、北海道、山口

昭和53年10月現在

入植世帯数	入植数		入植世帯数		農家戸数
	区分	居住	戸数	人数	戸数
		非居住	-	-	-
	日本人	計	7	26	8
現地人		2	2	2	

昭和58年4月1日現在

分譲状況	総面積	100ha
	ロッテ面積	1ロッテ区画 50,000クムゼイロ(60坪住宅付)
	分譲条件	頭金なし、2年据置 8年々賦 利息、価値修正等転負担
	地権取得	全戸取得済

昭和56年10月現在

農産	主作目	キ、ウリ、チン、トマト
	形態	キ、ウリ、チン、トマト、ニンジン等野菜の専業、ブドウ、柑橘、桃等が植付付けられている。
	農機具の普及状況	トラック0.3台、耕耘機1.1台他(昭和56農年度)

農 業	家畜飼育頭数	豚(成0.7頭・仔0.7頭), 肉牛0.3頭(成)(昭和56農年度)
	営農指導機関	
	営農指導	事業用オムト・アレグレ支部農業改良普及協会(ACARESC)
	金融機関	銀行
	主作物取扱機関	個人出荷